

商大レビュー

S h o d a i R e v i e w

Vol.32
2023.3

地域と
呼吸する
大学

- 06 学術講演会
何が起こるかわからない人生を、
愉しみ切り拓く。
しせいそくだつ
～至誠惻怛と企業経営～
- 16 フィールドスタディ
フィールドスタディの取り組み
- 25 フィールドスタディ
備前市三国・八塔寺地区農泊モニターツアー
笠岡市北木島農泊モニターツアー
- 28 地域連携
大学祭における地域連携
- 31 文部科学省補助金
令和4（2022）年度
私立大学等改革総合支援事業

Index

- 巻頭言
- 04 少子化社会における大学の使命
岡山商科大学 学長 経営学博士 井尻 昭夫
- 05 カーボンニュートラルの達成をめざして
旭電業株式会社 代表取締役社長 松岡 徹
- 06 学術講演会
何が起こるかわからない人生を、愉しみ切り拓く。
～^{しせいそくだつ}至誠惻怛と企業経営～
シップヘルスケアホールディングス株式会社 代表取締役会長 古川 國久 氏
- 15 包括協定
学校法人岡山瀬戸内学園との包括連携協定締結について
株式会社百十四銀行と協力企業4社から、学生支援のためのお米1,230kgが寄贈
- 16 フィールドスタディ
フィールドスタディの取り組み
- 20 フィールドスタディ
笠岡市真鍋島「道西喜代吉氏画集展覧会」
産学官連携センター
～所感～ 真鍋島公民館長 関東 奈保美
- 21 令和4年度 中国四国農政局インターンシップ
産学官連携センター
「中国四国農政局インターンシップ」に参加して 経済学部経済学科 3年 安藤 優宏
- 22 令和4年度 総社市インターンシップ
産学官連携センター
「総社市インターンシップ」に参加して 経営学部経営学科 3年 笹井 祐也
- 23 令和4年度 瀬戸内市インターンシップについて
産学官連携センター
「瀬戸内市役所インターンシップ」に参加して 経済学部経済学科 3年 大西 虎ノ進
- 24 瀬戸内市役所職員研修 発想法ワークショップ
経営学部商学科 教授 三好 宏
- 25 備前市三国・八塔寺地区農泊モニターツアーについて
産学官連携センター
「備前市三国・八塔寺地区農泊モニターツアー」に参加して
経営学部商学科 4年 浅野 李佳子
- 26 笠岡市北木島農泊モニターツアーについて
産学官連携センター
「笠岡市北木島農泊モニターツアー」に参加して 経営学部商学科 4年 天野 佑亮

- 27 **フィールドスタディ**
真庭市社地区における社祭りと竹灯ろうづくり
経営学部商学科 准教授 大石 貴之
- 28 **地域連携**
大学祭における地域連携
学生活動支援センター長 経営学部商学科 教授 吉田 信
- 29 **学生学外研修旅行**
2022 年度 学生学外研修旅行
学生活動支援センター長 経営学部商学科 教授 吉田 信
- 30 **科学研究費助成事業**
科学研究費助成事業への取り組み
- 31 **文部科学省補助金**
令和 4(2022) 年度
私立大学等改革総合支援事業
副学長 田中 康秀
- 32 **高大連携**
地域に期待される新しい特別活動への挑戦
倉敷翠松高等学校 校長 三谷 昌士
教諭 妹尾 幸二
教諭 児玉 聡志
- 33 **大会を通して模索する「専門高校の在り方」**
岡山県立岡山南高等学校 校長 桑元 秀明
教諭 熱田 みちる
- 35 **寄附講座**
(一社) 岡山経済同友会 ボランティア・プロフェッサー制度
ボランティア・プロフェッサーによるオムニバス授業
「岡山経営者論Ⅰ・Ⅱ」
- 36 **野村証券オンライン寄附講座について**
- 37 **キャリアセンター**
2023 年 3 月卒学生の就職活動を振り返って
- 38 **公務員合格者**
合格者の声
- 39 **教職課程**
商大塾に教員採用試験対策講座を開講
教職課程担当 経営学部商学科 教授 吉田 信
教職課程で学ぶ
法学部法学科 4 年 猪野 竜平
- 40 **慶應 MCC 夕学講演会**
『夕学(せきがく) オンライン』開催
- 42 **2022 年度「商大講座」**
商大講座のご案内
実績・メニュー一覧
- 44 **OPEN COLLEGE**
岡山商科大学 OPEN COLLEGE
社会総合研究所 所長 海宝 賢一郎
- 45 **学術トピックス**
著書紹介
『友好交流を求めて大和塾を探す旅
一歴史に埋もれた人々の足跡をたどる』
経営学部商学科 准教授 全 円子
著書紹介
『大系租税法第 4 版』
法学研究科 特任教授 水野 忠恒
著書紹介
『ユートピアのアクチュアリティー 政治的想像力の復権』
法学部法学科 講師 見崎 史拓
著書紹介
『医療組織のサービス・マネジメント』
経営学部経営学科 特任教授 門脇 一彦
著書紹介
『盗取されたキャッシュカードを利用した不正払戻しと
預金者保護法の適用(消極的)』
法学部法学科 教授 吉岡 伸一
著書紹介
『岡山商科大学 質保証のための全学マネジメントシステム』
副学長 田中 康秀
著書紹介
『岡山商科大学 教育シリーズ 1 データ分析
社会科学系のための Excel によるデータ分析』
経営学部経営学科 教授 西 敏明
著書紹介
『INSTITUTIONAL RESEARCH
岡山商科大学 教育研究の質保証体制を支援する IR の取組』
経済学部経済学科 教授 佐井 至道
- 49 **孔子学院**
2022 年度 孔子学院活動報告
孔子学院 学院長 経営学部商学科 教授 黎 曉妮
- 50 **商大塾**
2022 年度の商大塾を振り返り
社会総合研究所 次長
経営学部経営学科 准教授 吉良 友人
- 51 **資格試験講座**
資格試験合格者実績、合格者の声
- 53 **研究所から**
社会総合研究所後援会役員会を対面形式で開催
社会総合研究所 次長 吉良 友人
- 54 **所長挨拶 2022 年度活動報告**
社会総合研究所 所長 海宝 賢一郎
- 55 **創設以降の活動経緯**
- 58 **編集後記**

少子化社会における大学の使命

岡山商科大学 学長
経営学博士

井尻 昭夫



2022年12月21日の山陽新聞朝刊には「出生数80万人を割れ」という見出しが大きく示されていた。だれしもここでそれがどんな大きな意味を持つかについて明確な説明を付すことはできないだろうが、文面を読むにしたがってこれは大きな衝撃を与えるものであることがわかってきた。

我が国の人口は、1868年の明治維新の時が3,330万人、1945年の終戦時には7,199万人と人口は増加の一途をたどり、ピークの2010年に1億2,806万人を迎えた。

我が国の人口減少は、2015年に初めて確認され、5年前よりも約96万3,000人減少し、約1億2,709万5,000人となった。また、出生数は2016年の年間出生数が初めて100万人の大台を割り込み98万1,000人とどまった。

それがこの度は80万人を割ったというニュースが流されているのではないか。これをベースに将来を推計すると悲観的な日本社会の姿が浮かび上がってくる。

我が国の総人口は、40年後には9,000万人を下回り、今後100年もたたぬうちに5,000万人ほどに減少することが推計されている。まさしくジェットコースターのごとくである。

人口減は単に頭数の問題ではなく社会の様相を大きく変化させる。2020年、女性の半数が50歳を超え、全国民の3人に1人以上が65歳以上になると言われている。これだけではなく、3戸に1戸が空き家になるという。また、2040年には人口減少に伴い自治体の半数が消滅するという。また、市民社会を支えている小売店や銀行も地方から消えることが予測されている。予測は予測で不確実ではないかと思われるであろうが、予測のベースに確実は人口減と人口構成の変化を確実にとらえられていることから、今では考えられない社会が待ち受けているのである。

事実、日本では1947年～1949年と1971年～

1974年にそれぞれ出生数の大幅な増加がみられ、ベビーブームと呼ばれた前者の時期の方々には日本経済を牽引した「団塊の世代」と呼ばれたが、今では一大年金受給者に転じている。

この急速な高齢化は世界でも類を見ないスピードであると同時に、背後には急速な少子化がある。

このことは高齢者を支える若者の減少につながり、若者の負担増を余儀なくされるとともに社会の活力の低下をまねく。まさしく貧しい社会になる負のスパイラルに陥っていく宿命を生じている。

その結果、「失われた20年」「失われた30年」さらに「失われた40年」という言葉さえ出てきているが、一向に日本の経済は浮上しない。そのために日本の労働者の賃金は上がらないと言われている。

日本の企業社会は終身雇用制を美德とし、安定雇用と年功序列型賃金システムを特色としているだけに人生の経年に伴い必要とする給料が増加していくという一見合理的な賃金システムであったが、今やそれが逆作用に働き、高齢者が会社にしがみつき働かないという批判も生まれている。働き盛りの若い世代にとっても終身雇用は良いが、労働に対する対価が十分でないという不満もある。業績主義への移行が早急にもとめられるが、そうかといって現行体制を急速に変えるわけにはいかないことも事実である。さらに、日本の労働市場を欧米並みにすればよいという意見もあろうが、そう簡単な問題ではない。

若い世代の育成を委ねられている本学にとって、モノづくり資本主義体制から金融資本主義体制へ、そして情報資本主義体制へ移行している時の流れを真摯に受け留め、明日の社会を支える人材育成という我々に課せられた使命を改めて確認しなければならぬ。

カーボンニュートラルの達成をめざして

旭電業株式会社
代表取締役社長

松岡 徹



2020年10月、政府は2030年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。

「排出を全体としてゼロ」というのは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味しています。このカーボンニュートラルの達成のためには、温室効果ガスの排出量の削減と吸収作用を保全・強化する必要があります。

国際社会は、地球規模の課題である気候変動問題の解決に向けて、2015年にパリ協定が採択され、世界共通の長期目標として、

◇世界的な平均気温上昇を工業化以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求すること（2℃目標）

◇今世紀後半に温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と吸収源による除去量との間の均衡を達成すること等を合意しました。

この実現に向けて、世界各国が取組を進めており、120以上の国と地域が「2050年カーボンニュートラル」という目標を掲げています。

当社は、1950年に西大寺市（現岡山市東区西大寺）で創業し、以来、主にビル・工場・集合住宅等の電気工事の設計・施工一筋で事業を行っています。2012年には、電気工事で培った経験と実績をもとに、環境に優しく、持続可能なエネルギーとして太陽光発電事業に参入し、開発、工事から保守・保安業務まで一貫して社内に対応できる体制を整備しました。また、自社施設への再生可能エネルギーの積極的な導入や環境に優しいゼロエネルギービルを新築することにより、社内のカーボンニュートラルに対する気運を高めるとともに、様々なお客様のエネルギー消費量や施設規模にあわせた設備やシステムをご提案できるよう新たに環境エネルギー営業部を新設するなど、お客様の

カーボンニュートラルの取り組みを積極的にお手伝いしています。

最近では、世界的な燃料価格高騰に加え、ウクライナ情勢等を背景とした電力価格の高騰により、様々な業種・規模のお客様からのご相談も増加しています。この電力価格の高騰は、卸電力取引市場の価格も急騰しており、燃料価格・市場価格の高水準の状況は当面続き、大手電力各社が電力料金の値上を経済産業省に申請するなど、今後、電力価格はさらに高くなると予想しています。

これからは、発注者から取引先企業に対するCO₂削減要請が強まり、そのサプライチェーンの中のすべてに波及すると予想しています。今から、脱炭素経営を先取りすることで、お客様から「ここから製品・部品を買っても大丈夫」と選んでいただけるよう、そうした企業として生き残っていくことが喫緊の課題であると思っています。

再生可能エネルギーへの転換によって、天候などで発電量が変動する太陽光や風力発電量が増加すると、需要と供給のバランスの調整がリスクとなります。そして、再生可能エネルギーは、化石エネルギーに比べエネルギー密度（単位容積当たりに取り出せるエネルギー量）が低いという大きな弱点もあります。これが再生可能エネルギーの大きな課題であり、高コストにつながっています。さらに、設備の建設による環境破壊を懸念する立場や既存の利権者との関係の調整など、地域と共生していくことも一層求められます。

この需要と供給のバランスを安定させる手段のひとつに、蓄電池があります。蓄電池は電気を貯め、取り出すことのできる装置で、いま開発が進んでいます。今後の開発に期待し、新たな製品やシステムを率先して検証し、お客様に自信をもってご提案できるよう取り組んでいきたいと思っています。

何が起こるかわからない人生を、 愉しみ切り拓く。

しせいそくだつ
～至誠惻怛と企業経営～

講師：シップヘルスケアホールディングス株式会社
代表取締役会長

古川 國久 氏



略歴：
1945（昭和 20）年 4 月 27 日生まれ（77 歳）
岡山県新見市出身
1964（昭和 39）年倉敷商業高校卒業後、大阪の西本産業株式会社（現キヤノンメドテックサプライ株式会社）入社。20 歳のときに、現在につながるビジネスモデル「トータルパックシステム」（病院に必要なものをすべて一括でそろえるソリューション）を発明。
1989（平成元）年、同社取締役営業本部長就任。
1992（平成 4）年、(株)シップコーポレーション（現シップヘルスケアホールディングス(株)設立。代表取締役に。2014（平成 26）年より現職。

司会 ちょうどお時間になりましたので開始したいと思います。本日は、お忙しいところ岡山商科大学学会の学術講演会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。本日の司会を務めさせていただきます経営学部長の西と申します。どうぞよろしくお祈いします。

これより学術講演会を始めさせていただきます。本日は多数の参加者においていただきましたので、この 781 教室と、下の階の 773 教室、隣の建物の 841 教室、そして噴水を挟んで向こうの地域交流談話室、この 4 会場を ZOOM でつなぐ同時配信のハイブリッド方式で行います。最後まで、どうぞよろしくお祈いいたします。まず初めに、学長の井尻岡山商科大学学会会長より開会のご挨拶をさせていただきます。

井尻学長 ただいまご紹介を受けました井尻でございます。本日は講演会にすばらしい講演者をお迎えすることができました。きっかけは本学の同窓会岡山支部長と古川様のご親戚というご縁ですが、ぜひとも皆様方に古川様のお話を聞いていただきたいということで講演会が実現いたしました。本日は大勢の方にご参加いただきましたこと厚くお礼申し上げます。

申し上げるまでもございませんが、古川様は、企業と一般消費者をつなぐ B to C ではなく、ビジネスとビジネスをつなぐ B to B のビジネスで国内はもとより国際的にも活躍されておられます。ビジネスにおいて昨今話題の山田方谷の哲学を実践されているとのこと、非常にすばらしいこととございます。本日、わずかな時間ではございますが、古川様のお話を通して私たちのこれからの生き方というものを学んでいくことができればこの上ない幸せであると思ひます。

古川様、本日はおいでいただき厚くお礼申し上げます。心よりの歓迎の意を表したいと存じます。ありがとうございます。

司会 ご挨拶ありがとうございます。

それでは、これよりシップヘルスケアホールディングス株式会社、代表取締役会長の古川國久様のご講演「何が起こるかわからない人生を、愉しみ切り拓く。～至誠惻怛と企業経営～」に移らせていただきます。

まず、簡単ではございますが、古川國久様のご紹介をさせていただきます。古川様は岡山県新見市のお生

まれで、倉敷商業高校をご卒業後、西本産業株式会社、現在のキヤノンメドテックサプライ株式会社に入社され、20 歳のときに現在につながるビジネスモデル「トータルパックシステム」、これは病院に必要なものを一括でそろえるソリューションですが、これを考案されました。その後、同社の取締役営業本部長を経て、1992 年に株式会社シップコーポレーション、現在のシップヘルスケアホールディングス株式会社を設立し代表取締役に生まれ、2014 年に代表取締役会長として現職とされました。シップヘルスケアホールディングス株式会社は創業 30 年で、グループ総数 58 社、従業員数 1 万 3,000 名、売上高 5,000 億を超えるヘルスケアのサービス企業に急成長した企業であります。

それでは、古川様にご登壇いただきます。皆さん拍手をもってお迎えください。古川様、どうぞよろしくお祈いいたします。

古川会長 過分なる紹介をいただきまして、ありがとうございます。日頃は商人をしておりますので、学者風の話とか格調高い話は何ひとつ心得ておりませんので、^{ありがたい}有姿でお話し申し上げたいというふうに思ひます。

お手元に資料が渡っていると思ひますけど、こんな機会を本当に与えていただいて、本当に光栄に思ひています。今日は私も皆さんと一緒に学んで帰りたいと思ひています。人生を駆け足で、事業も駆け足で、人生を振り返って感じることに、そして未来を支える皆さんに何か残せればと思ひて恥をかくつもりで参っておりますので、どうぞよろしくお祈いします。

1 時間しかありませんので、飛び飛びになると思ひますけども、3 ページ目、1945 年の昭和 20 年 4 月の生まれです。終戦の前ですね。今日沖縄の悲しい 77 年目の話が新聞をにぎわしています。忘れかけてるところがあるかと思ひますけども、もう一度ウクライナも含めて、悲しい出来事が起きないように若人も一生懸命になつてもらいたいというふうに思ひます。

それから、社会人になるまでの話を 1 から 3 ページぐらいで話をしたいと思ひます。

幼少期は非常に波乱に富んだというか、アクシデントがたくさん私の周りに起きました。小学校 3 年生で生みの母親を亡くして、4 年生で今の育ての母親が嫁い

でくれまして、続いてすぐ6年生のときに父親が亡くなって、育ての母親は102歳でこの前まで元気でこの世にいてくれて、ずっと見守ってくれました。そんな中からいろんなことを学んだわけでありまして、その中の思い出を少しずつひもときながら皆さんに何らかの参考になったらということでスライドを作っています。

これは小学校1年生の学芸会の写真ですが、この真ん中のじいさん役をしているのが私で、あとは皆、女性なんです。私の代は、1学年1クラス、26人でした。小さい小学校でしたが、みんな仲よくやりました。この人たちがずっと中学卒業して、高校行って、高校を出てからもずっと支えてくれますね。だから、同窓生というのは大事にしなきゃいかんと思いますね。

次のページは、高校を卒業してから、みんな同窓会を毎年やろうということになって、それから毎年やります、今も。去年はコロナ禍の中、有馬温泉に無理を言って開けてもらって、楽しくやって帰りました。幹事は輪番制で、今年は倉敷のメンバーになってますので、倉敷かいわいのどっかでセッティングしてくれると思います。

次のページは、そんな中で祖父が、「國久、新見におつてもしょうがないで」。要するに大阪を見てみるということで、伯備線に乗って山陽本線で大阪に行って、まず「大阪城に登れ」、「大阪城の天守閣から四方八方をよく頭に、目に刻み込んでおけ」と、言ってくれました。それから、「心齋橋の大丸百貨店に行ってカレーライスを食べて帰ろうか」といって食べたり、それが大丸百貨店との出会い、これが後また人生に関係してくるんですけども、そういう出会いをつくってくれました。

そんなことで、この大阪城の真ん前、右が大阪府庁、左が大阪府警というところで大阪国際重粒子線センターを民間で初めて投資をして作りました。岡山県人の緒方洪庵が岡山から大阪へ出ていって大変なことをやっていますが、それには到底及びませんが、何か商人でできることはないかということで決断をして、初期投資に150億、それから毎年運転資金として6億ずつ4年間投資しましたが、来年くらいで軌道に乗ってくると思います。多くの前立腺をはじめ、膵臓、肝臓、肺がん、たくさんの方の生命を救っています。これはよかったな、銭もうけを超えてありがたいなというふうに思ってます。

これは近所の友だちとの写真。いつもごろごろごろして遊んでおりました。このような中で先ほどお話ししたように早くに生みの母親を亡くして、またタイミングというのか、本当に隙間なく育ての母親が嫁いできてくれて、親族が寄り添って育ての母親に兄弟3人任せていいかという親族会議が開かれたんですが、「私が残ってやります」ということになって、兄弟3人ばらばらにならずにこれから一緒に暮らしていくわけですね。

そうこうしているうちに、今度は父親が、私が6年生のときに、肺結核で早島に入院して、肺結核は治ったんですけども、輸血のミスで術後5か月目だったかな、とうとう亡くなっちゃったんですね。そんなことで、医療の関係がこの辺で遺伝子的に入ったのかなというふうに思います。

父はきつい人でしたけども、母親が亡くなって寂しそうにしたのが気になったんでしょうね。「ゴジラ」を見に行こうと言って初代「ゴジラ」を見に連れていってくれました。

そんなことで、いろんなことが小学校時代あって、それまでずっと成績優秀で級長をしてたんですけど、どんどん勉強しなくなってしまって、中学に上がってはもうさっぱり。中学は小学校が3つ一緒になりますので、私、新見の石蟹^{いしが}というところにある明新小学校の出身で、そこそこエースだったんですけど、同級生が「國ちゃんが勉強しなくなった」と小学校の担任の先生に告げ口をしに行ったんです。言いに行ったというのをほかの人から聞いたんですね。それで、いや、これはいかんということで、もう一度勉強を始めることにしました。

進路決定のときに、どうするかというときに、育ての母親がこの子は商人に向いてると思うので、商人の学校に行かせてほしいということで、越境入学の枠が5%あったんですが、それを使って倉商に進みました。新見から倉商に通う途中に方谷という駅があったんですが、もう皆さん岡山ですからよく分かるでしょうけど、私は方谷ということがよく分かってなかったですね。倉商に行って図書館で知ることになるんですけど。小さいときから産みの母親に「方谷さんようになりなさい」と言われてたんですが、それがやっとその頃になってつながるわけです。

倉商では、両親からの教え、そして山田方谷からの教え～「至誠惻怛」と「義を明らかにする」=いいことも悪いことも、明らかにして考えるということを学んだんですね。「至誠惻怛」というのはなかなか難しい言葉なんですけど、一旦覚えると忘れられない。でも、やることを忘れるんですね。やることを忘れないようにすれば、どっかにつながっていくと思います。

実は就職で、東京の会社も紹介されて行きました。でも、その会社、隅田川のほとりで、油臭いというか、当時は劣悪な環境のところにありましたね。ライオングループと関係がある人がいらっやったら当時のことですから許してもらえますかね。ライオンという会社でした。せっかくの紹介を学校がしてくれたんですけども、もうこれはやめようということで受けずに帰りました。最近はこの隅田川も本当にきれいになってます。だから、日本人というのはすごいと思いますけども、古くはそん

な状況の日本で、岡山でも水島をはじめ、いろいろありましたけど、それを克服してきてますよね。せっかく良くなってきてるんですから、この良さを続けていきましょう。

結局大阪の会社に就職しました。倉商を出ているので、最初は経理で希望を出してたんですけど、教育期間中に気が変わって、営業志望で出し直したんですね。そしたら、総務の当てが外れたんでしょうね。もう36人入った中で1人、倉庫勤務を命ずるということで、私一人、倉庫勤務に出されて悲しんでたんですけど、たまたま倉庫の管理人のご夫婦が、「古川君、倉庫は宝の山だよ」と。「あんたが本物を目指すんなら、ここでいっぱい材料があるから、しっかり勉強しろ」と教えてくれたんですね。それが商人のスタートになりました。

もうスライドにある通り、大変な重量運搬やら大変な空調機の据付けやら、レントゲンの現像装置の据付けやら、レントゲン装置の設置やら、そんなことばかりやってました。

それから、京都に営業の空きが出て転勤。でも営業が分からないので、ボストンバッグにオカムラのスチールの椅子のキャスターを入れて京都市役所中を直して回ってたら、国際会議場に関係する秘書課長の椅子が壊れてて、それを直してたら、直し方を気に入ってくれて、「君、なかなかやね。頼みたいことがあるから用度係のところに行ってくれ」と言われたんです。

そこに行ったら、京都の国際会議場の買い付けを文科省から委託を受けてたんですね。2か月後には入札しなきゃいかんという、その資料づくりを頼まれた。何とかそれがうまく役所の若い人と2人で仕様書ができて、できた上に落札もできたんですね。大変な額だったんですけどね。勤めてる会社の売上が45億のときに私の受注は13億でしたから、分からない部分は先ほど話に出た大丸百貨店に全部お願いして、分からないことは正直に分らないということで大丸の人も正直にサポートしてくれて、難なく国際会議ができる会議場が出来上がりました。

もともと病院に強いレントゲンのフィルムの会社でしたから、医療系にこのパッケージの方法を適用するようになっていったら面白いことになるんじゃないかなというのが、ここで医療のパッケージ化のヒントだったんです。考え続けると、あつという考えが湧いてくるものです。最近はずっと毎朝3時20分に起きてますけど、頭の中で今のビジネスは、次のビジネスはというふうに思考が渦巻くんですね。作曲家が曲が渦巻いて出てくるように、作詞家が渦巻いて詞ができるように、そんな商人としての渦が巻いてくるんですね。だから、商科大学の皆さんですから、商人としての渦が巻くように一度徹底的に考えてみてはどうでしょうか。一点突破でやったら、

必ずどっかへたどり着きます。

そんなことで、もう一つは京都の双ヶ丘に双ヶ岡病院という、岡山出身の方と後で知ったんですけど、お年寄りのおしめを駐車場で一人黙々と洗濯してる人に出会って、病院に行ってもなかなか誰にも会えないんですね。そのおじさんが何か教えてくれるかと思って行って、駐車場でおしめを洗う手伝いをしてたんですけど、なかなかその人も無口で何も言ってくれないやね。僕も意地になって、ずっと2か月か3か月通ってたら、やっとこさ腰からタオル出して、「君、何の用事や」と言われて、いやいや、これがこうでということで、ああ、そうかと。わしも岡山やと言っていたら、まあ、入れとって事務所らしきところ案内いただいて、ポケットマネーで缶コーヒーを出してくれて、反対にごちそうになって、何かあったらまた来いと言われて、それが縁で今では大変な取引をいただいています。老人系では日本で一番大きな病院になったんじゃないでしょうかね。元は精神病院だったんですけども、精神病のところも一部残ってはいますが、大半はお年寄り用になってますね。

それからもう一つ、飛ばしてはいけないエピソードがあります。京都第一赤というのが京都の東山にあるんですけど、この東棟が建て替えのときに飛び込みで行ったんですね。看護部長にお会いしたり事務長にお会いしたりする、いろいろ経緯はあったんですけども、看護部長にお会いしたことがきっかけでパッケージ化に成功しました。その許可を取りに事務局長のところに行ったんですけども、何回、扉の前まで3回ぐらい行ったかな。もう怖くて、格式が高過ぎたのかな。なかなか扉をノックする勇気が出ないんで、京極の銭湯に行って、ゆったりした気分で、もうこれは逃すわけにいかんということで、勢い込んで行ったら、鬼がわらのような人でした。うわっと思いました。そしたら「何や、おい、おまえ、まあ座れっ!」と言われました。座ったら、商人道の話をしてくれるんですね。「牛のよだれ」でした。だらっと、なかなか切れそうで切れないというのが商人だぜと。これを忘れるなど。一度付き合ったら牛のよだれのようにを忘れるなど。ここで基本形は学んだんですね。

また、氷のできない製氷機というエピソードもあります。夜、氷ができないんです。昼間はできる。おかしな製氷機ですよ。使えるときに氷がないといけませんよね。三日三晩泊まり込んで、ずっとナースステーションに泊まり込んで、音を聞いてたら、なんかぼとぼとぼとという音がするんですね、夜中に。夜というのは他で水を使ってないので水圧が上がるんです。だからうまく水がたまりずに氷ができない。こんなふうにメーカーに代わって解決したんですね。そんなことをしてたら、看護師長が気に入ってくれたんでしょうね。ちょうど11人の看護師長会をつくるので、「あなた、サポー

トしてちょうだい」ということで、送り迎えのサポート役を担ったんですね。「会はどういう名前にしたらいいと思う?」と言うから、とっさに「おぼんの会」がいいんじゃないですかと言ったら、看護師長は吹き出しながら、「あっ、それはいいわね」ということで、ずっと今「おぼんの会」が繋がってるんです。このきっかけを作ってくれた京都第一赤の師長さんは、その後全国看護師会の副会長さんまで行かれました。看護系の人脈は全国ネットになっていったんですね。

次は徳洲会のこと。徳洲会は日本で私立の病院で一番大きくなってますけど、徳田虎雄先生の最初の病院を手がけることになったんです。これを話したら、また1時間ぐらいかかるんで、本を読んでいただいて、また機会があればお話ししますけど、この人はもう大変な人でした。大変な人なんで誰もほかの商人がついていけないんで、私必死でついていったんです。だから、それからオープンする12病院までは、私は前の会社で全部やりました。あとは、今の会社になってからになってますけど。

でも、レントゲンのフィルムが主力の会社でしたから、私の起こした新しい部署というのは、なかなか古参の役員はいい顔を一切してくれないんですね。今の日経新聞の「私の履歴書」に住友林業の顧問の方が載ってますけど、商人道のことを書かれていますので、一からずっと読まれたらどうですかね。

1992年にとうとう外へ出てやろうということになっちゃったんですね。なったら、四十七士じゃないですけど、四、五十人がもうごそと一緒に出るということになってしまったんですね。しょうがないから会社を起こしたんです。最初は一人で医療系のコンサル会社をやろうと思ってましたけど、いきなり実業をやらなければいけなくなったんです。富士のレントゲンフィルムを近畿地区と中国地区でやることになったんですね。一気に事業を伸ばしましたが、アナログフィルムの寿命は当時もう10年と言っていましたから、計算どおり10年でアナログは終わり。その終わる手前で富士フィルムに事業譲渡しました。富士フィルムは直販部隊を持ってませんでしたから、富士もラッキー、我々もラッキーということで、今は富士とは非常にいい関係になってます。

「夢のスタート」とありますが、後で振り返ると何か格好だけはつけとるんですね。スタートしたときに、紅白の幕を用意して写真撮ってる。こんな暇があったのかなというぐらいやってたんですね。事業は30年ずつ、人生も30年ずつで区切ってみると、よく分かります。30年で物を見る覚悟ができれば一点突破できます。これは私の確信ですね。1年や2年では分かんない。

1992年というのは、時代の潮目が変わる年。それはそのときは分かってないんです。だんだんだんだん

銀行との付き合い、証券との付き合い、もちろんお得意先とも付き合いはありますが、だんだんだんだん厳しくなっていくという状況でしたけど、もう船出しましたから後に引けない。前へ行くのみということで、今何とか生き延びてます。

次はシップヘルスケアグループのことを少しお話ししておきます。今は58社ですけど、7月16日からまた仲間が増えて約70社になります。キングランというカーテンをベースにパッケージしていている会社さんがあるんですけど、日本のカーテンシェアの5割をやっている会社。そこのオーナーと昵懇になって、「もうあんたの会社と一緒にするのが一番いいと判断した」と、紹介者を交えてお会いすることになって、会った瞬間に握手だけでももう終わりましたね。先方さんもよく僕のことを調べてたんだと思いますけど、7月16日から連結決算の仲間になります。

いろいろしゃべってますけど、根底にはこのSHIPという理念経営を社の名前にするぐらい大切にしています。最初から七奉行と四十七士がしっかり話し込んで、もう何があっても、これを第一義で事業を、商人道を進めていこうということで始めました。今もずっとこのことはやってます。年に2回、春と秋に全国社長会がありますけど、一番最初にこのことを確認し合った後、それぞれの会社の事業の進捗、停滞、いろんなことを議論して助け合ってます。ですから、それぞれの会社がそれぞれの会社を助け合うというのが当たり前になっている。だから今まで一社も脱落する会社がなくて幸せだなと思ってます。でも、いずれはそういうところが出るかなあ?いや、ないね。ありがたいですね。

売上げの成長は棒グラフにするとこんなことですが、これは一生懸命やってきた結果ということなんです。ふらちなことでなくて、基本的な企業の姿勢、社員の姿勢、組織の姿勢がしっかりしてれば前進していきます。もし後ろ向きの話があったとしても解決できます。そう信じてやっています。

倉商時代にちょっと裏話もあって、アラン・ドロンの「太陽がいっぱい」という映画がロードショーになったんです。2年のときに。あの頃はまだ映画館には保護者同伴でないと入ってはいけないという校則でした。父兄とならいいのかと。同期に中原くんというちょっと老け顔の奴がいたので、「おい、中原、おまえ、俺の兄貴になれ。作業着を着てこいよ」と。それで、二人で「太陽がいっぱい」を見たんですね。この映画には参ったね。「悪は必ずばれる」ということをここで学びましたね。いっぺんこの映画は見てくれたらええと思いますよ。その白い帆影、白い砂、青い空、これをイメージするとSHIPですね。SHIP理念はこれにもかかるとるんですね。

そんなことで、皆さんもこれから会社を起こされるかもしれませんが、理念を最初にしっかり定めて、こぎ出してください。それもあれもやりたい、これもやりたいでは、なかなか成功は難しいですわね。一点突破、一点を納得いくまで極めて、そこからスタートされたらいいんじゃないでしょうかね。あれをやったり、これをやったりは後の話でいいと思います。

グループもこんなふうになってますけど、今は5つのセグメントで、各セグメントの責任者がこのセグメントごとに動かして行ってます。

この中でもスタートからの中核企業というのは、病院を新築サポートするという、建築設計のサポートから医療設備機械から中に入れる大きい機械から診療材料までパッケージにしてオープンをするという仕事をやっています。ここに出ているように、今日本の大学病院をはじめ、中核病院はほとんど仕事をさせてもらってます。でも、なかなか人を育てるのは大変で、10年で一人前。宮大工ではないんですけど、それくらいかかるんですね。1つのセクションを任せるのに10年かかる。これに耐えてくれば、全セクションのパッケージをテーマに大学病院の学長、理事長、事務局長と渡り合うことができる。だから、そういう社員を育てて行っています。

これがそうかな。津山中央病院というのは昔の結核療養所ですね、ここは。30年前に国が結核療養所を開放して近代化するという、国の第1号指定の療養所ですね。これはご承知のように、岡山の県北ではこの病院がないと地域の人みんな困るといふふうに成長してますね。県南は倉敷中央とか川崎医大とか岡大とか、しっかりした病院がありますが、県北にはありませんので、もう十分対応できてんじゃないでしょうか。これも、だから30年かけて結核療養所時代からサポートして、ずっと30年かけて、ここまでやってきています。

あとは、仕事だけじゃいけませんので、ガンバ大阪のスポンサーになってるんですけども、ガンバ大阪の発祥が1991年なんですね。私が飛び出したのが1991年。クリスマスイブの12月24日に役員会で辞任表明して、もうそこから会社へ行かなくなったんですけど、ガンバ大阪のスタートも1991年。当時とこがパナソニックの経理にいて、「國ちゃん、今入ってたら安い」と勧めてくる。でも僕はそんな興味ないんや言っても、3回ぐらい来たのかな。「まあ、だまされたと思ってサポートしてよ」と言われてからずっとやっている。入ってよかったと思ってますね。ファジアーノともその人は関係して、ファジアーノもうちちょっと頑張らないかんし、大阪のガンバも頑張らにやいかんね。ちょっと気合が抜けとるね。あさっ

てかな、監督が会社に来られますから話しします。ファジアーノも一緒になって頑張らしましょう。

それから、海外事業のことを少しお話ししとくほうがいいですかね。海外は、私25歳のときから行ってるんですね。岩谷産業の方と懇意になって、一緒にJICA（国際協力機構）の研修で西アフリカのシエラレオネへ行きました。大変なところでしたね。日本もまだ大変と思ったのに、もっと大変でしたね。もっと大変を知るといことは、いいことです。それから、帰って2年後にインドに行って、これも大変で、もう牛の数の方が多かったですね、道路に。人の方がまばら。この2か国は衝撃だったし、勉強になりました。

それ以降、いろんな機会を捉えては海外に行ってます。そうこうするうちに、海外でチャレンジすることになって、7年前にバングラデシュで病院づくりを始めました。バングラデシュと言えばダッカでハイジャック事件が昔あって、それに関わった日本赤軍の重信房子さんが、この前、刑務所から出てきましたね。実はその刑務所は国際法務病院と言って医療刑務所なんです。そこも私どもが運営してるんですね。東京の昭島市にあります。法務省から依頼を受けて。全国8か所あった小さな法務病院を1つの大きな総合病院にして、運営は全部私どもが今やっています。だから、少し法務的に問題のある人間に担当させてます。(笑)2年交代にしていますけど、しゃきっとして帰ってきますね。

バングラデシュでやっている病院は650ベッド。日本で初めて、日本人による日本流の病院ができました。三井物産とか三井商事が病院を買収して傘下に入れているのはありますが、一からつくったというのは、もう初めてですね。これは、今までいろんな実績を経験して、いろんな大学含めてのバックアップがあったりして出来上がりました。こういう仕事を通じて世界に貢献もできるということが出来始めましたので、我々も誇りに思ってます。

加えて、仏教国のミャンマー国とも非常にいい関係で、私どものトータルパックスシステムのような仕事をしている会社があったんですね。その会社のオーナーがオーストラリアに住まいを変えるということで、株をお渡しするので、この会社を息子と一緒に大きく育ててくれということで、受けて、育てることに成功して、今本当に親孝行な会社になっています。今は円安になってますから差額で20億ぐらい出るんですね。もうありがたいね。でも、為替は真反対になることもありますよね。だから、円の関係もよく勉強しといてください。

重粒子線施設のことは先ほどちょっと話しましたが、ここの施設一番最新鋭で、全陽子線、重粒子線施

設の中で、診療件数、治癒件数でナンバーワンになりました。大きな投資で、最初はどうなるかと思ったんですが、何とか目鼻がついてきたわけです。緒方洪庵もこんな思いでイノベーションをしたのかなと思います。その間、多くのがん患者、2,200人ぐらいかな、治療で完治して社会復帰されてます。これはそういう意味では銭金抜きでやりましたけど、神は放っときませんね。一生懸命やってたら採算が取れるようになってくるんですね。

これは切らずに治すということですから、本当に患者さんにとってはいいと思いますね。例えば、前立腺なんか手術してダヴィンチなんかでやると、もう尿意を感じなくなってしまってだだ漏れになるんですね。これは大変なんです。でも、重粒子線ですと、切りませんので大丈夫。だんだん読売新聞とかのマスコミも皆宣伝してくれるようになってきてますので、もう今は患者さんがさばき切れんぐらいになってきてます。

先ほど話した法務病院、これですね。今こんなすごいところで、罪を犯したことには変わらないんですけど、病人は病人ですので、日本の国というのはいい国ですね。同じ治療ができるようになっています。

それから、これは自動倉庫。新たなDXの時代に入って会社の投資の方法も会社の動き方も皆変えていっているんですけど、ここには全然人がいなくて、診療材料が全部個別包装までできるようになっています。これは日本で初めて。今まではもう人海戦術で医療消耗品を個別に袋に入れて、1日分をまとめて病院に届けるということをやっていて、なかなか効率化できなかったんですけど、できました。これを全国で4,5か所造れば、何とかなるでしょう。こういうことをやって医療費がかからないようにしないといかんですね。

あと、医療の仕組みというのは大学病院から開業医、保健所まで、ずっとつながるのが普通ですよ。今回のコロナで、それがつながってないのが分かりました。これはみんなでしっかり考えてちゃんとつながるように力を合わせていかなきゃいけませんね。

これは大阪に造った緊急医療施設です。こういうこともやっているんですね。秀吉の一夜城ではないですけど、10日間でこの1,000ベッドの施設を造ったんですね。もう大阪府もびっくりしてました。それはやっぱり日頃病院づくりをずっとやって、ポイントが分かっているからできるんですね。もう今は役目を終えて元通りになっています。

これは先ほど学長さんからB to Bというお話がありましたけど、基本形はB to Bなんです。世の中でマスクがなくて困っているということで、SHIPマスクというのを造ったんです。これは、昔アンネという生理用品ナプキンを作る会社があったんですけど、大



阪にそのナプキンを作る機械のメーカーがあるんです。今はユニチャームさんのおむつやらを作る機械を作ってる。その会社とはずっと年賀状のやり取りして、訪ねていったら、「あっ、古川さん、マスク？作ってあげるよ」って、もうお手のもんだとって、もうずっと作ってくれて、病院用仕様のものを売り出したんですけど、それがコンビニとかドラッグストアでも扱うようになってくれて、コンシューマー向けにも広がってきています。通常はB to Bの世界で、病院とか老人ホームとか、そっちでお世話になってますが、今はコンシューマーというか、学校とか役所とか、たくさん買っていただくようになっています。先ほど学長さんにもサンプルを渡してますので、よろしければ、どうぞ。

あともう一つは、こういうコロナウイルスも不活性化するイオン発生装置も3種類出してるんですけど、これももう売れまくってますね。だから、我々のグループ内ではコロナがあまり出なかったですが、ここ半年前くらいから家庭が発生源になってから、家族との触れ合いの中で社員も巻き込まれてちょっと多くなってますけど、もうほぼ解決していくんじゃないかな。要するにきちっと防御しておけば、コロナにはかからないと思うんです。

これは自動入浴装置のアラエル。グループに入浴装置とかリハビリの電気治療器とかを扱っている酒井医療という創業141年のメーカーがあるんですけど、この会社の作った新製品です。昭和45年の万博のときに三洋電機が人間洗濯機を出したんですけど、その時の技術者が残ってたんですね。その人に働きかけて、入浴装置の今流のものに衣替えで、技術的にも確認して作ってくれないかといって作ったらすごいのができてしまいました。

万博と言えば、もうすぐ2回目の万博が来ますけど、前は松下館だけ見たんですね。25歳の時です。そのときにたまたま松下幸之助さんも来てたんです。もうむちゃくちゃ暑い日で、炎天下で、多くの人が並ん

でる。幸之助さんはそれを見て、「お客様に日よけ用の帽子をお渡ししろ！」と指示をパツと出していましたね、そしたら翌日「すげ笠」、こんな段ボールで作ったすげ笠を用意して配ってました。それぐらいのあの人は創業者感覚というか、商人というか、お客さん思いというか、必要だと思ったらすぐやるんですね。そこですぐやるということも学びましたね。技術も学びました。万博というのは、いろんな見方があると思いますが次回は是非行ってみてください。

さっきご紹介した酒井医療の電気治療器を大谷翔平選手も使ってくれてまして、大変な効果があるようで、「シップさんね、私このおかげで今ホームランが打ったり筋肉の補正ができたりしてるんで、もう保険みたいに思ってるんですよ」と日本に帰ってくると酒井医療に寄ってくれたりしています。いい人やね、本当に。すごいよね。やっぱり筋が通ってるというか、自分の思う理念どおりに彼は来たんでしょうね。そういう人にやっぱり巡り会うんやね。うちはラッキーな会社ですね。

東京オリンピックも、選手村の医療施設をやらせてもらいました。病院の仕事が多いので、こういうものを作るときも瞬間的にどうすればいいかわかる技術とメンバーは揃っているんですね。ツボが分かるというか。要はね、ツボが分かるほど頭の中が渦が巻くようにならないと本物にならないと思うんです。改めて一点突破は大事。

ここは今まで飛ばし飛ばしで話ししましたので、お渡ししている SHIP の本をゆっくり読んでいただいたら、背景とかもよくわかると思います。ゆっくり読んでも3時間くらいで読めると思います。もっと早いかも。

それから、どう事業が派生してきたのか。「生命を守る人の環境づくり」というのは、最初から言っていることなんです。両親を早くに亡くしているということもあるんでしょうけども、生命を守るということの大切さと難しさがわかっているつもりなので、「よし、大切さと難しさをキーワードにしてチャレンジしよう」と。まだ当時は誰もこれにチャレンジしてなかったんです。そうするうちにだんだん裾野が広がってきて、今さっき言いましたようにコンシューマーにも延び始めてます。でも、基本はB to B。B to Bで揺るぎないことをしておかないと、コンシューマービジネスだけでは当てにならない。コンシューマー専門の会社はありますけども、それはもうビッグな会社に統廃合されていくでしょう。でも、コンシューマーの中にも、一点突破ができるB to Bの要素のものが必ずある。B to Bの中にもまだ一点突破のポイントがある。考え続けて頭にグルグル渦が巻くようになることが大

事です。朝3時20分から起きて朝刊と夕刊を読めば、だんだんそうなっていくですよ。

最近は少し欲張るといえるか、実際にグループ総数が70社近くになって、ほとんどのことができるようになりましたので、さらにウイングを広げようということで「ウェルビーイング」ということを言い始めています。要は「人々がよりよく生きる環境づくり」。本社は桃山台という御堂筋線から繋がっている梅田から20分くらいのところにあるんですけども、そこにある吹田市の桃山公園と江坂という町にある江坂公園の二つを私どもの会社が20年間にわたってPark-PFI（公募設置管理制度）で受けることになり、管理業務が始まっています。

緑って人が元気になるんです。そこに行かれる子供たちや家族の人、患者さんも時にはいらっしやるけど、そういう人たちにやっぱり元気になってもらわないといけない。今吹田市は年間3,000人人口が増えてるんですね。若い人が流入してきている。だからサービスが追い付いていない。岡山はどっちかというと人口は減っていったんじゃないですかね。北部に行くともう山だらけやね。イノシシだらけ。だけど、これも何とかせなあかんね。けど、一から腹を決めてやらないと、もうつまみ食いしてたんでは、いつまでたっても真庭郡（現在は真庭市）には負ける。真庭の林業は今すごいんですね。今からでも遅くないし、一点突破のポイントはどっかにあるはず。さっきも話した日経新聞の「私の履歴書」の住友林業の人。あの人も後発ですからね。後発であそこまで特徴のある住友林業にできて、本当にあの人も根性あるなあと思う。読めば読むほど根性のある人やね。上が何を言おうが、食らいついて初志貫徹しとるね。そういう人はええわ。

これから人々がよりよく生きるということをやイメージしたらいろんなビジネスチャンスが見えてくる。だから、できるだけ多くの人と意見交換して、まとめ上げていくことやね。それが、例えば、私は頭にこんな渦が巻いたんだけど、どうやと。こういうことが会話されていくと、うまくまとまっていくと思いますよ。僕、毎日渦が巻いたことを近くの人に報告するわけ。そしたら彼がそれをまとめて幹部に報告書を作るわけ。同じ渦を幹部が皆身につけるわけやね。だから、うちはアイデアを独り占めにする組織になってない。オープンの開かれた形がいいと思いますね。

いろんなことをやってるんですけど、掃除ということも創業から忘れずにやってます。会社に清掃会社入ってないから清掃代は要らないんです。それをボーナスに還元する。今日は当社のOBが一人来てくれてますけど、そうでしたよね？

あとはボランティア活動。桃山台の駅から会社まで

だいたい7～8分なんですけど、そこにプランターをずっと置いて、ずっと花の世話をしています。当時はもう人が住んでないような町で竹やぶばかりでしたから、道に街灯がない。役所に言ってもつけてくれない。調べたらアドブトライト、アドブロードっていう制度があって、自分たちでやるんならいいよと。街灯も付けて、道も掃除して…というのを自分たちでやってる。竹林が多いのに世話をする人がいなくなって、アドブフォレストっていう制度を使って、竹やぶの管理もやってる。

そんなことをずっとやってるから、役所もこの会社だったら公園を任せてもいいけるとちゃうかということになったんでしょうね。それを目当てでこういうことをやったんじゃないんですけど、これを先にやるから、そういうことに巡り会っていると、こういう順番やね。これも社長も新入社員も関係ない。僕も会社に行って、どのおっさんかと言われてるぐらいで、大したことないですよ。どんなことでもいいので、何か実行してみてください。その代わりに、やったらやめたらあきませんよ。やったら続けなアカンよ。一点突破できないよ。一度決めたことをやり通すというのが難しい。でも、やり通す。私は77歳になってますけど、3時20分から起きて気合入れてるんです。朝ぶろ入って、風呂の中でトレーニングして、最後水風呂にして、水かぶって、6時50分に会社行って、幹部会でわっとやってるわけやね。負けへんよね。他の社員もボーとしてられへんね。今はもう昔ほど激しくはないんですけど、決めたことはもうみんな守ろうということをやっているんです。

これもボランティアの写真ですね。落書き消してるの私ですけど、消すの大変。私が先頭に立って消していった。書くのと消すの、いちごっこやけど、もう大分書かんようになりましたわ。落書きするのが怖くなったんやろうね。社員もよく付き合ってくれていますね。土曜日、休みなんですけど、年に2回だけは家族と一緒に出てきたりしてサポートしてくれています。

1兆円企業を目指すというのは、最初の頃はホラを吹いていると思われてたみたいですが、最近、みんなそんなことは思わなくなったみたいです、これは行くでとその気になったんですね。経営者というのは、その気にさせるというのが大きな仕事。それは身を挺して自分で実践しないと、人はついてきませんからね。まだただか30年の会社ですから。こちらの大学はもうすぐ60年と聞いてますから、もう一回り、二回りの大先輩ですね。僕たちも60年たったら、まあそのときはもう私はこの世にいないんですけども、もっと長く勝ち残る会社でありたいなあと思います。この1兆円はもうしばらくで達成するはずですよ。今回も中

期3か年計画を発表していますが、それが達成すれば6,300億。そこまでいけば、もう1兆円は目の前になります。皆社員もその気になって、やろうぜとやってくれてますね。

当社の一丁目一番地は、「あいさつ・清掃・ボランティア」。これを本当に大切にしながらやってきてます。これができない人・組織は大成できません。これはよく頭に刻んでおいてもらったら参考になると思いますよ。ところが、私、家に帰ると、これは何にもできないんよ。ほんで、これだけはもう女房に申し訳ないと思ってますけど、幸いに女房は専業主婦なので、あなたの仕事を取るわけにいかないからと理屈つけて、もう家に帰ると、何もせんどこてんと寝てしまうんですね。奥さんもうらんでしたら、そういうのも一つありますね。最近、奥さんに養ってもらおうというのがありますけど。まあ、選択は自由であります。

会社のまとめのところに来ますけど、今申し上げたように、医療行為というドクター、ナースがされること以外は、僕たちの会社で全部できるようになってます。あと、病院経営のバックアップも何軒かやっています。それらを通じて実態を学ばないといけませんので。

もし今後起業をお考えなら、今日みたいな話を参考にいただければ面白い会社ができますし、この商科大学ももっと面白い大学になっていくんじゃないですかね。何かあったら、おっしゃっていただいたら、そのときはいろいろお話しさせていただきます。

未来を支える皆さんに何か参考にならないかなと思って、1か月ぐらい前からスタッフと相談しながら考えたんですけど、堅い話よりは、ふだんやってるざっくりばんな話のほうがいいかなということで、今日のような話をさせていただきました。何度かお話ししましたけど、私自身は母親の教えの「至誠惻怛」に守られ、その「義を明らかにして、利を計らず」という、この2つを起点にして会社を起し、会社運営を今もって続けてます。一生懸命やっていると、いろんな人が助けてくれたり、いろんな情報をくれたりするんですね。だから、とにかく「一生懸命とは何か？」と感ずるまでやってみることでしょね。

皆さんも悩みは多いと思います。私もいろんな悩みもあって、若輩で取締役営業本部長をやっていた会社を飛び出してまでやりたいことをやり続けてます。でも、前の会社は結局はなくなっちゃったんですね。あのときに私が提案したことをやっておれば、なくなることもなく、もっと倍速で会社は大きくなったと思いますね。人生いろんなことありますので、経営者になって是非参考にしてください。飛び出したくて飛び出したわけではないですが、飛び出したからには倍速で変

わらないと思返しできませんからね。一生懸命やれば道は開けますので、自分を信じて、何度かお話ししましたが、最後に一点突破するポイントを探さないと最後までやり抜くことができないですね。できないというのは一点突破が分かってないんですね。だから、一点突破を一旦決めたら最後までやり抜くということ。これは人生を振り返ると、結局そうなると思うんですね。

私も、まだ50%の人間で、家庭のことについては何にも分かってません。でも、仕事のことについてはある程度分かってる。バランスが取れてませんね。もう少し生かしてくれれば、家庭の方も取り返そうと思ってます。どっちも両立させなきゃいけません。今は優しい時代になってますので、私のような人生を全部を真似すると大変なことになりますので、いいとこだけを見ていただきたいと思います。一点突破のポイントを探して、今日は1年生の方が多く聞いていただいているんですかね？私も社会人1年生のときに岡山から大阪に出て、大阪から東京を知って、東京から世界を知るというふうにならずと駒を進めてきたんですね。せっかくこの大学で学びのスタートを切ったわけですから、勇気を絞って世界まで知って、自分は何を一点突破のポイントにしてやろうか？という決めごとをしていただいたらどうかなと思います。

以上です。あと最後に、「人間万事塞翁が馬」というスライドも載せてありますので、皆さん流に塞翁が馬を考えていただければ、今日の私のと重なってくる部分もあると思いますので、よろしく願います。以上です。本日はありがとうございました。

司会 質疑応答の時間をちょっと取っております。

古川会長 ああ、そうですか。

司会 皆様の中で本講演をお聞きになられて質問とかございましたら挙手いただきたいと思います。いかがでしょうか。

会場からはないようですので、私から1点教えていただきたいのですが、まさにパッケージ化して、様々なかたちに展開されてきたということですが、そのようなビジネスモデルだと現場で求められていることを掴むという、まさに「現場力」にかかっているということではないかと感じました。また、常に新しいものを吸収してパッケージに活かすということも必要になってくると思います。そういうことはもう最初の20歳のときから、もうずっと考えておられたということでしょうか。

古川会長 そうですね。やりながらノウハウをためていったということでしょうか。開業医さんの開業は7,000軒ぐらいいりました。他が3,500軒ぐらいい

かやってませんでしたから、倍速でオープンさせることができたということですね。その倍速でやる中で開業医さんを通じて医療の原点は勉強しましたね。開業する先生は若い先生ですから、私の経験したことを若い先生にお話し申し上げる。それがコンサルティングという仕事の原点になっているんです。しかし、最初コンサルティングで一生懸命やってたら、奥さんが、開業される先生の奥さんが薬剤師ということが多かったんですが、「コンサルでたまされて高いものを買わされるんじゃないの？」と言われてと言うんですね。それで、私はそれに気づいて、先生に「コンサルのお金はいただきます」と言ったんです。これが有料コンサルのスタートだったんです。それまではサービスでやってたんですが、お客様は「タダほど怖いものはない」と感じるんだということを現場で教えられたんですね。今は、全てのスタートはコンサルティングプロデュースです。ビジネスプロセスでこの機能を備えているのは日本のどこにもないと思います。ここに全ての需要がぶら下がっているんです。こういうお答えでよろしいでしょうか。

司会 ありがとうございます。

以上をもちまして岡山商科大学学会の学術講演会を終了とさせていただきます。

最後に、古川様にいま一度感謝をもって拍手をしたいと思います。どうもありがとうございました。

岡山商科大学学会学術講演会

**何が起ころかわからない人生を、
愉しみ切り拓く。
～至誠惻怛と企業経営～**

講師：
シップヘルスケアホールディングス株式会社
代表取締役会長
古川國久氏

古川國久（ふるかわくにひこ）氏経歴
1945（昭和20）年4月27日生まれ（77才）、岡山県新市町出身
1964（昭和39）年倉敷商業高校卒業、大塚の西本産業株式会社（現キヤノンメドテックシステム）株式会社に入社。20歳のときに、現在につながる大手製薬（トーケルヘルクス）に入社。1983年（昭和58）年、同社で薬学博士（薬学）取得。
1989（平成元）年、同社取締役常務本部長就任。
1992（平成4）年、同社取締役副社長に就任。同社（現：シップヘルスケアホールディングス）設立、代表取締役就任。2014（平成26）年より現職。

日時：2022年6月23日（木）15:00～16:30
場所：781教室、773教室、
地域交流談話室（岡山商科大学学生会館2階）

主催：岡山商科大学学会
協賛：岡山商科大学同窓会

お問い合わせ：岡山商科大学学術講演センター TEL.086-252-0642 FAX.086-255-6947
E-mail:sangakukan@po.ou.ac.jp

お申し込みはこちら

学校法人岡山瀬戸内学園との包括連携協定締結について

2022年8月4日（木）、学校法人吉備学園（岡山商科大学、岡山商科大学附属高等学校、岡山商科大学専門学校）は、学校法人岡山瀬戸内学園（倉敷高等学校）との間に、包括連携協定を締結しました。

岡山商科大学は、これまで2007年に協定を結んだ岡山市立岡山後楽館高等学校の他、本学附属高等学校（2008）、岡山県立津山商業高等学校（2012）、岡山県立和気閑谷高等学校（2019）、倉敷翠松高等学校（2022）と包括協定を締結し、専門知識の提供、課外活動での協力及び講座の提供による人材育成等を行ってきました。

倉敷高等学校は、“3 + 4”学習メソッドを提唱し、大学や専門学校との連携により、3年間の学びにとどまらず、その先の大学での4年間を視野に入れた学習機会を提供しています。この度の協定締結により、岡山商科大学での学修の機会を新たに提供するとともに、グローバル人材の育成、指導者の派遣及び交流及び教育施設の利用等でも協力を行っていく予定です。

倉敷高等学校は、“3 + 4”学習メソッドを提唱し、大学や専門学校との連携により、3年間の学びにとどまらず、その先の大学での4年間を視野に入れた学習機会を提供しています。この度の協定締結により、岡山商科大学での学修の機会を新たに提供するとともに、グローバル人材の育成、指導者の派遣及び交流及び教育施設の利用等でも協力を行っていく予定です。

協定調印式では、井尻昭夫理事長・学長から「文部科学省は高大連携による、円滑な教育の接続を助めている。「3 + 4」というメソッドを導入されている倉敷高等学校の取り組みは素晴らしいものがある。岡山の私学が力を合わせて新しい教育を推進していきたい」と挨拶がありました。岡山瀬戸内学園の本原康彦理事長からは「“ローマは一日にして成らず”という言葉があるが、地元岡山での教育が担う人材育成により、ローマを作り上げたような、人が自ら持つ潜在能力を引き出していきたい」とのご挨拶がありました。



株式会社百十四銀行と協力企業4社から、学生支援のためのお米1,230kgが寄贈

岡山商科大学では、新型コロナウイルス感染拡大による影響で、世帯収入やアルバイト収入が減るなど、経済的に困難な状況にある学生を支援するため、2021年4月に学生食堂の一部メニューに補助を行い、100円で食事ができる事業を行い、大きな反響をいただきました。それを受け、岡山ハーモニーライオンズクラブ、岡山青年会議所、卒業生からもお米やインスタント麺の寄贈をいただき、学生生活の助けとなりました。



2022年3月28日（月）には、株式会社百十四銀行と協力企業4社（ライフォス株式会社、和研ハーディ株式会社、株式会社ブックス、株式会社サンホーム岡山）から、学生支援のためにお米1,230kgを寄贈いただきました。

この事業は、百十四銀行及び協力企業4社が、百十四銀行にて発行した私募債※の手数料の一部を利用して精米を調達し、学生の支援に役立てるというもので、受け取った学生からは感謝の声が聞かれました。

※私募債は、会社が資金調達のために発行する「社債」の一つで、取引先金融機関等、特定少数の投資家に引受を依頼して発行する社債です。償還日には、発行企業から引受に対し、元利金の支払が行われます。

フィールドスタディの取り組み

本学は、「地域と呼吸する大学」、つまり地域に関する知識を有する人材育成及び学生の現場力、地域力を高めることなど、実践教育活動を必要欠くべからざるものと考えています。こうした考えのもとで地域実践活動を学生参画型で行うことにより、本学の学生の実践教育、教員の教育・研究活動をより多くの方に知っていただき、地域のみならずとのさらなる連携を実現してまいります。



1 真庭市北房「里山の交番」連携事業 打ち合わせと山陽新聞取材

2022.4.24

真庭市北房地区

商学科:2名

- かねて連携をしている北房観光協会と、学生による誘客イベント商品開発に関する打ち合わせを実施。
- その模様やこれまでの取り組みについて、山陽新聞社から特集「知を生かす 地域と大学」の取材を受けた。

商学科 教授 三好 宏



2 大学生災害ボランティア研修講座

2022.4.27・5.18

学内

法学部・経済学部・経営学部 学生75名

(教職課程履修者は原則必修)

- 災害が発生した際、率先して行動できる知識と態度を身につける。災害への備えなど災害ボランティア入門編を受講

商学科 教授 吉田 信



3 1年教養演習(吉田ゼミ) フィールドスタディ 「岡山後楽園の歴史と文化探訪」

2022.5.12

岡山後楽園(岡山市北区後楽園)

商学科1年教養演習履修者 9名

- 世の中を知る社会を知るシリーズ「地元岡山の歴史と文化・経済の研究」

- ゼミ生によるガイドで園内見学

商学科 教授 吉田 信



4 野村証券オンライン寄附講座

2022.5~12

野村証券岡山支店(オンライン)

法学部:1名、経済学部:6名、経営学部:7名、商学科10名

- 日々の市場動向を「週刊 野村市場展望(旧 Nomura Weekly)」を使用し、分かりやすく解説するオンライン講座。

- 「株価チャートの見方」など投資に必要な知識も身に付けることができる。

産学官連携センター

5 商学科1年教養演習合同ゼミ 「デートDV」人権教育研修講座

2022.5.19

学内

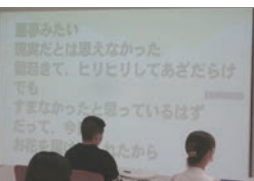
商学科

学生72名

- 青木ゼミ、内田太ゼミ、香月ゼミ、全ゼミ、松浦ゼミ、吉田ゼミ合同による開催

- デートDVの被害体験の紹介、詩の朗読会、デートDV危険度チェック

商学科 教授 吉田 信



6 岡山商科大学国際交流特別講義 - 孔子学院中国文化プログラム -

2022.5.21~8.5

岡山県立津山商業高校(対面・オンライン)

津山商業高校 生徒:6名

- 中国語を学ぶと共に、日本や中国の文化を比較しながら交流をする。

- 津山商業高等学校にて交流会を実施

岡山商科大学孔子学院 学院長 黎 晓妮、副院长 韓 雲冬

7 教職特別研修会 デートDV・ヤングケアラー 出前講座

2022.7.27

学内

法学部・経済学部・

経営学部 学生65名

(教職課程履修者は

原則必修)

- 岡山人権擁護委員会の皆さんによるデートDV、虐待、ヤングケアラーについての勉強会

商学科 教授 吉田 信



9 教職フィールドスタディ「日本銀行岡山支店」見学と経済動向の研究

2022.6.10

日本銀行岡山支店(岡山市北区丸の内)

経営学科及び商学科の教職課程「商業・情報」免許履修者8名

- 高校商業の教科書「ビジネス基礎」の金融の単元についての実地調査

商学科 教授 吉田 信



10 日ようび子ども大学 「キッズマネー教室」開催

2022.6.12

岡山県生涯学習センター(大学コンソーシアム岡山主催)

商学科FPコース4年生:2名、2年生:8名、1年生:4名

- 大学コンソーシアム岡山主催の「日ようび子ども大学」にて「キッズマネー教室」を開催。新型コロナウイルス感染症対策を施し、学生が主体となって参加児童27名に対して小学生向け金融リテラシー教育を行った。

商学科 教授 海宝 賢一郎



8 真庭市北房「里山里海交流館しんぴお」開所式の出席と設営補助

2022.6.4

真庭市北房地区

商学科:5名

- 北房観光協会が誘致した同施設の開所式に出席。

- その設営や片付けを学生が手伝う。

- 今回初めて訪れる学生もあり、関係者と今後の取り組みなどについて意見交換を実施。

商学科 教授 三好 宏





11 湯原温泉のイベント協力 (露天風呂の日、はんざき祭り)

2022.6.25～26・8.7～9

湯原温泉(真庭市)

商学科: 6名(露天風呂の日)

商学科: 11名(はんざき祭り)

●湯原温泉におけるイベント(露天風呂の日、はんざき祭り)に関する運営補助を行った。

●露天風呂の日では学生が神事の巫女役として協力するほか、露天風呂の清掃を行った。はんざき祭りでは、山車の引き回しや出店の運営、片付け等に協力した。

商学科 准教授 大石 貴之

商学科 准教授 ソ ユンゾン

商学科 准教授 全 円子



12 笠岡市真鍋島公民館との協働に関する 打ち合わせ

2022.6.26

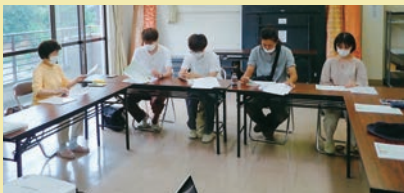
笠岡市真鍋島

商学科: 4名

●同公民館の歴史文化研究会が島の活性化のために実施する道西喜代吉氏画集展覧会とフットパス事業に関して学生協力依頼があり、その打ち合わせで訪問。

●打ち合わせ後は、その画集が描かれている地点の現地調査を行った。

商学科 教授 三好 宏



13 研究演習2年(大石ゼミ) 「後楽園・岡山城まちあるき」

2022.7.9

岡山市中心部

商学科: 6名(他、学生課が募集した学生が参加)

●岡山駅から後楽園までを歩き、城下町形成の特徴や後楽園の役割について解説するとともに、観察による情報収集を実施した。

商学科 准教授 大石 貴之(他、学生課教職員)



14 総社市インターンシップ

2022.7～9

総社市役所他

法学科: 8名、経営学科: 1名

●総社市との包括協定に基づくインターンシップ。

●学生が希望する部署に配属され、5～10日間、業務にあたる。経験したことに基づき、インターンシップ成果報告会で、市長等へ政策提言を行う。

産学官連携センター



15 教職フィールドスタディ 「第52回岡山県高等学校商業教育研究 大会」への参加

2022.8.4

ビュアリテいまきび(岡山市北区下石井)

経営学科及び商学科の教職課程履修者 10名

●岡山県下商業科の現職の先生方150名ほどが参加されている研修会。商業に関する講演会、研究発表、研究協議を行い、商業教育の推進を図る研究大会。

商学科 教授 吉田 信



16 笠岡市真鍋島にんにく関連商品製造補助

2022.8.8

笠岡市真鍋島

法学科: 2名、商学科: 1名

●真鍋島にんにく栽培研究会の方々と協働で、にんにくのオリブオイル漬け商品の製造を支援した。

●その模様を本学の日本テレビ系列「24時間テレビ」でのCMとして撮影、8月27日に放映された。

商学科 教授 三好 宏



17 テーマパークデザイン論

2022.8.22～25

徳島県名西郡神山町

商学科: 6名

●神山町における地域づくりの現状を把握するため、実際の活動や取り組みの様子を観察調査するとともに、移住者や地域づくり活動を実践する方々に聞き取り調査を実施した。

商学科 准教授 大石 貴之

商学科 准教授 ソ ユンゾン

商学科 准教授 杉本 敦



18 瀬戸内市インターンシップ

2022.8.22～9.2

瀬戸内市役所他

経済学科: 2名

●瀬戸内市との包括協定に基づくインターンシップ。

産学官連携センター

19 瀬戸内市役所職員研修 発想法ワークショップの実施

2022.8.26

瀬戸内市役所

法学科: 1名、経済学科: 2名、商学科: 3名

●市の依頼により入職5年目の若手職員研修として、「あったらいいな、こんなまち〇」をテーマにブレインストーミングとKJ法を実施。

●市職員19名に混じり、学生たちは積極的にアイデア出しやKJ法によるまとめ作業を行った。

商学科 教授 三好 宏



20 博物館学芸員課程フィールドスタディ 博物館館実習

2022.8.23～9.10

和気町歴史民俗資料館(和気町) / 新見美術館(新見市)

岡山シティミュージアム(岡山市) / 林原美術館(岡山市)

博物館学芸員課程: 4名

(法学科1名、経済学科2名、経営学科1名)

●各博物館現場で実習生が5日間以上、実際の業務を体験するとともに、学芸員としての責任感や博物館で働く心構えを学んだ。

●後日体験発表会を実施。

商学科 特任教授 福本 明

21 中国四国農政局インターンシップ

2022.8.29～9.2

中国四国農政局他

経済学科：1名

●中国四国農政局との包括協定に基づくインターンシップ。

産学官連携センター



22 観光地計画論

2022.8.29～9.1

蒜山高原(真庭市)

経営学科：1名、商学科：7名

●蒜山高原における観光の現状とその要因を把握するため、観光施設の経営者に対するインタビュー調査や、観察調査を実施した。

商学科 准教授 大石 貴之

商学科 准教授 杉本 敦



23 備前市三国・八塔寺地区体験商品開発に関わる八塔寺おこわの販売と地元の方とおこわ作り体験

2022.9.4、2022.9.8

備前市ひなせうみらぼ、三国・八塔寺地区

法学科：1名

商学科：2名

●地元が観光メニューとして力を入れる八塔寺おこわづくり体験や、昼食としての可能性を、ひなせうみらぼのイベントにおいておこわ商品を販売しながら、顧客の反応を調査した。

●9月8日には、学生自身がおこわづくり体験を地元の方3名と実施し、意見交換を行った。

商学科 教授 三好 宏



24 教職フィールドスタディ「岡山県議会傍聴」

2022.9.8

岡山県議会(岡山市北区山下)

経営学科及び商学科の教職課程履修者 12名

●主権者教育の研究

●岡山県議会9月定例会議代表質問を傍聴

商学科 教授 吉田 信



25 日韓学生未来フォーラム(ソウル研修)

2022.9.2～9.5

韓国ソウル東国大学

経済学科：3名

●日韓相互理解を目的として、両国の学生15名ずつ計30名が集まり、ワークショップや交流会を実施した。

経済学科 准教授 國光 類



26 笠岡市真鍋島「道西喜代吉氏画集展覧会」準備支援活動

2022.9.23～9.25

笠岡市真鍋島

法学科：1名、商学科：2名

●真鍋島歴史文化研究会が10月に開催する道西喜代吉氏画集展覧会の実施に向けて、岩坪・本浦両地区の会場設置や展示するパネル作成をのべ3日間行った。

●島に移住された金沢工芸美術大学名誉教授真鍋先生や地域おこし協力隊の武井氏と意見を出し合いながら行われ、学生たちのアイデアも多く採用された。

商学科 教授 三好 宏



27 日ようび子ども大学「学生交流活動報告会」への参加

2022.10.5

大学コンソーシアム岡山 地域貢献委員会・日ようび子ども大学実行委員会主催(ZOOM オンライン参加)

商学科 FPコース

2年生：8名(うち発表者：2名)

●大学コンソーシアム岡山の主催で「日ようび子ども大学」の学生交流活動報告会が開催された。中心となって活動したFPコース2年生が「キッズマネー教室」の実施報告を行った。

商学科 教授 海宝 賢一郎



28 備前市三国・八塔寺地区農泊モニターツアー

2022.10.7～10.8

備前市日生地区、八塔寺地区

法学科：1名、商学科：3名

●中四国農政局と連携している農泊モニターツアーとして、学生が観光事業関係者と共に参加した。

●日生島めぐりクルーズやうみらぼでのアート体験、八塔寺でのおこわづくりやブドウ、サツマイモ収穫体験を行い、学生たちの目から見た観光のあり方などについて意見発表した。

商学科 教授 三好 宏



29 真庭市社地区「社祭り」

2022.10.9

真庭市社地区

法学科：1名、経営学科：2名、

商学科：3名

●真庭市社地区に平安時代から祀られているお社の5基のお神輿の内、担ぎ手不足により、1基しか担げない状況から、学生を派遣し神輿を担ぎ地域活性化の一端を担った。

産学官連携センター



30 笠岡市真鍋島「道西喜代吉氏画集展覧会」運営補助

2022.10.15

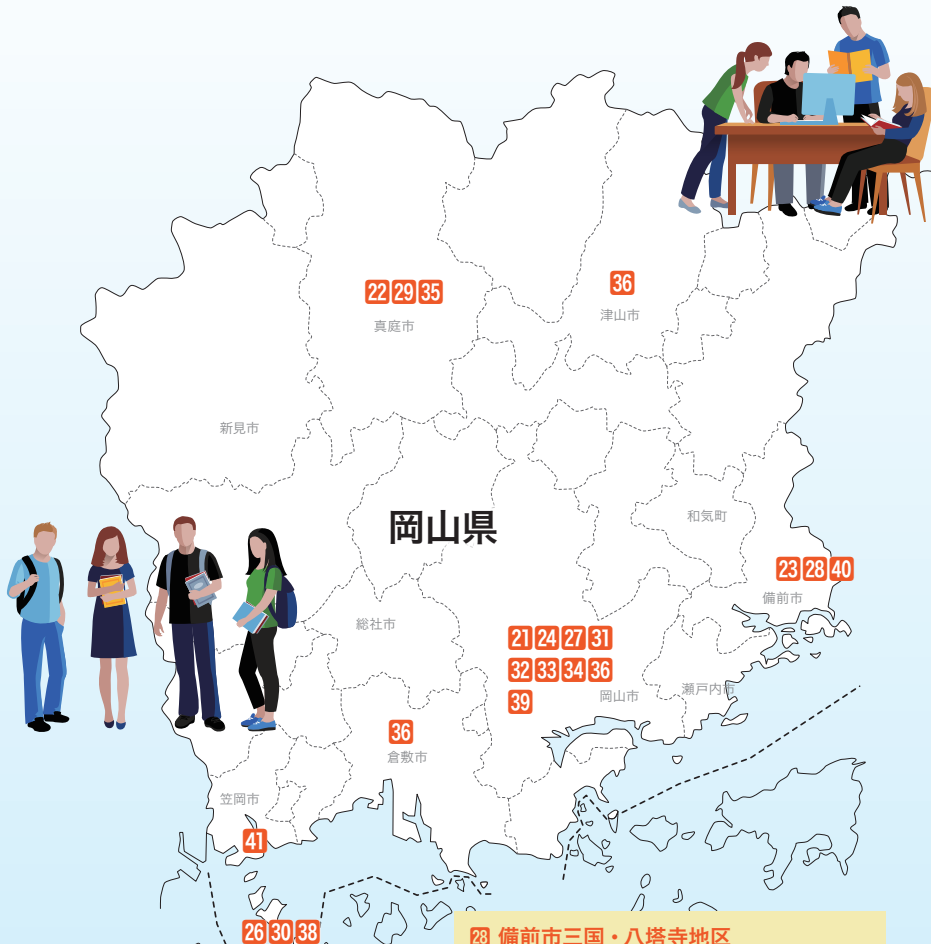
笠岡市真鍋島

法学科：1名、商学科：3名

●9月に準備を支援した展覧会が10月の各土日を中心に開催され、来場者に郷土料理が振舞われるその日に、学生たちが準備、料理の盛り付け・配膳・提供、片付けを手伝った。

●昼食時は地元の方と同じテーブルで交流を行った。

商学科 教授 三好 宏





31 教職フィールドスタディ 「岡山地方裁判所の見学と裁判傍聴」

2022.10.17
岡山地方裁判所（岡山市北区南方）
経営学科及び商学科の教職課程履修者 15名
●裁判員裁判についての研究
●広報官によるガイダンスや空き法廷の見学及び裁判の傍聴
商学科 教授 吉田 信



32 教職フィールドスタディ 成人年齢引き下げによる学生の皆さんへの影響について

2022.10.21
キーステーション：岡山地方裁判所（オンライン）
経営学科及び商学科の教職課程履修者 15名
●岡山地方裁判所主催による「成人年齢引き下げに伴い高校生・大学生に影響が及んでくる事柄」について説明を聞きながらの研究
商学科 教授 吉田 信

33 2022年度 情報教育対応教員研修全国セミナー 「第6回教育セミナー in おかやま」

2022.10.21～10.22
岡山コンベンションセンター（岡山市北区駅元町）
経営学科及び商学科の教職課程
「商業・情報」免許履修者 10名
●学校現場では2020年のGIGAスクール構想においてパソコンが生徒一人一台の時代になりました。その活用状況・方法についての報告・研究会および機器の展示会
商学科 教授 吉田 信

34 1年教養演習（吉田ゼミ） 「岡山県警察本部庁舎施設見学」

2022.10.27
岡山県警察本部（岡山市北区山下）
商学科1年教養演習履修者 9名
●世の中を知る社会を知るシリーズ
●広報官による警察業務についてのガイダンス
●通信指令室、交通管制センター等の見学
商学科 教授 吉田 信



35 真庭市社地区「竹灯ろう作製ワークショップ」

2022.11.13
真庭市社地区
法学科：1名、商学科：2名
●真庭市社地区にて大晦日に開催される「やしろ竹あかり」で使用される竹灯ろうを地域の方々で作成した。
商学科 准教授 大石 貴之
商学科 准教授 杉本 敦

36 博物館学芸員課程フィールドスタディ 博物館見学実習

2022.11.11～12.2
池田動物園（岡山市）／岡山県立記録資料館（岡山市）
岡山市立オリエント美術館（岡山市）
遺跡&スポーツミュージアム（岡山市）
倉敷市立自然史博物館（倉敷市）／倉敷考古館（倉敷市）
つやま自然のふしぎ館（津山市）
津山まなびの鉄道館（津山市）
博物館学芸員課程：4名
（法学科1名、経済学科2名、経営学科1名）
●県内の8施設を見学。
●展示とともに、非公開の収蔵施設や整理室などを担当学芸員に解説をしていただきながら見学し、理解を深めた。
●後日感想意見交換を実施。
商学科 特任教授 福本 明

37 日韓学生未来フォーラム

2022.11.4～11.7
駐神戸大韓民国総領事館、神戸大学、四天王寺ワッソ
経済学科：3名
●韓国総領事館への表敬訪問。
●日韓友好のイベントである四天王寺ワッソに参加。
経済学科
准教授 國光 類



38 笠岡市北木島農泊モニターツアー

2022.11.25
笠岡市北木島
商学科：4名（うち留学生2名）
●中四国農政局と連携している農泊モニターツアーとして、学生が観光事業関係者と共に参加した。
●北木島は近年観光に力を入れているところで、牡蠣いかだでの牡蠣試食、石切り場展望・湖舞台、光劇場などを巡り、その観光の可能性に対する意見を述べた。
商学科 教授 三好 宏



39 備前市三国・八塔寺地区農泊ツアー 商品の営業活動

2023.01.27, 2.24
岡山市内旅行社他5社
法学科：1名、商学科：3名
●学生たちが考えた観光ツアー商品を各旅行会社に営業を行い、それに対するコメント、アドバイスももらった。
●いくつかの課題は指摘されたが、商品自体はおおむね好評に受け止められた。
商学科 教授 三好 宏



40 備前市三国・八塔寺地区農泊ツアー 商品の磨き上げに関する現地予備調査

2023.2.5
備前市三国・八塔寺地区
商学科：2名
●農泊ツアー商品開発の一連の活動を引き継ぐ新参加学生が、現地予備調査として現メンバーが作成したツアープランの各地点を巡り、その魅力や課題などを把握し、次年度の活動に向けた準備を行った。
商学科 教授 三好 宏



41 かさおか干潟で野鳥を観察しよう イベントのボランティア

2023.2.11
笠岡市カブトガニ博物館周辺
法学科：1名、商学科：1名
●笠岡市の活性化に取り組んでいる任意団体かさおか貢献隊が主催する、標記イベントのボランティアとして学生が参加。
●観察の説明をする講師の補助をしたり、参加小学生の交通安全を見守った。
商学科 教授 三好 宏



笠岡市真鍋島「道西喜代吉氏画集展覧会」

産学官連携センター

岡山商科大学では、笠岡市との協定に基づき、調査研究活動や様々なフィールドスタディ活動を行ってきました。笠岡諸島の中でも、真鍋島では運動会への学生の参加、遊歩道の整備、圃場整備事業、赤にんにくの収穫補助、赤にんにく関連商品の販売支援等を行ってきました。

大学生が真鍋島を訪れることで、交流人口が少しでも増え、賑わいをもたらすことができれば、という細やかな取り組みですが、産学官連携センターを窓口にして2015年頃から活動を継続してきました。

さて、真鍋島には、昭和期に実業家の道西喜代吉（みちにしきよきち）氏が描き遺した絵画集があります。絵画には島の風俗、祭り、伝承などが精密な筆致で描かれており、第一級の民俗資料と評価されています。島ではこの絵画を活用した展覧会を2022年10月に計画しており、岡山商科大学へ準備と運営に協力して欲しいとのご依頼をいただきました。

2022年6月26日（日）、三好教授とそのゼミ生4名が真鍋島を訪れ、真鍋島歴史文化研究会の活動内容や画集展覧会について、笠岡市地域おこし協力隊の武井優薫さんから説明を受けた後、実際に絵画で描かれた場所を資料片手に巡りました。

岡山商科大学では例年8月に放送される日本テレビ系列「24時間テレビ」に協賛し、地域の活動を紹介していますが、2022年は真鍋島での活動を紹介していただくことにしました。8月8日（月）、学生と教員、テレビ局のスタッフが島を訪れ、真鍋島赤にんにくのオリーブオイル漬けの瓶詰め作業や、絵画で描かれた場所を巡る様子などを収録しました。8月27日（土）放送の日本テレビ系列「24時間

テレビ」では、真鍋島での取り組みの映像が「（岡山商科大学では）島の魅力を再発見し、交流人口を増やす活動を行っています」といったメッセージと共に放送されました。（岡山・香川）

会期が近づく9月23日（金）～25日（日）には、学生3人と教員が手分けして、絵画のパネルを作成掲示したり、島の地図に絵画の場所をプロットしたり、展覧会の会場設営準備の協力を行いました。

いずれの日程においても、地元の方々が美味しいおにぎりや唐揚げ、カレー、うどんなどを準備していただきましたので、学生、教員ともお昼ご飯の時間も待ち遠しく思いながら、楽しくお手伝いをさせていただきました。

展覧会は10月1日（土）の岩坪会館から始まり、10月5日（水）からは真鍋島保育所に会場を移しながら、10月30日（日）まで開かれました。10月15日（土）には学生4名と教員が運営協力のため、会場に足を運び、郷土料理の試食体験のお手伝いなども行いました。展示会には真鍋島内外から多くの方が訪れ、豊かな文化と歴史を持つ島の往時に思いをさせていました。

このフィールドスタディ活動について、真鍋島公民館長の関東奈保美様から、所感をいただきました。



商大ブログの記事は
こちらから ↓



～所感～ 真鍋島公民館長 関東 奈保美

岡山商科大学の『笠岡諸島観光調査チーム』の7人の学生のメンバーが島に來られ「地域の課題解決と観光の融合の実現に向けて」のテーマのもと、島民に向けて研究発表をされたのが2016年です。地域活性化のために従来にならぬ観光のあり方について考えることの必要性、島の魅力発信の重要性の提案でした。

今回の『道西喜代吉氏画集展覧会』は、1年半前から公民館講座の『歴史文化研究会』が中心となって企画準備をしてきたものです。道西氏の絵は、この島に人があふれ、現在では望むべくもない賑わいのあった時代を描いたものですが、わたし達の島民としての拠りどころにつながるという意味で、巧まずして島の歴史・文化の証にもなっています。それを島民にも島外の人にも伝えたいと思いました。

展覧会は好評で盛況のうちに終わったのですが、それを開催するに当たっては、岡山商科大学の学生さん達の助力が非常に大きかったです。会場設営から当日の運営のお手伝いはもとより、ポスターやチラシの作成、そして多言語による海外への情報発信と幅広くかかわっていただきました。また、2016年の提言からコロナ禍で活動が思うようにならなくなるまで、毎年のように島の活性化につながる様々な活動にかかわって下さっています。

人が減り、地域社会が縮小していく中で、わたし達一人ひとりがこの島でどのように生きてゆくの、ということが問われています。今回の展覧会をスタートに、島で生きている人間としての誇りをもって、今後も島の魅力発信につながる活動をしていきたいと思えます。2016年に提案のあった「島の魅力発信の重要性」がまさに一歩を踏み出したところですので、今後ともご支援をよろしくお願い致します。

令和4年度 中国四国農政局インターンシップ

産学官連携センター

本学では、2018年1月に農林水産省中国四国農政局と農泊（農山漁村地域に宿泊し、滞在中に豊かな地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」）に関する包括協定を締結しています。協定では、インターンシップに関することが定められており、2018年から希望する学生の受け入れをお願いしております。

2022年度は、経済学部経済学科3年生の安藤優宏さんをインターンシップ生として受け入れていただきました。

8月29日から9月2日の5日間、中国四国農政局農村振興課農村計画課にて農泊の推進に関する業務に従事しました。農泊事業の広報に関する業務、農泊に取り組む地域の支援に関する業務等を通じて、2021年度に農泊モニターツアー等で協力した香川県さぬき市へ現

地視察し意見交換を行い、また農山漁村の持つ課題を知ることで、その解決のためには、新しい知見が必要といった学びや気づきがあったようです。

安藤さんからの感想を以下に紹介いたします。



「中国四国農政局インターンシップ」に参加して

経済学部経済学科 3年
安藤 優宏

8月29日から9月2日の5日間、中国四国農政局農村振興課農村計画課にてインターンシップに参加させていただきました。

まず、中国四国農政局のインターンシップに参加しようと思った動機は、進路を考えるにあたって、公務員はどのような仕事をしているのか興味があったからです。さらに、中国四国農政局の雰囲気や農山漁村滞在型旅行（農泊）の推進にあたり、どのような取組を行っているのか気になり、実際に体験し、政策などについて詳しく知りたいと思ったからです。

インターンシップ初日は、業務説明や農泊についての説明などを通じて、農泊について理解を深めることができました。2日目、3日目は、農政局のwebページの作成業務補助や編集作業などの事務補助を体験し、行政の業務の具体的なイメージを持つことができました。4日目は、さぬき市津田地区への現地視察及び意見交換会に同行し、より実践的な場で学ぶ機会をいただきました。

特に、この現地視察及び意見交換会に同行させていただいたことで、人口減少が進むさぬき市津田地区のさまざまな取組や問題点について学習し、農泊についての関心をより高めることができました。特に協議会の方の「何かしないとさぬき市津田地区が衰退していく、町が元気に、関係人口が増えれば」という地域活性化に対する強い思いが印象に残り、私も地域のためにボランティアや町おこしなどに積極的に参加したいと思いました。

また、現地視察及び意見交換会の中で、私自身、現地の方々とあまり会話ができず、自分のコミュニケーション力の未熟さに気づくことができました。そのため、社会人になるまでに、社会人と交流できる場に足を運び、ビジネスにおけるコミュニケーション力を磨いていきたいと思います。

さらに、農山漁村は都市部に先駆けて人口減少や高齢化が進行しており、さまざまな社会的問題が表面化していることを学習し、このインターンシップ全体を通して、常に新しいアイデア・発想力が必要だということがわかりました。

この度は5日間という短い期間ではありましたが、中国四国農政局のインターンシップに参加させていただき誠にありがとうございました。このインターンシップで得た経験や考え方を今後の大学生活や就職活動に活かしていきたいです。

令和4年度 総社市インターンシップ

産学官連携センター

本学は2020年に県内10番目となる自治体との協定を総社市と締結いたしました。協定には、インターンシップに関することが定められており、3年目となる今年度は、公務員を目指す学生9名の応募がありました。受け入れ先は、事前に学生から希望のあった部署となっており、文化芸術課、市政情報課、都市計画課、企業誘致商工振興課など多岐にわたります。

実施に当たり、2022年7月28日(木)に総社市役所にて開講式が執り行われました。片岡聡一総社市長から「このインターンシップを通じて、楽しい、つらい、大変、いろいろな事を体験して大学の授業とは違う経験をして大きく成長してください」と激励の言葉がありました。本学から出席した三好宏産学官連携センター長からは、「市民の方々からは職員として見られている意識を持って社会人としての立ち振る舞いなどもしっかり身に付けて欲しい」との挨拶がありました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大も懸念されましたが、前期の講義が終了した8月上旬から、順次インターンシップが開始され9月下旬には、実習生全員が無事にインターンシップ全日程を終える事ができました。

その後、実習生からインターンシップレポート、インターンシップアンケート及び政策提言が提出され、12月26日(月)、総社市総合福祉センターにて、総社市インターンシップ成果報告会が行われました。

三好産学官連携センター長から「昨年度は、緊急事態宣言と重なりインターンシップが1日しか実施できなかった学生もいましたが、今年度は無事に全員が全日程実施する事ができました。お忙しいなか学生を受け入れてくださり、また政策提言の発表の場まで用意いただいたことに、市長をはじめ総社市職員の皆様に感謝申し上げます」と挨拶がありました。

実習生の横山英寿(法学科3年)は「普段の大学生活で



は体験のできない貴重な体験をし、市の職員の方々が本当に市民の皆様を大切に思い業務に当たられていると感じました」とインターンシップを振り返りました。そして政策提言へ移り、学生からは「マイナンバーカードの普及事業」や「防災意識向上のための取り組み」、「通学路の安全啓発活動」など様々な提言がありました。

片岡市長から「皆さんは今回の体験をもとに政策提言を行ってくれました。良い政策には①独創性②わかりやすさ③スピードが大切だが、1番忘れてならないのが、その政策の奥にいる市民の方々に対して「愛」があるかが大切であり魂を込めて情熱を持って臨まなければならない。知識は心のブレーキとなり、経験に基づく知恵はアクセルとなる。今回の経験を活かし今後様々な場所で頑張っていただきたい」との総括の言葉を頂きました。

最後に、片岡市長から一人ずつに修了証書と市長自らが揮ごうした色紙が手渡されました。

また、今回の政策提言のうち、潮優(法学科3年)「チュッピー*を用いた通学路の安全啓発活動『チュッピーは子どもの安全を見守るそーじゃ!』」、横山英寿(法学科3年)「大学生の防災意識向上のための取り組み『総社の危ないところはどこじゃろーか』」

の2件が政策提言優秀賞に選定され令和5年3月20日(月)に総社市役所市長室にて表彰されました。



※チュッピー・・・総社市イメージキャラクター

「総社市インターンシップ」に参加して

経営学部 経営学科 3年
笹井 祐也

今回、私はきよね認定こども園と総務部にてインターンシップに参加させていただきました。地元の町役場で働きたいと当初より考えており、今回のインターンシップを通じて実際に活躍されている職場の方々から、「地域に貢献する」その行動力やコミュニケーション力を学びたく、参加しました。

きよね認定こども園では、保育の分野について知識が全くなく、かなり不安がありました。実際に実習では、特に言葉遣いに気を付けました。言葉で端的に伝えなければ、子どもたちにはしっかりと理解してもらうことが難しいからです。そして、子どもたちの興味はそれぞれ違い、その園児たちに合った話題を探りながら、話をしていくことを努力しました。保育の現場は子どもたちと関わるだけでなく、日頃からの園内の草抜きや掃除などの環境整備、子どもたちが作品を作る上で刃物などの危険な道具を使わないように、予め用意しておく教材準備もすべて含めて保育であることを知りました。

総務部では、市役所での内部事務に少し触れることができました。その中でも、市民に向けていつでも情報開示できるように、膨大な文書を詳細な決まりによって管理するファイリングシステムがあることに驚きました。そして、円滑に業務を進めていくためには、「報・連・相」の徹底が重要であり、どんなに細かい疑問であっても部署内で確かめ共有し、チームとして解決していくコミュニケーションが取り合われていたことが印象に残りました。また、公務員として自発的に考え、自ら動き出し、目の前の情報だけを鵜呑みにするのではなく、広い視点を持って行動していく大切さを学びました。

今後の就職活動や就職後においても、今回得ることのできた経験を活かし、自己を磨いて参りたいと思います。

令和4年度瀬戸内市インターンシップについて

産学官連携センター

岡山商科大学は、瀬戸内市との間に2011年7月に包括協定を締結している。協定の第2条にインターンシップに関する条項があり、そのことに基づくインターンシップの実施について、瀬戸内市に提案したところ、快く受け入れについてご承諾をいただき、2022年6月にインターンシップに関する覚書を締結することができた。

夏季休業中に瀬戸内市で実施するインターンシップに参加する学生を募集したところ、2名の学生から応募があった。

瀬戸内市からの実施計画書に基づき、令和4年8月22日

(月)～9月2日(金)の土日を含んだ10日間の日程で行われた。インターンシップは、瀬戸内市全体の概要や、主要事業等について学んだ後に、総合政策部企画振興課で、政策調整や地域振興業務等を行うほか、福祉部いきいき長寿課で高齢者支援業務等に従事した。

インターンシップ終了後に、瀬戸内市から提出があった実施評価書では2名の学生共に、実習の態度、意欲、成果いずれの項目でも「A：大変良い」との評価をいただいた。受け入れ先アンケートの満足度調査でも、全ての項目で「満足」との回答があった。

「瀬戸内市役所インターンシップ」に参加して

経済学部経済学科 3年
大西 虎ノ進

私は8月22日から9月2日の2週間、瀬戸内市役所総合政策部企画振興課と福祉部いきいき長寿課の2課にて、インターンシップに参加させていただきました。

瀬戸内市役所インターンシップに参加した理由は主に自身の進路決定の参考にするためです。私は将来的に、地元である岡山に密着し貢献ができるような職につきたいと考えており、その最たる例である市役所という場所がどのように地域の方々と関わり、連携しているのかを自分の目で見てみたいと考えたためです。

実際にインターンシップに参加して感じたのが、全く毛色の異なる2課でも共通するのは、地域住民からの信頼や関係の良さです。地域住民の方との会話や雰囲気からそれらは感じ取ることができ、「この人たちがいるから瀬戸内市は円滑に回っているのだろうな」と思われました。

まず企画振興課では、主に瀬戸内市の総合政策の策定・進捗管理、空き家活用事業、公共交通事業の管理等を行っており、市がより快適で住みやすい場所になるような街づくり推進を行っていました。今まで住んでいる方だけでなく、今後瀬戸内市を訪れる方のためにも瀬戸内市を良くしていくための政策を多数行っていました。

次にいきいき長寿課では、資格給付、介護保険、高齢者支援、生涯現役の4つの係があり、それぞれ地域の高齢者の方々が、いつまでも瀬戸内市で元気に暮らしていけるような取り組みを行っていました。例えば、地域のコミュニティセンターに高齢者で集まって健康を維持しつつコミュニティを形成するための活動や、老後の趣味を増やすためのスマホアプリの使い方講座等を行っており、行政として老後の生活のサポートを最大限行っていました。

今回のインターンシップは、今後の自分の就活の軸をしっかりと定めることのできた良い経験だったと感じています。この「地域に密着して社会貢献を目指す」という軸を実現できるように就職活動に励んでいきます。



瀬戸内市役所職員研修 発想法ワークショップ

経営学部商学科 教授 三好 宏

瀬戸内市役所の依頼を受け、入職5年目の若手市職員の研修として「発想法ワークショップ」を、2022年8月26日に実施した。このワークショップは、もともと岡山商工会議所が主催する会員企業向けの研修事業として本学が請け負ったもので、2013年に始まった。その後個別企業・団体に対しても実施され、新型コロナ禍前では、多い時で年5、6回開催する年もあった。基本的な内容は、テーマに基づいてブレインストーミングとKJ法のグループワークを行うというものだが、他と異なるのはそこに本学の学生が数名入るといことである。それにより社会人同士とは違った視点でアイデアが生まれ、斬新な発想につながったりできる。さらによりユニークな発想を引き出すために、被り物などを用いて普段とは違う格好でいけば遊び感覚の中から、日々の業務を見つめ直してもらおうという効果も狙っている。

さて、今回は市職員19名に、その時期市役所でインターンシップを行っていた2名を含む6名の学生が加わった。それを4グループに分け、自己紹介を兼ねたアイスブレイクゲームを行ったのち、午前の部のブレインストーミングがスタートした。テーマは「あったらいいな、こんなまち♡」に定め、自由に自分たちが考える理想のまち、実現したいまちを発想してもらった。時には互いに見つめ合うままなかなか始まらないという場合もあったが、そこは市職員、どのグループも積極的に発言があり、「ジェットコースター

で移動できるまち」、「副業可能な公務員のまち」など見る間にアイデアが書き込まれたカードが机の上に広げられていった。

午後はKJ法によって、出されたそれらのアイデアを、似たもの同士に分類していく作業に移った。ただし、KJ法は単なる分類の手法ではなく、開発者の文化人類学者・川喜田二郎先生がいみじくも『発想法』（中公新書）と名付けたように、これは発想するための手法である。1枚のカードが語る内容は考えれば考えるほど多様に解釈できるし、その作業の中でアイデアを出した時点とは異なる意味が発見（発想）できたりもするからである。

実際は時間の制約もあり、そこまで1枚のカードを多角的に検討することは難しいのだが、参加者たちは精一杯その方向で取り組んでくれた。そして予定の時間通り、各グループは出したアイデアをまとめ、その成果を報告した。

同じテーマでもそれぞれ違うアイデアが出されたり、そのまとめ方も特徴が出されたりしていたように思う。学生たちも初体験者ばかりであったが、積極的に発言、まとめもしっかりと意見を述べたりと、非常に良い経験となったに違いない。研修を企画した瀬戸内市役所総合政策部企画振興課・仁科氏からは、「ぜひ次年度もお願いします」とのお言葉を頂戴したので、まずは成功といってよいだろう。



備前市三国・八塔寺地区農泊モニターツアーについて

産学官連携センター

中国四国農政局が行う「農泊（日本ならではの伝統的な生活体験や農山漁村地域の人々との交流を楽しむ農山漁村滞在型旅行）」事業推進のため、農山漁村で行われる農泊モニターツアーに参加協力し、観光商品がより良いものとなるよう提言を行っている。

備前市三国地区農泊振興協議会との連携事業が進んでいる。2021年度、モニターツアーでは2021年11月12～13日に、商学科学生2名が古民家再生会社社長やせとうちDMO職員といったプロの観光関係者6名と一緒に三国・八塔寺地区を訪れた。そこは豊かな里山に囲まれ、特に八塔寺周辺はかやぶき屋根の住居が今なお残る、まさに日本の原風景といってよいところである。学生たちは、八塔寺ダム見学、三国溪の紅葉狩り、八塔寺の里散策、五右衛門風呂や囲炉裏があるかやぶき住宅での宿泊、地元お母さんたちによる八塔寺おこわの試食、備前焼陶芸体験などのメニューをこなし、意見交換会ではマーケティングの視点から今後の観光のあり方について提言を行った。続いて観光商品の開発に向け、2022年1月16日と30日に現地再視察と商品化のための学生主体のワークショップを実施した。2月27日にはそれらをまとめた商品化プランを地元団体の前で報告した。

2022年度もこの事業は商学科を中心とした4名の学生に引き継がれ、9月4日に農泊体験商品化セミナーとして、備前市日生のひなせうみらボでおこわの販売体験を実施。9月8日に八塔寺でおこわ作り体験を行った。さらにそれを受けて10月7日、8日には、モニターツアーに参加し、7日はひなせうみらボで海ごみを使用したアートクラフトづくりと島めぐりクルーズ体験後八塔寺コテージに宿泊。翌日は、午前中におこわ作り体験とブドウとサツマイモの収穫体験を行い、昼食に八塔寺おこわを試食、午後からはプロの観

光関係者とともに意見交換を行った。

また、関連した事業として、備前観光協会が業者に委託して制作するプロモーション動画の撮影が11月12日に行われ、モニターツアーに参加する学生4名が出演者として協力した。ドローンも使用した本格的な撮影で、学生たちはディレクターの指示に、自然な表情や生き生きとした演技で応え、八塔寺の魅力を十二分に伝える、訴求力のある動画が完成した。

学生たちはこれらの経験をもとに観光ツアー商品を検討する為に何度もミーティングを重ね、最終的に農泊とプロカメラマンによる撮影を組み合わせたプランを考え、2023年1月27日に岡山市内の各旅行代理店でプレゼンテーションを行った。そこでいただいた意見を元にさらにブラッシュアップを行い、2月24日に、地元で最終商品案を発表した。



「備前市三国・八塔寺地区農泊モニターツアー」に参加して

経営学部商学科 4年
浅野 李佳子

私は昨年から活動している備前市にある八塔寺でのフィールドスタディの一環で備前市三国・八塔寺地区農泊モニターツアーに参加しました。八塔寺は、岡山県備前市の北部に位置し、映画のロケ地にもなったことがあり、茅葺き屋根の古民家や古くから歴史のあるお寺、郷土料理である八塔寺おこわが特徴的です。この八塔寺を観光地化するために、今回備前市三国・八塔寺地区農泊モニターツアーが開催されました。参加者は、観光業界の方やインフルエンサーなど私たち大学生を含め10名程度参加していました。私たちは、このモニターツアーでは参加者兼主催者という立場でもありました。なぜかと言うと、以前に地元の方から八塔寺の郷土料理でもある『八塔寺おこわ』の作り方を教えて頂きました。それを観光商品化する取り組みを行っており、今回2日目の昼食で他の参加者へ振る舞う行程があったからです。ツアーは1泊2日で行われ、1日目は、カキ入りお好み焼きなどが有名な備前市日生地区を訪れ、海ごみを使用したアートクラフト体験や島めぐりクルーズを体験しました。2日目は、ぶどうや芋掘り収穫体験などを行い、『八塔寺おこわ』を昼食に振る舞って、意見交換会に参加しました。この意見交換会では、プロの視点から見た感想や指摘、アドバイスなどがそれぞれ参加者から述べられました。今回モニターツアーに参加し、普段では接することのない方とお話ができたり、私たちとは違った視点からの意見などが聞けたりと、学ぶことがとても多かったです。また、主催する側の準備や気持ちがわかり貴重な体験になったと思います。八塔寺のフィールドスタディは、この他にも自分たちが考えたツアーを旅行会社に営業に行ったり、地元の方の前で発表したり、普段の大学生活では味わえない活動ができました。私は4年生でこれまでいくつかのフィールドスタディに参加してきましたが、どれも貴重な体験ができ充実した大学生活が送れたと思います。

笠岡市北木島農泊モニターツアーについて

産学官連携センター

中国四国農政局と2018年1月に農泊に関する包括協定を締結し、農泊モニターツアー等で協力することとなりました。2018年には岡山県真庭市北房地区と玉野市、2019年には島根県奥出雲町、2021年度は香川県さぬき市と岡山県備前市三国地区に続く、6地域目のフィールドとして、候補地が中国四国農政局から複数示され、岡山商科大学としては、包括協定を締結した笠岡市の北木島を提案し、今回のモニターツアーとなりました。

笠岡市を選んだ背景としては、岡山商科大学では、2008年に笠岡市及び笠岡島づくり海社と協定を結び、「笠岡諸島における持続可能社会を基本にした振興策の研究」を提言しました。その後も、岡山県事業・笠岡諸島における観光の可能性に関する調査研究（2015～2017）、真鍋島合同運動会への参加（2016～2019）、島の方たちとの遊歩道整備、耕作放棄地の開墾・圃場再生、赤にんにく栽培・収穫補助、赤にんにく関連商品の販売支援等（2016～現在に至る）を行ってきました。2022年2月には笠岡市との間で包括協定を締結し、フィールドスタディ事業を行う上での基盤が整いました。

11月25日（金）に下電観光バス及びJTbが実施する「笠岡市北木島農泊モニターツアー」へ、学生4名を派遣しました。派遣学生については、今後のインバウンドに備えたいとの地元からの要望により、韓国からの留学生2名と日本人学生2名の計4名で構成しました。

ツアーコースは、船で北木島沖の牡蠣いかだへ向かい、牡蠣の引き上げ収穫を見学し、殻付き生牡蠣の試食を行

いました（県内において殻付き生食は北木島のみ可）。その後、石の資料館で島の石採掘の歴史について説明を受けた後に現地（石切り展望台等）を実際に見学しました。

このツアーには、情報誌の編集者、イベント会社経営者、インスタグラマーなど観光に関連するプロも参加しており、学生はその方々とも交流をしておりました。ツアー後の意見交換会では、留学生が外国人観光客としての目線で「ツアーはすごく楽しかった。体験した事の無いものがたくさん見られた。石の島としてのストーリー性があり歴史好きの人に響く。しかし、「メビウスの輪」の写真の撮影ポイントなど、島の各所の素晴らしいところも誰かに案内説明をして貰えないと分かりにくく見逃してしまうのが勿体ない」と、良い面も弱い面も両面を捉えた有益でしっかりとした意見を地元側に提供しました。

今回参加された天野さんの感想を以下に紹介いたします。



「笠岡市北木島農泊モニターツアー」に参加して

経営学部商学科 4年
天野 佑亮

私が北木島のモニターツアーに参加してみて自分の地元を観光客として見ることができ、とても新鮮な感覚でした。モニターツアーに参加したきっかけは自分もいつかは北木島を発信していき少しでも多くの人に魅力を知ってもらいたいと考えており、まちづくりをどうすれば北木島で成功することができるかを考えているからです。大学生活ではマーケティングを専攻し、マーケティングの考えをまちづくりに活かさないか学んでいました。私は中学校校までを北木島で過ごし、当時は観光に来る人よりも海水浴や釣り客が多く観光地という感じはなかったです。しかし、日本遺産に認定されてから観光地として活性化されていき、今では採石場跡地に展望台が作られていたり、湖上のステージができていたりして今まで以上に観光客にアプローチできるものが増えていのだなと思いました。また、モニターツアーの最初のプログラムにあった船上での生牡蠣の試食は島に住んでいても体験することがなかったのでとても楽しかったです。一緒に参加した他の学生も初めての体験で楽しそうにしており島ならではの体験として船を使った観光は価値のあるものなのだと思います。島内ではグリーンスローモビリティに乗って移動し、沿岸線沿いの景色や採石場を見ることができ歩いて移動するよりも島内の移動を楽しむことができました。

北木島は島内に住む学生や小さい子供が減ってきており、まさに限界集落となっています。少しでも学生が住みやすいまちにするためには石材業にかわる産業が必要だとおもいます。さらには、北木島の石材産業の歴史は江戸時代からも続くほどのものなので廃れることなく多くの人に知ってもらいたいので観光地として、より活性化してほしいと思いました。

真庭市社地区における社祭りと竹灯ろうづくり

経営学部商学科 准教授 大石 貴之

真庭市の東部、湯原温泉にほど近い山間にある社（やしろ）地区は、御堂や石造物が数多く点在し、式内社（延喜式に記載された格式の高い神社）が8つあるなど、古い歴史を感じられる地域である。秋にはそれら神社の大祭「社祭り」が開催され、それぞれの神輿が地域を練り歩き、大変賑やかであったそうだが、高齢化と過疎化により担ぎ手が不足し、近年では1基しか担げていなかった。そこで、2016年に真庭市と包括協定を締結する本学へ、真庭市湯原振興局を通じて神輿の担ぎ手の募集依頼があった。その年には本学から学生7名が参加し、神輿の担ぎ手のみならず、女子学生は巫女の役を任された。複数の神輿が揃った風景は、地域の方の涙を誘ったそうである。

コロナ禍で祭りは2020年、2021年と中止となっていたが、2022年は3年ぶりに復活し、10月9日（日）、6名の学生が神輿の担ぎ手として社地区へ足を運んだ。社地区に到着した後、女子学生は巫女の衣装を身に付け、神社で古式ゆかしく祭礼を行った。男子学生は法被に着替え、地域の方と共に神輿を担ぎ、各地区で巡礼を行った。3年ぶりに神輿5基が並んだ姿は壮観であった。子どもたちは、こども神輿を引き、地域ぐるみの温かい祭りであった。学生からは「あまり経験することのできない巫女さんをやらせて頂きどういう風にお祭りが行われているのかとても勉強になりました」、「普段行うことの無いような体験をさせて頂いたので感謝しかないです。ありがとうございました」といった感想が聞かれた。

また社地区には竹林があり、その利活用が地域の課

題となっている。そこで、2017年より、この竹を使って竹灯ろうを作り、大晦日の夜に地元の佐波良（さわら）・刑部（かたべ）神社を参拝する帰省者や観光客を、幻想的な灯りでもてなすイベント「やしろ竹あかり」を開催している。本学学生は、このイベントで使用する竹灯ろうを制作するワークショップにも参加している。

このイベントは、2020年、2021年は中止を余儀なくされていたが2022年に復活し、11月13日（日）のワークショップには学生3名が参加した。切り出した竹を1.5～2mほどの長さに切り、竹灯ろうのデザインが施されたシールを張り付け、シールの丸印の大きさに合わせて電動ドリルで穴をあけ、3本の竹を自立するように組み上げる。参加した3名の学生は、手分けしてドリルで穴をあけて竹灯ろうを作っていく。最初はぎこちない手つきであったが、1時間も経たないうちにドリルの扱いにも慣れ、地元の方々と協力しながら竹灯ろうを完成させていった。午後には全ての竹灯ろうが完成し、LEDの照明を入れてテスト点灯を行うと、幻想的な景色が浮かび上がった。

学生のアンケートでは、「普段できないようなことを体験できたので、また行きたいと思った」、「良い方々だったのでまた会いたいと思えた」などの感想が寄せられた。

さらに、切り出した竹の一部を地元の方々のご厚意により譲り受け、12月10日（土）、11日（日）の大学祭では竹灯ろうづくりのワークショップが開かれ、大勢の参加者でにぎわった。



大学祭における地域連携

学生活動支援センター長 経営学部商学科 教授 吉田 信

第57回大学祭が「青春を取り戻そう」をコンセプトに、「Re:～Find Yourself～」をテーマに、12月10日(土)と11日(日)の両日開催されました。大学祭実行委員会の学生の皆さんが、大学祭の柱を日頃の学習の成果の発表の場、大学生活を楽しむ場、地域との連携の場と位置づけ取り組みました。

日頃から本学は、地域との交流拠点や防犯防災拠点として位置づけ、「地域と呼吸する大学」をキャッチフレーズに様々な取り組みをしており、大学祭の中でも数多くの企画を実施しました。今回の主な取り組みをご紹介します。

- ①西春奈ゼミによる開発商品と販売
玉野市のドーナツ屋「はなまるこ」と共同開発したドーナツの販売
- ②高校生による「高校生の店」出店
商大附属高校……アップルパイ、デニム商品
倉敷高校……クリームパフェ、スイートポテト
倉敷翠松高校……スイーツ、コーヒー、シュークリーム
- ③真庭市の社祭り紹介、竹灯ろうの展示、竹灯ろうワークショップ
- ④商学科フィールドスタディー授業の紹介と物品販売
 - 1) テーマパークデザイン論 (徳島県神山町)
 - ・まちづくりの実態調査・考察
 - 2) 観光地計画論 (真庭市蒜山地区)
 - ・道の駅、周辺の観光実態調査・考察
 - 3) 観光サービス実習 (真庭市湯原温泉)
 - ・ホテルでのホテル業務研修
- プロジェクトによる活動紹介
 - 1) 真庭市北房地区のイベント集客商品開発の取り組み
 - 2) 真庭市社地区の社祭りの神輿担ぎ、巫女役の応援、竹灯ろうワークショップ参加
 - 3) 備前市三国・八塔寺地区農泊モニターツアー、観光商品開発の取り組み
 - 4) 備前市日生カキオコまちづくりの会カキオコ販売イベント出店の補助
 - 5) さぬき市農泊モニターツアーへの参加
 - 6) 笠岡市真鍋島「道西喜代吉氏画集展覧会」準備、実施運営補助
 - 7) ホームセンター「タイム」のインターナショナル魅力化プロジェクトの実施
- 特産品販売
 - 1) 真庭市社地区 やしろもち (パック詰め) と やしろもち米
 - 2) 笠岡市真鍋島 真鍋島赤にんにくしょうゆ漬、オリーブオイル漬商品
 - 3) 備前市日生地区 オイ星 (ス

- ター) もなか、備前焼アクセサリー
- ⑤津島小学校プラスバンドによる演奏会
- ⑥岡山県警察音楽隊による演奏会、盲導犬訓練の紹介、振り込め詐欺の寸劇、パトカー・白バイ乗車体験、自転車シミュレーター体験
- ⑦岡山市消防局による起震車体験、岡山市危機管理室より非常食アルファ米、クラッカー、ライスクッキーをいただき紹介と試食体験
- ⑧本学と包括連携協定市町村の観光名所等のPR動画の作成・紹介
多くの市町村と連携協定を結んでいる大学だからこそできる企画
- ⑨「楽しい大学生活を過ごそう企画」地域と呼吸する大学ツアー・フォトコンテスト
今年度、地域を知るということで企画した大原美術館・美観地区散策コース、井倉洞・吹屋地区散策コース、後楽園・岡山城町プラ大石コース、瀬戸内国際芸術祭2022コース、日生カキオココース等一日旅行の写真展示とコンテスト。

このような地域との連携イベントが多数あり、地域の子供さんから高齢者の方々まで幅広い年齢層の方々に、2日間とも1,100人を超える皆さんにご来場いただきました。そして、いろいろな体験もしていただき、模擬店でいろいろのものも食べていただき楽しんでいただきました。併せて地域の方や学生の皆さんに、岡山県内の魅力も伝えることができたのではないかと思います。

さらに来年度は、今年度交渉過程で時間不足等できなかった地元「津島の文化祭」として位置づけ津島学区コミュニティ協議会との連携、津島小学校、京山中学校、近隣高校、近隣大学との交流等も計画しています。来年もぜひご来場ください。心よりお待ちしております。



【領収書】			
倉敷翠松高校			
Neo Marketing Club #PRT			
2022/12/10 10:43:41			
レジ:0001	担当:0001		
取引No:000120221210104250577			
商大祭を盛り上げ隊!!!			
翠松生の笑顔でおもてなし(^^)			
黒豆シュークリーム	¥250	1点	¥250
白桃の夜明け!	¥200	1点	¥200
小計		2点	¥450
外税計			¥0
合計			¥450
(非課税対象 ¥450)			
現金			¥1,000
お支払い			¥1,000
お釣り			¥550
上記正に領収いたしました			
ご利用ありがとうございました♪			
地域に貢献する岡山商科大学に			
BLAVO! BLAVO! BLAVO!!!			
倉敷翠松高等学校			
商大祭オリジナルレシート			

2022年度 学生学外研修旅行

学生活動支援センター長 経営学部商学科 教授 吉田 信

1 倉敷大原美術館、美観地区

2022.6.11
倉敷市
法学科：5名/経済学科：5名/経営学科：8名
商学科：9名/非正規生：1名
●博物館研究同好会が企画・運営を行い倉敷市周辺の探索を行いました。
倉敷の昔ながらの街並みを味わうことができました。
商学科 教授 吉田 信
法学科 講師 南光 恭裕
学生課職員 2名

2 ファジアーノ

2022.6.18
岡山市北区 (シティライトスタジアム)
経営学科：4名/商学科：2名
●地元のスポーツチームであるファジアーノ岡山の応援に行きました。
強豪FC琉球を1-0で下し、学生たちも大盛り上がりツアーとなりました。
学生課職員 1名

3 『そば打ち体験と井倉洞』

2022.6.25
高梁市・新見市
法学科：1名/経済学科：3名/経営学科：8名
商学科：9名/非正規生：3名
●『そば打ち体験田舎家』にてそば打ち体験。その後、岡山県指定天然記念物「井倉洞」を見学。豪商たちが残した町並みベンガラと銅の町「吹屋ふるさと村」を散策。
商学科 教授 吉田 信
学生課職員 3名

4 木下大サーカス

2022.7.2
岡山市北区
法学科：3名/経済学科：1名/経営学科：7名
商学科：6名/非正規生：2名
●木下大サーカスを鑑賞しました。
大迫力の演技に学生たちも興奮した様子でした。
商学科 教授 吉田 信
学生課職員 1名

5 後楽園・岡山城 まちあるき

2022.7.9
岡山市北区
経営学科：3名/商学科：4名
●後楽園・岡山城付近を散策しました。岡山の街並みについて理解を深めるツアーになりました。
商学科 准教授 大石 貴之
商学科 教授 吉田 信
学生課職員 1名

6 ウランガラスとみつばち

2022.10.1
苫田郡鏡野町
法学科：1名/経済学科：2名/経営学科：5名
商学科：2名/非正規生：3名
●2006年4月に開業した「妖精の森ガラス美術館」を見学。1955年に「人形峠」で発見されたウラン着色料として使用した地域産品「ウランガラス」が展示されている。その後、「山田みつばち農園」を見学。
商学科 教授 吉田 信
学生課職員 2名

7 トライフープ岡山 立川ダイス 戦

2022.10.8
津山市
募集人数に満たないため中止

8 中国地区大学野球秋季二部リーグ戦

2022.10.22
岡山市北区
法学科：1名/経営学科：2名/商学科：1名
●岡山県営球場にて、秋季中国学生リーグ二部で戦う野球部を応援。
学生課職員 1名

9 全日本大学バスケット応援と 児島ジーンズストリート散策

2022.10.23
倉敷市
募集人数に満たないため中止
水島緑地福田公園体育館

10 瀬戸内国際芸術祭 2022

2022.10.29
香川県香川郡直島町
法学科：1名/経済学科：7名/経営学科：7名
商学科：5名/非正規生：2名
●瀬戸内国際芸術祭は「海の復権」をテーマに掲げ、美しい自然と人間が交錯し交響してきた瀬戸内の島々に活力を取り戻し、瀬戸内が地球上のすべての地域の「希望の海」となることを目指しています。
商学科 教授 吉田 信
学生課職員 2名

11 日本刀と瀬戸の多島美を堪能しよう

2022.11.5
瀬戸内市
経済学科：4名/経営学科：8名/商学科：5名
非正規生：1名
●「長船刀剣博物館」を見学後「牛窓オリブ園」を散策。「日本一のだがい売場」
学生課職員 1名

12 昭和ヘタイムトリップ

2022.11.12
久米郡美咲町・美作市
経済学科：4名/経営学科：3名/商学科：1名
非正規生：2名
●「榎原ふれあい鉱山公園」や湯郷温泉では「あの日のおもちゃ箱 昭和館」や「現代玩具博物館・オルゴール夢館」などを散策。
学生課職員 2名

13 鳥取砂丘とフィギュアの聖地へ

2022.11.26
鳥取県鳥取市・倉吉市
法学科：1名/経済学科：12名/経営学科：3名
商学科：2名/非正規生：4名
●2006年に開館した「砂の美術館」にて美術鑑賞後、ビッグスケールのフィギュアミュージアムとして誕生した円形劇場では製造工程を学んだり、ワークショップで実際に製作を体験。
学生課職員 2名

14 ひなせ かきおこ うみラボ海洋体験

2022.12.3
備前市日生地区
経済学科：4名/経営学科：9名/商学科：4名
非正規生：2名
●『ひなせうみラボ』は海への関心を高める海洋教育・体験プログラムをおこない、日生地区にて「かきおこ」を食べかきおこ巡りを行った。
なお、本学は2014年に備前市と地域貢献に係る包括連携協定を締結して実践教育の場として、日生カキオコまちづくりの会が開催するイベントへ学生が参加協力する等フィールドスタディが広がっています。
学生課職員 1名

15 Let's enjoy bowling!! 2023年こと初め

2023.1.8
備前市・瀬戸内市
募集人数に満たないため中止
●1905年創業の老舗醤油屋「鷹取醤油」を見学し、まつもと食堂にて昼食、その後コーシンボウルでボウリングを通じ交流を深める。

16 岡山の卓球チームを応援しよう!!

2023.1.9
岡山市北区 (シンフォニーホール)
法学科：2名/経営学科：1名/商学科：1名
●地元のスポーツチームである岡山リベッツのホームゲームを観戦しました。惜しくも試合には敗れてしまいましたが、白熱した試合を観戦できました。
商学科 教授 吉田 信
商学科 教授 香月 恵里
商学科 准教授 全 円子
商学科 准教授 徐 流延
商学科 教授 黎 曉妮
学生課職員 1名

17 川ゴミ・海ゴミ拾いボランティア 「地球へプレゼント&プラスチックから海を守ろう」

2023.1.21
岡山市中区沖元付近の百間川右岸
経済学科：1名/経営学科：2名
●百間川右岸の清内橋周辺のゴミを拾い環境について学生へ意識づける。
商学科 教授 吉田 信
商学科 講師 青木 隆

18 川ゴミ・海ゴミ拾いボランティア 「地球へプレゼント&プラスチックから海を守ろう」

2023.2.11
岡山市中区平井6丁目付近旭川河川敷
経済学科：1名/経営学科：3名
●旭川のゴミを拾い環境について学生へ意識づける。
商学科 教授 吉田 信

科学研究費助成事業への取り組み

科学研究費助成事業（科研費）は、研究活動に必要な資金を研究者に助成するしくみの一つです。人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的

とする「競争的研究資金」であり、他の研究者による審査を経て、独創的・先駆的な研究に対して助成を行います。本学からも毎年多数の研究者が申請を行っており、令和4年度は以下の研究課題で研究費の交付を受けています。

2022年度採択中の科研費

研究種目・期間	研究課題	研究者（所属）
基盤研究（B） 2018～2022	ビッグマイクロデータの匿名性評価手法の開発	佐井 至道（研究分担者）（経済学部・教授）
基盤研究（C） 2019～2022	「新しい診療拒否」に関する学際的研究	穴戸 圭介（研究代表者）（法学部・教授）
基盤研究（C） 2020～2022	20世紀初頭価値哲学の反自然主義—現代価値論の再考のために	九鬼 一人（研究代表者）（法学部・教授）
基盤研究（C） 2020～2022	EU農政下における家族制農業生産についての民族誌的研究	杉本 敦（研究代表者）（経営学部・准教授）
基盤研究（C） 2020～2022	長期停滞下における期待利潤率、生産性及び不確実性の相互依存関係—日独比較—	萩原 泰治（研究代表者）（経済学部・教授）
若手研究 2020～2023	日本における量的・質的金融緩和政策の実体経済に対する効果の検証	井尻 裕之（研究代表者）（経済学部・准教授）
若手研究 2020～2023	消費者の誘惑と自制心を考慮した年金制度に関する研究	熊代 和樹（研究代表者）（経済学部・講師）
若手研究 2020～2023	金融リテラシー教育に関するアンケート調査研究	渡辺 寛之（研究代表者）（経済学部・講師）
基盤研究（C） 2021～2023	ナッジを活用した高齢者の労働供給に関する研究	國光 類（研究代表者）（経済学部・准教授） 三谷 直紀（研究分担者）（経済学部・特任教授） 熊代 和樹（研究分担者）（経済学部・講師） 佐々木 昭洋（研究分担者）（経済学部・講師）
基盤研究（C） 2021～2023	新型コロナウイルス感染症拡大下における、独居高齢者の孤立化に関する実証的研究	栗屋 剛（研究分担者）（法学部・教授）
基盤研究（C） 2021～2024	非標準的治療等の選好の検討を通じた多文化にセンシティブなインタラクションの支援	穴戸 圭介（研究分担者）（法学部・教授）
基盤研究（C） 2021～2024	デジタル社会に求められる職業会計士の役割・能力と今後の会計教育のあり方	吉良 友人（研究分担者）（経営学部・准教授）
若手研究 2021～2025	植民地期ベトナム南部の米輸出の展開と地域内消費—アジア米貿易の動向に注目して—	池田 昌弘（研究代表者）（経済学部・准教授）
基盤研究（C） 2022～2025	「現代における診療拒否の諸相」の解明を通じた医療提供及び患者支援に関する研究	穴戸 圭介（研究代表者）（法学部・教授） 栗屋 剛（研究分担者）（法学部・教授）
基盤研究（C） 2022～2025	日本のマクロ経済の長期停滞とゼロ金利政策に関するDSGEモデルによる包括的な分析	星野 聡志（研究分担者）（経済学部・講師）
基盤研究（B） 2022～2025	電磁気現象の集束及び増幅に着目した渦電流探傷システムの開発	箕輪 弘嗣（研究分担者）（経営学部・准教授）
基盤研究（B） 2022～2025	LGBTQ当事者の家族形成実現とライフプラン教育の社会実装への相互深化モデル形成	穴戸 圭介（研究分担者）（法学部・教授） 栗屋 剛（研究分担者）（法学部・教授）

外部資金の獲得実績について

i. 公募、審査、採択の過程を経て獲得する競争的研究資金等

・ 2022年度 科学研究費助成事業 採択件数 22件 9,050千円

（総務企画課・産学官連携センター）

令和 4(2022) 年度 私立大学等改革総合支援事業

副学長 田中 康秀

私立大学等改革総合支援事業は、『Society 5.0』の実現に向けた特色ある教育研究の推進や高度研究を実現する体制・環境の構築、地域社会への貢献、社会課題を解決する研究開発・社会実装の推進などにおいて、全学的・組織的に改革に取り組む大学等を重点的に支援するものであり、平成 25(2013) 年度から始まった事業です。本学は、その開始以降今日まで継続して本事業への申請を行って採択されてきており、令和 4(2022) 年度も申請を行いました。

令和 4(2022) 年度の申請に当たっては、将来構想検討委員会で学長のリーダーシップの下に申請書の作成を進めました。特にタイプ 1(『Society 5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開) については、教育の質向上、高大接続、データ活用による教育展開とデータ活用人材の育成、多様な教育体制と社会との連携といった本学の教育に関する事柄であることから、今年度は副学長をヘッドに各学部・学科や学内組織から委員を選出してワーキングチームを構成して対応しました。タイプ 1 は、これまで 9 年間連続して採択されています。

タイプ 2(特色ある高度な研究の展開) は、研究基盤・研究支援体制、連携等による体制整備・研究実施、研究成果等といった研究体制への本学の取り組みについて問われています。研究基盤や支援体制については、本学は教員の任期制の導入が遅れていましたが、令和 3(2021) 年度から外国人教員の採用に任期制を導入し、同年度に准教授以下の教員採用における任期制を導入するとともにテニュアトラック制も導入しました。また、RA 経費のルール化やポストドクに対する支援制度も令和 4(2022) 年度から導入しました。しかしながら、教員の博士の学位を有する比率の向上や連携等による研究実施体制にはまだ改善すべき点があり、これらの改善によって、常に採択される状況を創出する必要があります。

タイプ 3(地域社会の発展への貢献) は地域の経済・社会、産業、文化等の発展に寄与する取り組みを支援するものであり、これは「地域連携型」(単独校の取り組み) と「プラットフォーム型」(グループによる取り組み) の 2 つが用意されていますが、重複申請は不可となっていることから、本学はこれまで通り、令和 4(2022) 年度においても「地域連携型」に申請を行いました。地域連携は本学の教育・研究における重要な柱の 1 つであり、県内 10 市町村との包括連携協定を締結するなど、連携体制の整備と連携内容の更なる強化に努めています。学外との連携活動は、時代の変化に対応して行われると考えることから、それぞれの時代に合った連携体制・連携内容を本学の産学官連携センターを中心に今後も進めていく必要があります。

タイプ 4(社会実装の推進) は、産業界と連携した社会実装の推進に向けた取り組みを支援するものであり、産業

界との共同研究や受託研究の受け入れ、及びそれらの実施体制の整備、更には、それらの成果としての知的財産・技術の実用化など知の好循環などに関わる項目の実施が求められています。本学は、社会貢献として地域との連携活動を行っていますが、しかしながら、社会科学系の大学であるため、共同研究や受託研究における研究費の獲得には自ずと制約があることから、ほとんどポイントを獲得できていません。今後も厳しい状況が続くと考えています。(追記)

令和 5(2023) 年 2 月 10 日文部科学省 HP の公表により、本学では、令和 4(2022) 年度として、タイプ 1 とタイプ 3(地域連携型) の 2 つのタイプが採択されました。

○令和 4(2022) 年度私立学校施設整備費補助金(防災機能強化施設整備事業)

文部科学省は、私立大学等における防災機能等を強化し、安全なキャンパスの整備を図るため、校舎等の耐震改築・補強事業や非構造部材の落下防止対策等の防災機能強化を重点的に支援していますが、本学は令和 4(2022) 年度私立学校施設整備費補助金(防災機能強化施設整備事業) を得て、その整備が急がれていた体育館の耐震補強工事を行いました。

本工事においては、令和 4(2022) 年 6 月から一部コンクリートブロック壁の撤去・解体及び補強、コンクリート袖壁の補強、鉄骨部のブレースによる補強等の耐震補強工事を行うとともに、それに伴う内装改修工事を行い、同年 11 月 10 日に完成しました。

○令和 4(2022) 年度私立学校施設整備費補助金(私立学校教育研究装置等施設整備費)

本学では、高度な教育をするためのパソコンは大学で設置し、学生に使用させるという基本方針で整備を進めています。この方針に従って、令和 2(2020) 年度に双方向オンライン会議システム(Zoom) 等の利用を可能とするようにパソコン教室の整備を行いました。その後、数理・データサイエンス・AI への関心を高め、その適切な理解と活用できる基礎的能力の育成を目指して、令和 3(2021) 年度後期から「データサイエンス・リテラシー(DSL) 教育プログラム」を立ち上げるなど、デジタル人材の育成に努めていますが、その実効性を高めるためには、対面のみならず、時間・距離の制約を緩和した次世代の多様な人とのオンラインコミュニケーションによる新たな価値の創造などを可能とする教育研究設備の整備が急務となっています。このことから、令和 4(2022) 年度に私立学校教育研究装置等施設整備費により 711 番パソコン教室を「オンラインコミュニケーション・データサイエンス教室」として更新し、令和 5(2023) 年 4 月から稼働できるように整備しました。

地域に期待される 新しい特別活動への挑戦

倉敷翠松高等学校 校長 三谷 昌士
教諭 妹尾 幸二
教諭 児玉 聡志

1. はじめに

現在、岡山県内の私学高等学校において「商業科」という学科名を残している学校は僅かである。倉敷翠松高校商業科は昭和35年に設置されてから学科名はそのままに現在に至っている。本校は、普通科・商業科・生活科学科・看護科の4つの学科で編成され、商業科は2クラス80人の定員で、少人数制のメリットを生かし、生徒一人ひとりの個性を尊重し、能力に合わせたきめ細かい指導を展開している。

2. より魅力ある商業科になるために

新学習指導要領による新しい教育課程の編成に合わせて、これまでの商業科の教育活動を見直しながら「選ばれる商業科」となるように3つの目標を掲げた。

- ①習熟度別学習の充実と、高度な資格取得を可能にする体制づくり。
- ②現代社会で役立つビジネススキルを身につけさせる。
- ③授業や特別活動を通して、地域の職業人との積極的な交流を図る。

これらを推進し、確かな実績を残し、地域や中学生、その保護者の方々からも信頼され、進学したいと思われる商業科へと発展していきたいと考える。

3. 新しい特別活動のはじまり

◇ Neo Marketing Club #PRT ◇ 【改編】



本校にはこれまで「ビジネス夢クラブ」という名称の部活動があり、商品開発や販売、各種コンテストへの参加を進めてきた。今後もこれらの活動をより充実させることは大切であるが、組織のPRとして活動するのではなく、地域の人たちに本当に喜んでもらえるような実践を積み上げることを第一に考え、2022年度より「Neo Marketing Club #PRT」という看板を掲げ、活動内容を再考することにした。活動テーマは“マーケティング理念に基づき、ビジネスモデルを展開し、地域の魅力を発信しながら、起業家を目指す”というものである。言葉にするのは簡単ではあるが、どこまでこの目標に近づけるのか。まずは、地域に出向き、多くの方々との交流を通して、自分たちができることを探ることから始めることにした。

初年度(2022年度)は、コロナ禍での制限を受け、苦慮しながら開催されている「倉敷三斎市」に毎月欠かさず出店をして、多くの来場者の方々や顔を合わせ、対話をし

ながら、地元の高校生として求められているものは何かを学ぶことにした。地元の洋菓子店に協力をいただき、アイデアを商品化してもらうことで6種類の洋菓子を用意することができた。マーケティングやビジネスモデル、SDGsというフレーズを唱っている以上、最低でも赤字を出さないよう、また出店料も自分たちで賄えるよう、収支の採算を図りながら参加を続けている。ただ、ここに来て追い打ちをかけるように原材料の高騰という逆風にもさらされ、まさに荒波の中で1年目を終えようとしている。

そんな中、ゴールデンフェスタ2022(岡山市)、BUChi BRIGHT CARNIVAL2022(倉敷市)など、地域のイベントからも声を掛けていただけるようになり、パティシエさんの協力のもと、ハロウィン仕様の商品を用意するなど季節感を表現し、お客さんに楽しんでもらえるようにと工夫を重ねた。12月10日(土)には商大祭にもお招きいただき、出店を通して多くの学生さんや教職員の方々とも交流を深めることができた。参加した2年生の部員たちは、皆さんからの温かい“おもてなし”に感動し、「進学するなら絶対、岡山商科大学が良い!」と何度も口にしなが、商品が完売した後は校舎の中を見学させてもらっていた。



◇ eスポーツ同好会 ◇ 【新設】

もう一つの新しい取り組みとしては、今年度(2022年度)設立された「eスポーツ同好会」の活動である。

ここ数年で多くの注目を集めているeスポーツではあるが、本校ではプレイヤーとしてだけではなく、興行的なビジネスモデルや地方創生・福祉などにも広がりを見せているケースを総合的に体験、学習できるよう活動を行っている。

今年度は、多くの協賛企業の支援のもと岡山県内で高校生eSports League(全国初)が設立され、第2回大会では優勝することができた。また、2022年11月には岡山イオンモール・杜の街グレースにおいて“OKAYAMA esports festival2022”が開催され、大学生と一緒に運営ボランティアスタッフとしても参加した。(岡山eスポーツ連合への協賛企業・団体は県内46)



多種多様な企業や大学・専門学校と繋がりが持て、eスポーツを通じた興行やそれらに携わる仕事を知ること、オンラインで展開される新しいビジネスの形を体感することができている。今年、岡山県内で予定されている

イベントだけでもチャリティ大会や、パラeスポーツ大会、町おこしとしてのeスポーツの大会やファッションショーなど数多くあり、ジャンルも様々である。

今後、学生目線で大学と連携した新たなイベントの設立もおこなっていきたいと考えている。

4. 来年度に向けて

来年度は、この「Neo Marketing Club #PRT」と「eスポーツ同好会」の連携により生まれるチームで、地域の魅力を発信しながら、地域に期待される実践を展開したいと考えている。現在、具体的なプランを構築していると

ころではあるが、そこには間違いなく地域の大学生や、専門的分野の方々との交流やサポートが必要不可欠となるだろう。

「地域の学生たちが、新しい地域の魅力、そして未来をクリエイティブする」もう楽しみでしかない。



岡山県立岡山南高等学校 校長 桑元 秀明
教諭 熱田 みちる

大会を通して模索する 「専門高校の在り方」

1. はじめに

令和4年度「全国高等学校生徒商業研究発表大会」において、悲願となる全国優勝を成し遂げ、これまでの本校における地域連携の取組が最高の形で評価されることとなった。

本校は、明治35年「岡山県岡山市立商業学校」として設立認可、磨屋町岡山寺を仮校舎として開校され、創立120周年を迎えた。開校の翌年、岡山市内山下（現岡山県立図書館）に校舎を移設して以降、「第二工業学校」が10年間ほど併設され、学校名も「岡山市立商業高等学校」「岡山市立経済高等学校」など、改称を繰り返し、昭和24年には、商業科・家政科を持つ「岡山県立岡山南高等学校」となり現在に至る。以後、高い専門教育の推進と地域との協働に果敢に取り組み、成果を収めている。

2. 全国優勝までの道のり

生徒商業研究発表大会は、3年生選択科目「課題研究」に設定される11講座のうちのひとつ「トップマネジメント講座（対外名称：商業クラブ）」での取組になっている。現形態で取組まれるようになって12年目に「悲願の全国優勝」を果たすことになり、岡山県内初の偉業ということもあって、多くの方々から祝辞をいただいた。岡山商科大学 井尻学長からの祝電もいただき、光栄の極みであった。これまでの研究テーマと大会成績は、次の通りである。

【研究テーマと大会成績（最高位のみ）】

H 23 「Asking for real Business!」	全国大会	出場
H 24 「黄ニラの天ぷら真ん中に!」	全国大会	3位
H 25 「想いはひとつ! おかやま愛ス」	全国大会	2位
H 26 「ひめの恵で拓く明日」	全国大会	2位
H 27 「利益と貢献の Ambivalence」	全国大会	3位
H 28 「ブランド×ブランド×ブランド」	全国大会	出場
H 29 「故きを温めて新しきを創る」	中国大会	2位
H 30 「WIDE から SIDE へ」	全国大会	3位
R 元 「はたらくパッケージ」	全国大会	2位
R 2 《コロナによる大会中止》		
R 3 「スキルは武器 最後はヒト」	全国大会	出場
R 4 「地域をデザインする力」	全国大会	優勝

※最優秀賞/文部科学大臣賞/産業教育中央会賞

3. 日本一に輝いた研究実践内容

これまで12年間に渡って、様々な地域連携事業を展開し、それぞれに生徒が見出した地域課題があった。その解決に少しでも近づくことができたらという幼いながらも懸命な実践が高い成果に繋がっているのは言うまでもない。昨年、日本一に輝いた研究実践は、実に3年間に渡る実践活動をまとめたものであった。

コロナ禍を迎えた2020年、全ての活動が停止された中であっても、生徒たちは動きを止めようとしなかった。岡山県だけで食す習慣のあった地魚「ヒラ」にスポットを当て、LINE スタンプをリリースしたり、「岡山県水産物流通促進協議会」との繋がりを形成したりと、できる範囲で実践活動に取り組んだ。

【生徒が製作したLINEスタンプ】



翌年、それを引き継いだ生徒たちが、中国銀行のサポートを受け、クラウドファンディング活用事業に着手する。集めた支援金でヒラの加工食品を開発し、子ども食堂への無償提供を行い、その範囲は保育園や小学校の給食に及んだ。

【クラウドファンディング立上げ時のサイト画面】

高校生「LocalLove給食」計画! 守りたい! 岡山地魚! 食文化!
岡山県立 商業クラブ



【食育事業や無償提供の様子】



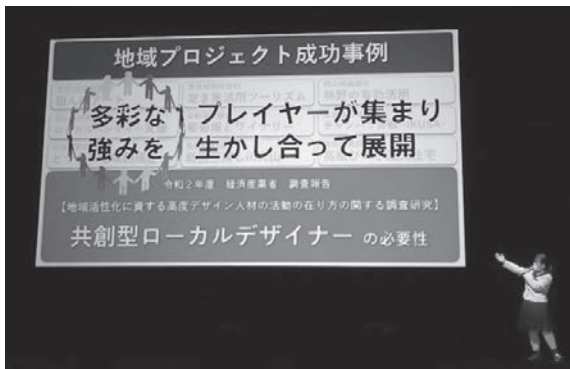
そして3年目、無償提供から缶詰商品の販売まで事業規模を拡大したところで、大会へエントリーした。単なる取組発表ではなく、いかに地域を巻き込むことが地域課題の解決に必要なかということを中心にメインテーマに掲げた。

地域で奮闘する方々を「ローカルプレイヤー」と定義し、それらをつなぎ合わせて「共創型プロジェクト」の構築に挑戦した経緯を中心にまとめたところに勝因があったと考えている。

テーマは「地域をデザインする力」とし、長年、様々な地域課題と向き合ってきた本校だからこそ実現された研究実践を余すところなく発表することができた。広範な企画を立て、種々様々なローカルプレイヤーを繋いで大きなプロジェクトへと発展させた手法は、のちに届けられた審査員の講評でも高く評価されていた。また、「共創」は時代のキーワードであると同時に、まさに本校が体現する地域との取組を表現できる言葉であり、今後も引き続き、多くのプレイヤーと繋がりながら新たな活動を展開していきたい。



【大会へ提出した報告書】



【大会発表の様子】



【大会表彰式の様子】

4. 地域と共に歩む専門高校として

学校は、昔のように教室に生徒を詰め込み、黒板で教えるだけでは世の中のニーズを満たせなくなっている。知識を詰め込むのみでは評価されず、地域に開かれた教育活動が求められ、生徒の「生きる力」を育成することが大きな使命となった。特に、専門高校には、普通科高校と異なり、学び身につけたスキルで地域社会に貢献できる人材育成への期待が強まっている。また、私立高校への補助金制度等が拡充されたことと相まって、公立高校も特色づくりや広報力が問われる時代だ。

そのような時代にあって、本校は、商業と家庭を併設する専門高校として歴史も古く、県の専門教育を常にリードしてきたと自認する県立高校であり、地域におけるその社会的責任は小さくない。様々な取組を通じて生徒の力を育成することを最大の責務としながら、人材育成を通じて地域社会に貢献しうる教育を全うする責任も課せられるところだ。

生徒商業研究発表大会において高い成績を目指したとき、地域社会との連携活動が必須要件となり、生徒自身が実践活動へまい進する強い動機付けにもなっている。「大会で勝つため」の活動はしないまでも、「勝つため」に、思考をめぐらせ、実践活動に没頭することによって、地域と共に歩もうとする主体性に溢れた態度が身につく。何より、そこから得られる実感に伴った「社会へ貢献する充足感」は、経験した者にしか理解し得ない貴重な実体験となるものだ。

今や各種地域連携事業は、本校になくてはならない「特色」となった。そこに派生する大会での成果も同じくだ。この両輪を止めず、地域から「魅力ある専門高校」として認知され続けることが、本校の発展にも繋がると信じ更なる実践の充実を目指すところである。

5. おわりに

生徒商業研究発表大会は、目的でも手段でもない。しかし、生徒が活動する動機のひとつとして大きな役割を果たしている。地域との共生を掲げ、自身の力を地域に生かそうとする経験は、感受性豊かな高校生にとって、何にも勝る深い学びを実現するものだ。

また、活動して終わるだけでなく、発表のために成果を検証する過程で、岡山商科大学でも専門の見地から意見やアドバイスをいただいたことは一度や二度ではなく、大学という専門機関との交流にも繋がっている。

今後も校外の様々な人や機関を頼りながら、生徒の力を地域に生かすことで、地域の期待に応えうる専門教育の実現を目指していきたい。

(一社) 岡山経済同友会 ボランティア・プロフェッサー制度 ボランティア・プロフェッサーによるオムニバス授業「岡山経営者論Ⅰ・Ⅱ」

岡山商科大学では、一般社団法人岡山経済同友会（以下、「同友会」という。）のご協力のもと、ボランティア・プロフェッサー制度によるオムニバス講義「岡山経営者論」を1996年度から実施しています。これは、実学教育の観点から、企業や団体において、経営に携わられている方や、第一線で実務を担当されている方から、経営に対する想いや、事業運営の実際を学生にご講義いただき、教科書だけによらない、生きた経営学を学ぶために開講されています。2006年度からは講義の映像記録を撮りはじめ、2011年度からは、記録した映像をDVDに収録し、同友会に贈呈をさせていただいています。講師は同友会の会員の皆様が中心ですが、県内の市町村長にお越しいただいたり、様々な宗教家の方をお招きしたり、皆様のご支援をいただきながら、幅広い学びに繋がるよう模索を続けています。

2022年度は、同友会の会員の皆様で、本社が県外にあり、岡山県内に支社や支店を持つ企業に「広域展開している企業における「地域での金融・保険の役割」」というテーマでご登壇をお願いしました。各社のお話を聞いて感じたことは、本社が作成したスキームを各地域で展開するだけでなく、岡山県にとって何が必要で、どうすることがその地域に最適で、共に成長発展していくことができるのか、といった視点で各社とも事業に取り組まれていることです。また、金融業や保険業が取り扱うサービスや、開発に関わっている施設が多岐にわたっており、学生にとって、名前だけ聞いたことがある企業が、より身近で利用したことがある企業であったことを知る機会ともなりました。

2023年度前期は「地域を元気にする企業とスポーツクラブの経営」、後期は「岡山商科大学と連携する市町村の施策・取り組み」をテーマに企業・団体、自治体にお話をいただく予定です。



2022年度前期「岡山経営者論Ⅰ」

講義日	講義企業・団体等	役職	講師名
4月25日(月)	(株) 広島銀行岡山支店	執行役員支店長	松原 真児 様
5月2日(月)			
5月9日(月)	(株) 百十四銀行	地域創生部地域創生グループ調査役	長尾 陽一郎 様
5月16日(月)			
5月23日(月)	日本生命保険(相) 岡山支社	支社長	開保津 勝矢 様
5月30日(月)			
6月6日(月)	明治安田生命保険(相) 岡山支社	岡山支社長	小山 宏之 様
6月13日(月)			
6月20日(月)	東京海上日動火災保険(株)岡山支店	支店長	田辺 健二 様
6月27日(月)			
7月4日(月)	オリックス(株)岡山支店	支店長	國井 敦雄 様
7月11日(月)			

2022年度後期「岡山経営者論Ⅱ」

講義日	講義企業・団体等	役職	講師名
10月3日(月)	(株) パソナ	岡山営業部部長	利守 佳代 様
10月18日(火)			
10月24日(月)	高田織物(株)(※2021録画の講義)	代表取締役社長	高田 尚志 様
10月31日(月)	風早税理士事務所	代表	風早 昭徳 様
11月7日(月)	(株) ドコモCS中国岡山支店	支店長	曾田 宏昭 様
11月14日(月)	(株) ドコモビジネスソリューションズ	岡山支店長	上土井 誠 様
11月21日(月)	アサヒビール(株)東中国支社	支社長	三上 貴彦 様
11月28日(月)			
12月5日(月)	日本航空(株)岡山支店	支店長	前田 正俊 様
12月12日(月)			
12月19日(月)	日本放送協会岡山放送局	局長	田中 意澄 様
1月10日(火)			
1月16日(月)	日本電気(株)岡山支店	岡山支店長	野村 達也 様

野村証券オンライン寄附講座について

野村証券株式会社岡山支店から、日々刻々と変化する金融市場の動向を分かりやすく解説していただく寄附講座のご提案をいただき、2020年12月から開講しています。教材は、野村証券が発行する「週刊野村市場展望(旧Nomura Weekly)」を使用し、情報鮮度の高い講座です。本学ではFPに関する科目を網羅的に開講し、専門的知識の習得を行っていますが、これにタイムリーなマーケットの情報が加わることで、より理解を深めることが可能となります。

2022年度前期は、5月10日(火)から7月12日(火)の日程で、後期は10月11日(火)から12月13日(火)の日程で、それぞれ全10回で開講しました。1回の講座は30分間で、野村証券から送られてくるオンライン講座への招待メールによりログインします。第1回目から第4回目までは、グローバルマーケット(市況)、マーケットイベントなどを中心に解説し、用語に慣れてもらいます。第4回目からは、株式投資を行う上での基本的な知識となる、株価チャートの見方が加わります。ローソク足、移動平均線、トレンドラインといった内容は学生にもなじみやすく好評です。

2022年度後期
学生アンケートの結果

問1	野村証券の講座を受講して感じた難易度を教えてください。
回答	ちょうどよかった(66%) やや難しかった(33%)
問2	30分間の講座でしたが、長さはいかがでしたか。
回答	ちょうどよかった(66%) 短かった(33%)
問3	興味があった内容についてお尋ねします。「グローバルマーケット(市況)」についてはいかがですか。
回答	とても関心がある(33%) 関心がある(66%)
問4	興味があった内容についてお尋ねします。「マーケットイベント」についてはいかがですか。
回答	とても関心がある(33%) 普通(66%)
問5	興味があった内容についてお尋ねします。「ガイダンス(投資のイロハ)」についてはいかがですか。
回答	とても関心がある(33%) 関心がある(66%)
問6	興味があった内容についてお尋ねします。「チャートの見方(ローソク足)」についてはいかがですか。
回答	とても関心がある(33%) 普通(33%) あまり関心がない(33%)
問7	勉強になったと思ったことを記入してください。
回答	・指数や定期的な会議の存在を知ることができた。 ・投資でのコツが身につくように学習できた。 ・国内の金融だけでなく、世界の金融情勢がどうなっているのかを詳しく説明してくれたことや、専門用語などが勉強になった。

2023年3月卒学生の就職活動を振り返って

新型コロナウイルスの影響を受けた就職活動は、2023年3月卒学生で早3年目を迎えました。この2年間でオンラインを活用した就活様式が定着し、新たにウィズコロナスタイルの就職活動がスタートしました。しかし、企業の広報活動開始を目前に控えた2022年2月、新たな変異株（オミクロン株）によって第6波の感染が拡大し、岡山県でもまん延防止等重点措置が適用されました。これにより、2月に開催予定であった学内合同業界説明会を中止せざるを得なくなり、企業や業界への理解を深める貴重な機会を逃してしまいました。

就職活動の準備不足に繋がらなければと若干不安を感じるスタートでありましたが、リクルートワークス研究所が発表した2023年3月卒の大卒求人倍率は1.58倍。昨年の1.50倍から0.08ポイント上昇しました。また、日本経済新聞には中国5県の主要企業を対象に行った採用計画調査で、新卒採用を昨年より増やすと回答した企業が、前年に比べ18ポイント高い56%となった結果が掲載されました。広報活動解禁（3月）以降、コロナ禍は依然として続いていましたが、多くの企業がコロナ後を見据え採用枠を広げるなど、採用意欲の回復傾向が見られるようになりました。実際に企業は2023年3月卒学生を対象としたインターンシップを前年度から活発に実施し、これに参加した学生を早期選考に呼び込む動きが見受けられました。本学でもこの動きに合わせて、就職活動をスタートした学生もいたようです。

このような企業側の動きから、就職活動の早期化、内定出しの早期化を想定しましたが、意外にも本学では例年と変わりはなく、5月末の就職内定率は41.7%と昨年同時期に近い数字でありました。多くの企業がオンライン採用からハイブリッドもしくは対面採用に切り替えたことで、コロナ禍の最初の2年間よりも採用活動が慎重に行われたのではないかと考えています。例えば「選考の回数が増加した」「選考過程で社員との座談会が設けられ選考期間が長くなった」

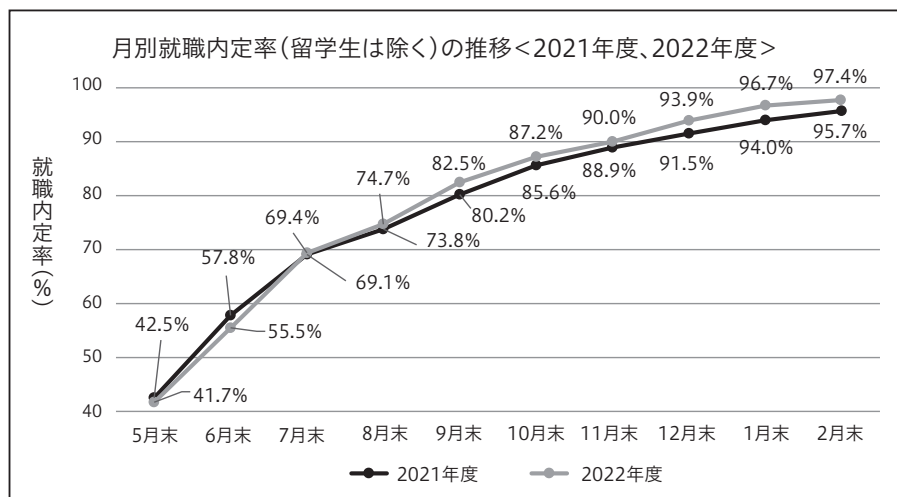
などの報告を学生から受けました。さらに、最終選考で不合格となるケースが例年より多かったように思われます。学生は早い時期から企業と接触したにもかかわらず選考が長期に渡ってしまったので序盤戦は精神的に苦労したのではないかと思います。選考を重ねていく中で仕事内容や企業理解をより深めることができたのではないかと考え

られます。

夏休みを目前にオミクロン株の新たな派生型（BA・5）によって感染拡大の第7波が到来しましたが、政府の方針転換により社会経済活動制限がされなかったため、就職活動に大きな影響はありませんでした。本学が感染対策を継続しながら重点的に取り組んだことは、学内単独企業説明会の開催でした。コロナ禍以降、大規模な学内合同企業説明会を開催できていないことから、1日2社限定の単独企業説明会を繰り返し開催しました。採用担当者の方へ積極的な呼び掛けを行い4月から就活中盤戦の9月までに64社の説明会を開催したところ、延べ235名の学生が参加しました。これによって採用担当者と学生が対面で会話する機会を増やすことができたことと実感しています。

今年度は正式内定解禁日である10月1日以降も多くの採用担当者の方が来学されました。訪問目的は内定辞退による追加募集の案内で、多い日には1日に5・6社の訪問を受けました。学生が本命企業の受験前に早期選考を実施する企業を受験していたことが内定辞退の増加に繋がったのではないかと思います。キャリアセンターではこの機会を逃がさないよう追加募集の情報を学生個々に提供し、少しでも興味を持つ学生がいれば、本学から採用担当者の方へ連絡して学内での説明会開催をお願いしました。こうした取り組みの積み重ねによって、年末年始の第8波感染拡大に影響を受けることなく就職内定率は順調に推移しました。

本学の2月末現在の就職内定率は下のグラフが示すように97.4%であり、昨年を若干上回ることができました。このような内定率を維持できたのは、企業の採用意欲が回復した影響もありますが、やはり学生一人ひとりが感染拡大の波を乗り越えながら、危機意識を持って就職活動に取り組んだ結果だと思っています。



合格者の声

祝

国家公務員採用一般職試験合格

経済学部経済学科 4年
北山 龍

私は2022年度国家公務員採用一般職試験に合格しました。試験の対策は1年前から始め、筆記試験の対策は予備校のテキストを中心に勉強し、面接試験の対策は予備校やハローワーク、若年者のためのワンストップサービスセンターなどを利用しました。直前期には悔いの残らないように、ほとんどの時間を試験勉強に費やしました。

公務員試験を受ける上で1番大切だと思ったのはきちんと計画を立てることです。筆記試験は科目数が多く、全科目勉強しては時間が足りませんでした。そこで、自分が受ける試験先の科目ごとの出題数や頻出問題などの傾向をチェックし、捨て科目を作ったり、各科目に費やす時間を考えたりする必要がありました。もちろん勉強量も大切ではありましたが、このように入念に計画を立て、自分に合った勉強方法で取り組むということの大切さを実感しました。また、モチベーション



の維持も非常に重要でした。何度やっても分からない問題があったり、模試の結果が悪かったり、面接練習が上手いかなかったりと、合格のイメージが湧かず、挫折しそうになった時も多々ありました。そんな時、周囲の方からの励ましもあり、試験合格という目標に向けて気持ちを奮い立たせることができました。モチベーションを引き上げることで、勉強の質や効率も上がり、合格に繋がったと思っています。

公務員試験に取り組んだこの1年間苦しい時もありましたが、私が試験に合格できたのは、何よりも、様々な方の支えがあったからだと思います。その感謝を忘れず、これから国家公務員として仕事に取り組んでいきたいです。

祝

愛媛県警察官

法学部法学科 4年
大嘉田 みなみ

私が警察官を目指そうと思ったのは、大学1年生の時です。刑法の講義で、岡山県警の女性警察官の方に講義をしていただきました。その中で女性が性犯罪に遭い、一生心に残る傷ができることを知り、そのような犯罪をなくしたい、女性や子供を守りたいと思い警察官を志願しました。

しかし、私は高校生の時に全く勉強をして来なかったため、勉強の方法すらわかりませんでした。そんな中で、商大の公務員講座に出会い、1から勉強方法や丁寧に面接の仕方を教えていただきました。また、論文や面接もキャリアセンターへ通い、たくさんアドバイスをいただきました。おかげで、不安だった気持ちは、いつしか私ならできるという自信に変わっていきました。警察官の筆記試験当日は、緊張感もありましたが先生が勉強を教えてくださいました時に「あなたならできる」という言葉を言ってくださったおかげで、緊張はしましたが、安心して挑むことができました。面接でもキャリアセンターの先生や公務員講座の先生が、対策してくださっていたので面接も落ち着いてできました。論文の論題や面接官に聞かれたことも当たっていたので、落ち着い



て話すことができた要因です。

愛媛県警は、グループ討論と個別面接が最後にあるのですが、私自身もグループ討論はやったことがありませんでしたが、公務員講座の先生に重要ポイントとマイナスポイントをプリントにして事細かく教えていただきました。おかげでスムーズに答えることができ最終的に合格することができました。

私一人の力では絶対に合格することができなかったのですが、周りの人達の支えのおかげで合格することができました。

これから公務員採用試験を受ける人で、アルバイトやサークル活動で忙しい人がいるかもしれませんが安心してください。支えてくれる人はたくさんいます。一人で悩むことより他の人にも頼ってみてください。必ず良いアドバイスをもらえます。

商大塾に教員採用試験対策講座を開講

教職課程担当
経営学部商学科 教授
吉田 信

本学には将来教師になりたいと、はっきりした人生設計をして入学してくる学生が多くなります。本学で取得できる教員免許は、中学社会、高校公民、高校商業、高校情報の4種類です。そのため教職履修者を対象に様々な教育支援の取り組みをしています。教師は、人が人を教えるということでもどうしても人間性が問われます。そのため教科指導も視野に入れ、フィールドスタディとしてボランティアへの参加、岡山地方裁判所の見学と裁判傍聴、岡山県警察本部見学、日本銀行岡山支店の見学等さまざまな体験学習を取り入れています。そして、教師は免許状が必要な専門職であるため確かな専門的知識が求められます。そのため日頃の講義に加え、商大塾の講座に教員採用試験対策講座として社会科免許コース、商業科免許コース、情報科免許コースの講座を令和4年度から開設しました。従来は課外補習として実施していたものを正規の講座として組織的に取り組んでいます。学習内容は、どのコースも中国・四国各県等の教員採用試験の過去問題の解答・解説に取り組

んだり、学習指導要領や教科書の読み込みをしています。

岡山県の合格者数は別表の通りで、高校では毎年1～2人の合格者です。常勤講師で勤務している先生方も多数受験されますので現役大学生が合格するにはなかなか難しい状況ですが、4年生で1次合格者が出たり、卒業1～2年目で2次試験に合格する卒業生も出ています。高校生の皆さん、是非本学で教師を目指してみませんか。

令和5年度岡山県教員採用候補者試験（ ）は令和4年度

校種・教科	出願者数	合格者数	競争倍率
中学校社会	73 (105)	23 (17)	2.7 (5.4)
高等学校公民	5 (11)	1 (1)	5.0 (11.0)
高等学校商業	39 (51)	2 (2)	17.0 (23.0)
高等学校情報	18 (13)	2 (1)	8.5 (11.0)

教職課程で学ぶ

法学部法学科 4年

猪野 竜平

(高知県立安芸高等学校出身)

私は、社会科の教員になることを目指して本学法学部に入学しました。

当初は「とりあえず免許だけでも取得しておくか」と楽観的に考えていましたが、教職課程での学修は、そんなに甘いものではありませんでした。

本課程では、卒業要件の単位に加え、教員免許状の取得にかかる単位の取得が必要となります。従って、他学生より余分に単位を取得するわけですから、あまり自由な時間はありませんでした。加えて、教育実習・教員採用試験などもあります。

以上のように、教員になるためには自己の時間を犠牲にし、様々なハードルを超えなくてはなりません。本当に大変でしたが、だからこそ教員という職種は専門職なのだと思いますし、挑戦するだけの価値はあっていると感じています。

本学教職課程は、先生方のサポートが非常に手厚いです。現場を経験してきた先生だからこそ、熱が入りまずし学べることもたくさんあります。

こういった先生方のサポートが、教育実習で役に立ちましたし、「絶対に教員になる!」という強い情熱を形成してくれた…と考えています。

また、教員採用試験対策に関しても、任意で講座を開講・膨大な過去問の提供・夜遅くまでの面接試験対策…など、様々な機会を提供していただきました。改めて、南光先生をはじめとする教職課程の先生方に感謝申し上げます。

教員になりたいと考えている人は、是非教職課程を履修してみてください。見える世界がより一層広がります。

最後になりますが、私は4月より上越教育大学学校教育研究科で公民科教育について研究を行う予定です。私の「教員になりたい」という想いは、全てこの教職課程から始まっています。今でも卒業するのが名残惜しいです。先生方の情熱を無駄にすることが無いよう、現状維持ではなく、今後も「学び続ける姿勢」を大切にしていきたいと思います。

時代の“潮流と深層”を読み解く。

慶應丸の内シティキャンパスの定例講演会

『夕学(せきがく)オンライン』開催

「夕学オンライン」は、慶應 MCC と株式会社ファシオとの共催事業として、夕学講演会をインターネットでリアルタイム視聴できるサービスです。お手元の PC・スマートフォン等の各デバイスから好きな場所にて受講ができ、後日 1 週間の見逃し配信もご利用いただけます。

- 開催時間：18：30～20：30
 - 受講料：1講演 4,400 円(税込)
 - 全講演 パック：41,250 円(税込) ※後日 1 週間の見逃し配信付。
- ※夕学オンラインで使用できる岡山商科大学限定特別クーポンあり(先着順 200 枚)
詳しくは、社会総合研究所までお問い合わせください。

詳細や購入は「Deliveru」
<https://shop.deliveru.jp/keiomcc/>
をご確認ください。



2023 年度前期「慶應 MCC 夕学オンライン」一覧(全 15 回)

4月11日(火)

安藤 優子 キャスター・ジャーナリスト
「報道の現場から～自民党の女性認識～」

4月13日(木)

村瀬 俊朗 早稲田大学商学学術院商学部 准教授
「流動化時代の創造的チームづくり」

4月18日(火)

梅田 悟司 コピーライター
武蔵野大学アントレプレナーシップ学部 教授
「言葉が果たす「言葉以上の役割」とは？」

5月10日(水)

片桐 仁 俳優・声優・タレント・彫刻家
「アートに会おう、遊ぼう、自分を楽しもう」

5月22日(月)

野田 稔 明治大学専門職大学院グローバル・ビジネス研究科 教授
リクルートワークス研究所 特任研究顧問
「「大変」な時代のリーダーシップ ～リーダーシップの変遷と時代の求めるリーダーシップ～」

5月25日(木)

辻 秀一 スポーツドクター
「攻めと守りのメンタルトレーニング ～ごきげんマネジメント～」

6月14日(水)

平藤 喜久子 國學院大学神道文化学部 教授
「日本の神様を知っていますか～神話学から紐解く～」

6月15日(木)

伊丹 敬之 国際大学 学長、一橋大学名誉教授
「中二階の原理～日本を支える社会システム～」

6月20日(火)

能條 桃子 一般社団法人 NO YOUTH NO JAPAN 代表理事
「若者が声を届け、その声が響く社会を目指して」

6月22日(木)

神崎 亮平 東京大学先端科学技術研究センター 教授
「サイボーグ昆虫～昆虫科学が拓く異次元の世界～」

6月29日(木)

若月 貴子 クリスピー・クリーム・ドーナツ・ジャパン株式会社 代表取締役社長
「V 字回復を支えた組織改革と人材育成」

7月5日(水)

山尾 佐智子 慶應義塾大学大学院経営管理研究科 准教授
「「ダイバーシティとインクルージョン」から「DEI」へ」

7月11日(火)

渡辺 靖 慶應義塾大学環境情報学部 教授
「アメリカ社会の分断とトランプの影」

7月18日(火)

坂井 豊貴 慶應義塾大学経済学部 教授
Economics Design Inc. 取締役・共同創業者
「経済学のビジネス実用～学知が富の源泉となった時代～」

7月27日(木)

井崎 義治 千葉県流山市長
「人口減少時代に選ばれる自治体をつくる」

2022 年度 前期 オンライン配信

4月5日(火)

安宅 和人 慶應義塾大学環境情報学部 教授
ヤフー株式会社 CSO (チーフストラテジーオフィサー)
「残すに値する未来を考える」

4月12日(火)

井手 英策 慶應義塾大学経済学部 教授
「幸福のための財政改革～ベーシックサービス～」

4月19日(火)

石山 恒貴 法政大学大学院政策創造研究科 教授
「ジョブ・クラフティング～ミドル・シニアの仕事の再創造～」

4月21日(木)

平井 一夫 ソニーグループ株式会社 シニアアドバイザー
「「ソニー再生」のリーダーシップ」

5月17日(火)

本間 浩輔 Zホールディングス株式会社 シニアアドバイザー
株式会社パーソル総合研究所 取締役(社外)
「1on1 再考～いま求められている組織と個のコミュニケーション～」

5月27日(金)

藤原 辰史 京都大学人文科学研究所 准教授
「生産から分解へ～土壌場の地球思想を求めて～」

6月1日(水)

岩佐 琢磨 株式会社 Shiftall 代表取締役 CEO
「VR メタバースの中で人は何を感じ、どう楽しんでいるのか」

6月7日(火)

大野 裕之 脚本家、日本チャップリン協会 会長
「ディズニーとチャップリンの文化経済史 ～キャラクタービジネス始め～」

6月10日(金)

稲見 昌彦 東京大学先端科学技術研究センター身体情報学分野 教授
慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 客員教授
「テクノロジーが広げる人間の可能性」

6月16日(木)

木下 達夫 株式会社メルカリ 執行役員 CHRO
「グローバルテック企業を目指すメルカリの組織文化と人事の挑戦」

6月23日(木)

志村 祥瑚 精神科医・マジシャン
「マジックと精神医学を融合したく脳の固定観念の外し方」

6月28日(火)

山根 節 慶應義塾大学名誉教授
ビジネス・ブレークスルー大学大学院経営学研究科 教授
「GAFA の経営を読み解く～その功罪、そしてこれからの日本～」

6月30日(木)

門井 慶喜 作家
「江戸・東京を作った先駆者たち」

7月8日(金)

小島 武仁 東京大学大学院経済学研究科 教授
東京大学マーケットデザインセンター センター長
「幸せは社会の仕組みで作る：マーケットデザインの科学と実践」

7月14日(木)

阿久津 聡 一橋大学大学院経営管理研究科 教授
「健康経営ブランディングのすすめ」

7月21日(木)

鹿毛 康司 株式会社かけこうじ事務所 代表取締役
マーケター・クリエイティブディレクター
「心がわかるとモノが売れる ～人は論理だけでは消費行動していない～」

7月26日(火)

坂本 崇博 コクヨ株式会社 働き方改革プロジェクトアドバイザー
合同会社 SSIN 代表
「これからの時代の働き方改革の重点課題とその失敗・成功事例と推進ノウハウ」

2022年度 後期 オンライン配信

10月14日(金) ※本講演はトークショー形式の講演 90分・質疑応答 30分の構成です。

山縣 亮太 陸上競技選手 (セイコー)
「10秒の壁のその先で」

10月26日(水)

久寿良木 健 アセントロボティクス株式会社 代表取締役 CEO
近畿大学情報学部 学部長 教授
元株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメント 代表取締役会長
「デジタルツインが切り拓く未来」

10月27日(木)

菊澤 研宗 慶應義塾大学商学部 教授
「日本企業の強みを活かす経営戦略 ～ダイナミック・ケイバビリティ論～」

11月2日(水)

田村 次朗 慶應義塾大学法学部 教授
ハーバード大学国際交渉学プログラム・インターナショナル・アカデミック・アドバイザー
「ニュースから学ぶ「対話力」～困難な問題を乗り越える交渉学のすゝめ～」

11月4日(金)

三品 和広 神戸大学大学院経営学研究科 教授
「企業成長の仕組み方」

11月9日(水)

廣瀬 陽子 慶應義塾大学総合政策学部 教授
「アップデートする「ハイブリッド戦争」」

11月11日(金)

千葉 雅也 立命館大学大学院先端総合学術研究科 教授
「世界の「余地」を考える ～フランス現代思想と脱構築～」

11月15日(火)

吉藤 オリイ 株式会社オリイ研究所 所長
「サイボーグ時代の人生戦略～人から必要とされ続ける生き方～」

11月22日(火)

上野 千鶴子 認定 NPO 法人 ウィメンズ アクション ネットワーク (WAN) 理事長
東京大学 名誉教授
「アンチ・アンチエイジングの思想」

11月25日(金)

高田 朝子 法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科 教授
「いま磨き上げるべきリーダーシップ」

11月30日(水) ※本講演は石川氏の講演 20分・安田氏の講演 30分・対談 50分・質疑応答 20分の構成です。

安田 登 能楽師 (ワキ方、下掛宝生流)
石川 善樹 公益財団法人 Well-being for Planet Earth 代表理事
「日本の古典に Well-being をまなぶ」

12月1日(木)

高橋 俊介 慶應義塾大学 SFC 研究所 上席所員
「人と組織を強くする独学力」

12月5日(月) ※本講演は落語一席を交えた講演 90分と質疑応答 30分の構成です。

桂 宮治 落語家
「元トップセールスマンの落語家が教えるコミュニケーション術～明るい所に花は咲く～」

12月15日(木)

清水 たくみ 慶應義塾大学総合政策学部 准教授
「デジタル時代の新しい組織と協働のカたち」

12月16日(金)

垣内 俊哉 株式会社ミライロ 代表取締役
一般社団法人日本ユニバーサルマナー協会 代表理事
「バリアバリュー 障害を価値に変える」

12月22日(木)

川野 泰周 臨済宗建長寺派林香寺 住職
RESM 新横浜 睡眠・呼吸メディカルクリニック 副院長 (精神科・心療内科医)
「本当の私で生きる ～コンパッションと「1/2」の実践で自己の本分に立ち返る～」

12月23日(金)

酒井 隆史 大阪公立大学現代社会システム科学研究科 教授
「フルシット・ジョブの謎とこれから ～無意味な仕事をどうしたらやめられるか?～」

1月12日(木)

山本 健人 田附興風会医学研究所北野病院 消化器外科 医師・医学博士
「現代人のための医学の教養～医療リテラシーの向上を目指して～」

1月16日(月)

島津 明人 慶應義塾大学総合政策学部 教授
「新たな時代のワーク・エンゲイジメント」

1月17日(火) ※本講演は、講演 60分・質疑応答 30分の構成です。(20:00 終了)

杉山 文野 NPO 法人東京レインボープライド 共同代表理事
株式会社ニューキャンパス 代表取締役
「性の多様性と人権～違いを知り、違いを楽しむ～」

1月25日(水)

藤崎 忍 株式会社ドムドムフードサービス 代表取締役社長
「ドムドムの逆襲～39歳まで主婦だった私の「思いやり経営」～」

1月26日(木) ※本講演は、講演 60分・質疑応答 30分の構成です。(20:00 終了)

今村 翔吾 歴史小説・時代小説家
「小説家に至る道」 ◎本講演は見逃し配信の実施はありません。

2月1日(水)

藤井 丈司 音楽プロデューサー
慶應義塾大学アートセンター フェロー
「シティポップの歴史と現在～音楽で読み解く日本文化～」

2月7日(火)

小泉 悠 東京大学先端科学技術研究センター 専任講師
「ロシアの論理、ウクライナの論理」

2月10日(金)

南 昌宏 株式会社りそなホールディングス 取締役兼代表執行役社長
「DXへの挑戦」

2021年度後期から夕学オンラインで使用できる「岡山商科大学特別クーポン」を限定で配布。

商大講座のご案内

～出前講義：

講師がお近くまで伺います！～

岡山商科大学社会総合研究所
〒700-8601
岡山市北区津島京町 2-10-1
TEL/FAX 086-256-6656 (直通)
TEL 086-252-0642 (代表)
E-mail syaken@po.osu.ac.jp

お申し込みができるのは？

30 名程度の聴講者が見込める、岡山県内の公共・一般団体や企業です。

講座のプログラムは？

次ページをご参照ください。

1 講座は 1 時間から 2 時間（質疑応答を含む）の構成になっております。プログラムに掲載のないテーマにも対応させていただきますのでご相談ください。

費用は？

講師料は無料です。ただし、会場の手配・設営および案内発送に係る事務作業や費用は申込者にてお願いします。（※受講者から料金を徴収されている場合は、講師料が発生します。講師料は応相談。）

申込手続きは？

お電話、FAX、Eメールで上記までお問い合わせください。

開講にあたっての注意

教員の都合等により、必ずしもご希望に添えないことがあります。

2022 年度 実績

開催日	講座内容	会場	講師
8/26 (金)	「発想法ワークショップ」 (瀬戸内市役所総合政策部企画振興課)	瀬戸内市役所	三好 宏 (経営学部教授)
12/18 (日)	「デジタルトランスフォーメーション DX の勘どころ」(つやま産業支援センター)	鶴山ホテル	門脇 一彦 (経営学部特任教授)
2022 年 4 月～ 2023 年 3 月 第 4 金曜日	「三野リフレッシュ健康教室」 ～健康な心とからだづくりをめざして～	三野公会堂	青山 敦子 (社会総合研究所客員教授)
2022 年 4 月～ 2023 年 3 月 隔週火曜日	「牛窓リフレッシュ健康教室」 ～健康な心とからだづくりをめざして～	牛窓公民館	青山 敦子 (社会総合研究所客員教授)
2022 年 4 月～ 2023 年 3 月 第 2、第 4 月曜日	「山陽町リフレッシュ健康教室」 ～健康な心とからだづくりをめざして～	山陽公民館	青山 敦子 (社会総合研究所客員教授)
4/18 (月) 6/ 6 (月) 4/25 (月) 6/20 (月) 5/16 (月) 7/ 4 (月) 5/30 (月) 7/25 (月)	「前期リフレッシュダンス教室」 ～健康な心とからだづくりをめざして～	岡山商科大学 剣道場	青山 敦子 (社会総合研究所客員教授) 小野 陽美 (社会総合研究所特別研究員)
9/26 (月) 11/ 7 (月) 10/ 3 (月) 11/21 (月) 10/17 (月) 12/ 5 (月) 10/31 (月)	「後期リフレッシュダンス教室」 ～健康な心とからだづくりをめざして～	岡山商科大学 剣道場	青山 敦子 (社会総合研究所客員教授) 小野 陽美 (社会総合研究所特別研究員)
1/31 (月) 3/ 6 (月) 2/ 6 (月) 3/20 (月) 2/20 (月)	「ミニリフレッシュダンス教室」 ～健康な心とからだづくりをめざして～	岡山商科大学 剣道場	青山 敦子 (社会総合研究所客員教授) 小野 陽美 (社会総合研究所特別研究員)
12/19 (月)	「リフレッシュダンス教室体験会」 ～健康な心とからだづくりをめざして～	岡山商科大学 剣道場	青山 敦子 (社会総合研究所客員教授) 小野 陽美 (社会総合研究所特別研究員)



2022 年度「商大講座」メニュー 一覧

	テーマ	所属学部等	講師氏名	担当講義・専門分野
注目イベント	リフレッシュダンス教室 ～健康な心とからだづくりをめざして～	社会総合研究所客員教授	青山 敦子	元 高校保健体育教師
		社会総合研究所特別研究員	小野 陽美	体育/ダンス指導
	発想法ワークショップ (はっ! そう?! ほ～。ワークショップ)	商学科教授	三好 宏	マーケティング入門 地域マーケティング
教 養	・戦後ドイツにおける「過去の克服」	商学科教授	香月 恵里	ドイツ語/ドイツ文学
	・道徳的ジレンマへの挑戦 ー行為の優先順位が、その記述に左右されることー	法学科教授	九鬼 一人	哲学/倫理学/論理学
	・吉備の古代史入門	商学科特任教授	福本 明	博物館学芸員課程/考古学
	・シェイクスピアと言葉 ・シェイクスピア劇におけるよりよい生き方	商学科教授	松浦 英佐子	英語学 英文学
法 学	・生命倫理 ・臓器売買	法学科教授	粟屋 剛	生命倫理と法
	・消費生活と契約	法学科講師	倉持 弘	民法
	・刑事司法の現状と課題 (裁判員制度、日本型司法取引、少年法など) ・現在の犯罪・非行の情勢について	法学科教授	白井 諭	刑事訴訟法 刑事政策
	・国際裁判による紛争の平和的解決	法学科准教授	砂川 和泉	国際法
	・法解釈の権力性ー司法と立件のあいだ ・法は守らなければならないのか	法学科講師	見崎 史拓	法哲学
	・所有者不明土地についての改正法 ・親子法制改正法	法学科教授	吉岡 伸一	家族法/物権総論
経済学	・中国経済の構造転換	経済学科教授	田中 勝次	国際金融論
経営学・商学	・中国企業の現状と課題	経営学科准教授	于 琳	国際経営論/経営管理論
	・金融リテラシー概説 ・相続と住宅管理 ・空き家対策	商学科教授	海宝 賢一郎	ファイナンシャルプランニング 不動産管理論
	・デジタルトランスフォーメーション(DX)の勘どころ ・技術人材の技能形成を考える	経営学科特任教授	門脇 一彦	技術経営
	・電子商取引の現在 ・電子マネーの現在	商学科教授	蒲 和重	流通システム論
	・学びを支える ICT ・身近な科学と技術	経営学科教授	小松原 実	情報技術論 マルチメディア表現・技術
	・生涯にわたる資産運用と引き出し方法	商学科教授	城下 賢吾	コーポレートファイナンス ポートフォリオマネジメント
	・充実したライフデザインと キャリアプランシナリオの描き方 ・ファイナンシャルプランニングの基礎知識・財産戦略	商学科教授	高林 宏一	ファイナンシャルプランニング
	・おかやま地域の産業・商業振興	商学科教授	田中 潔	マーケティング/社会調査
	・金融資産運用の基礎知識	商学科教授	鳴滝 善計	証券市場論 金融資産運用設計
	・戦略経営と管理会計：財務・非財務指標による管理	経営学科教授	浜田 和樹	管理会計
	・日本のフグ食文化とフグ処理者免許の全国不統一問題 ・自動車産業のメガ・モジュール化競争	経営学科教授	古川 澄明	経営学
	・サービスの提供は人としての成長 ・マーケティングの魅力と危険性	商学科教授	松井 温文	流通マーケティング サービス・マーケティング
	・発想法ワークショップ ・観光・まちづくりのマーケティング	商学科教授	三好 宏	地域マーケティング ビジネス概論
	・情報化社会における脅威と身の守り方	経営学科准教授	箕輪 弘嗣	メディア情報学 情報ネットワーク論
	・ことばと文化の交差点 ー観光サインの多言語化を考えるー	商学科 准教授 // 教授 // 教授	徐 沅廷 黎 晔妮 松浦 英佐子	観光学 日本語教育学 英語学・英文学

岡山商科大学 OPEN COLLEGE

社会総合研究所 所長 海宝 賢一郎

社会総合研では、社会科学系の総合私立大学としての役割を果たすため、社会人向けリカレント教育事業の企画・運営も行っております。本年度は新企画として、専門的な知識と実務を兼ね備えた学修プログラム「岡山商科大学 OPEN COLLEGE」を開講しました。

初年度として当研究所客員教授による2つの講座を開講しました。一つは、当研究所客員教授の近藤一仁による「私とIR～IRの今までと、これから～」をテーマにした全10回のオンライン講座。もう一つは、当研究所客員教授の長田貴仁による「日本企業と経営者を深掘する 私が実際に目にした「実像」とは」というテーマの全10回オンライン講座です。

お陰様で、企業や個人の方々が多数受講してくださり、社会人教育の一助となったものと考えます。これからも、地元岡山で活躍する社会人の皆さまへ学びの場を提供できるような講座を考案して参りますので、引き続きよろしくお願い致します。

『私とIR～IRの今までと、これから～』



講師：近藤 一仁
(岡山商科大学社会総合研究所客員教授、IR戦略研究所代表)

日本のIR (Investor Relations) の第一人者がお届けする、投資家・企業家向けの業界分析セミナーです。IRの歴史と現在、そして未来を分かりやすく解説し、投資家にとって、また経営者にとって「IR」とは何か読み解きます。また、就活を行う方向けには、IRの活用方法を伝えます。

『日本企業と経営者を深掘する 私が実際に目にした「実像」とは』



講師：長田 貴仁
(岡山商科大学社会総合研究所客員教授)

ビジネス誌『プレジデント』の元副編集長も務めた講師が、日本を代表する多くの企業経営者にインタビューし、経営学者とジャーナリストの両視点から得た論考を、最新のビジネストピックスも交えながら語ります。日本の名(迷)経営者たちの素顔を知ればこそ、他に例を見ないユニークな講演です。

2022年 オンライン講座 配信テーマ 全10回

①	拙著『私とIR』、執筆に関する二つの動機
②	IRが『株主関係管理』と訳されていた時代
③	IRの黎明期 ～日本IR協議会の誕生と貢献～
④	IRの飛躍期 ～IRに対する誤謬と本質～
⑤	IRの現状 ～我が国企業のIR活動～
⑥	IRの現場 ～証券アナリストの問題と期待像～
⑦	IRの未来 ～コロナに影響されたIR活動～
⑧	IRの新潮流 ～Web IRと統合報告(ESG)ブーム～
⑨	岡山県下のIR優良企業の紹介 ～オンライン鼎談～ ★県内企業経営者等との対談形式
⑩	IR就活について ～就活生と親に贈る対談～

2022年 オンライン講座 配信テーマ 全10回

①	私が対話してきた名(迷)経営者の素顔
②	日本の高度経済成長を支えた 偉人経営者たちに学ぶ逆境克服の極意
③	「DX礼讃の時代」だからこそ 見直したい名経営者の経営哲学
④	日本企業でDXが一方向に進展しない理由
⑤	「社会システム産業」としてのセコム -収益よりも社会問題の解決を優先する経営哲学-
⑥	松下家と「離婚」したパナソニックは復活できるか
⑦	「ソニーらしさ」を変貌させた 脱カリスマ型リーダーシップ
⑧	永守重信、柳井正、孫正義のもとで「後継者」が育たない理由
⑨	「トヨタタイムズ」から透けて見える 知られざるトヨタ自動車の内側
⑩	ファミリービジネスにおける成功と失敗の分水嶺

著書紹介

『友好交流を求めて大和塾を探す旅 —歴史に埋もれた人々の足跡をたどる』

全 円子 [著] ふくろう出版 (2022)

経営学部商学科 准教授 全 円子



日本と朝鮮・韓国の歴史の中で忘れられ、埋もれてきた人たちの足跡に、本書では新たな焦点をあてた。古代から現在へと時系列で組み立てる構成である。各章で時代の背景をかなり丁寧に叙述した。なぜなら、日本社会では残念ながら高校までの歴史教育でもメディアにおいても、最も近い隣国の歴史、日本との関係の歴史がないがしろにされ、植民地支配時代の歴史認識が自覚的に克服されておらず、一面的なわずかな知識しか教えられていないからだ。本書は、日韓双方の人々の足跡から、一般的に知られていなかったことを解明している。

「大和塾を探す旅」を私が始めたのは大隅実山氏との出会いからである。大隅氏は、日本統治下の朝鮮で朝鮮人独立運動家・民主主義者を収容し思想転向させるための機関、大和塾に日本人僧侶として関わったことを深く後悔し、戦後岡山で引き取り手のない朝鮮人の遺骨を引き取って供養し、祖国に返還することを続けていた人である。大和塾の調査を大隅氏に託されたことをきっかけに、私は自らの為すべきことを自覚した。私は、安重根の遺墨を3代にわたって大切に保存してきた岡山県笠岡市の浄心寺を訪ね、ソウルの安重根記念館にも行き、安重根の遺徳を偲んだ津田海純の足跡を伝えた。

明治の日本と朝鮮の文化交流に少なからず貢献したのが、樋口一葉の師として知られる半井桃水である。対馬に生まれ、少年時代にプサンへ渡航して朝鮮語を習得した桃水は、1881年から6年間新聞社の特派員として同地に駐在した。そして、日本が朝鮮と円滑に通商を行うためには、韓の人々の人情を知ることが必要であると考え、庶民の生活を題材にした古典文学の『春香伝』を日本語に訳すとともに、自ら『朝鮮小説一胡砂吹く風』を新聞に連載する。現在はドラマや映画、音楽グループが人気を博し、韓流文化は世界的にも認められている。しかし、韓流文化の波が押し寄せる現代だからこそ、過去の歴史の中で綺羅星のように存在した、日韓・日朝の友好関係を築いてきた人々に想いを巡らせることが、今後の交流には大切なのではないだろうか。本書を通して、友好関係を築いた人々と出会い「自分らしく生きる」指針を見出してもらいたい。

著書紹介

『大系租税法第4版』

水野 忠恒 [著] 中央経済社 (2023)

法学研究科 特任教授 水野 忠恒



法学の分野では、体系書といわれる書籍があるが、本書も、その性格をもつ書物であり、租税法、具体的には、租税法の基礎理論から始めて、税務調査、推計課税などの租税手続の論点、これに関連してe-tax納税や、マイナンバーなどの納税環境の整備を取り上げる。いわば、納税義務を確定するために必要な情報・データをどのように確保するかという問題である。そして、租税に関する紛争を扱う国税不服審判所に対する不服申立てや租税訴訟を扱う。最近では、毎年、2,000件程度の不服申立てに、約300件の訴訟が提起されている。

50年ほど前は、このような租税行政に関する研究が中心であったが、現代では、個別の租税に研究の関心が移ってきていると思われる。社会生活や経済活動に対して、直接、影響が及ぶからである。本書でも、所得税法、法人税法、国際課税、相続税法（相続税、贈与税）、消費税法、地方税（固定資産税、事業税等）に多くの頁を使い、論じている。特に、この数年、最高裁判所が、大企業の事業再編や企業グループをめぐる租税事件について、次々と、判断をくだしているの、本書の改訂においても、特に、本文において、検討を加えている。

本書の前身である「租税法」（2003年）が公にされてからちょうど20年になる。今回で9回目の改訂ということであるが、頁数は、1,245頁と、ほぼ倍になっている。これは、税制改正が頻繁になされてきたことと、重要な裁判例も多くなってきたことを現わしており、租税法が、益々、重要となっていることを顕著に示しており、今後も、本書の改訂を継続したいと考えている。

著書紹介

『ユートピアのアクチュアリティ —政治的想像力の復権』

菊池 理夫 [著, 編集] 有賀 誠 [著, 編集] 田上 孝一 [著, 編集] 晃洋書房 (2022)

法学部法学科 講師 見崎 史拓

いまさらユートピアなんて論じてどうするんだ？我々に必要なのは現実的で地に足のついた議論だ！——本書は、そうした風潮に対して物申すべく、政治哲学の研究者たちが中心となって執筆された編著です。古代ギリシア哲学、各国の社会主義、キリスト教思想、果てには縄文社会論まで、様々な観点からユートピア論の現代的意義が語られています（全12章+序章+あとがき）。

現実的に考えよ、という言葉は一種の呪縛です。思い切った発想は鼻で笑われ、格差拡大や環境問題といった社会的な難問がズルズルと残存し続けてしまいます。確かに現実を考えることは重要ですが、それを思い切って超えていくようなユートピア的想像力の可能性を、今一度考えてみるのもよいのではないのでしょうか。

私は、唯一の法学畑として、「法とユートピア」（第11章）という章を担当しました。法とユートピアが結びつく、というのは少しおかしく聞こえるかもしれませんが。ユートピアは、もともと「どこにもない場所」という意味です。しかし、憲法・民法・刑法など、法は、現実社会に敵として存在し、我々の行動を規律しているではありませんか。

確かにそのとおりです。しかし、このことは、法とユートピアの結びつきを否定しません。法は、解釈を必要とします。この解釈に際し、ユートピア論がもたらす社会についての想像力が役に立つ、と主張する論者が実際にいるのです。私の章では、彼らの議論を紹介し、その可能性について私なりの検討を加えました。

最終的にユートピアの重要性について説得されずとも、本書を読むことは、現在忘れられがちである様々な面白い思想に触れる機会にもなります。ぜひ一度手に取っていただければ幸いです。



著書紹介

『医療組織のサービス・マネジメント』

宮原 勅治 [監修] 藤岡 昌則 [編集] 林 薫 [著] 門脇 一彦 [著] 岩田 泰彦 [著]
白桃書房 (2022)

経営学部経営学科 特任教授 門脇 一彦

長引くコロナ禍で、医療に対する期待と評価が変わりつつある中、本書は「医療の質」に着目して、医療サービスを受ける患者さん（顧客）の満足度を高めながら、医療従事者の労働の満足度にも注目した、医療サービス・マネジメントについて論じています。A. ドナベディアンによると、医療の質は「構造」「プロセス」「アウトカム」によって、測定・評価が可能で、医療従事者は、常にPDCAを回しながら改善に努めていることが、知られています。

「医療の質」とは、どのような性格なののでしょうか。製造企業で多く採用されるISO9000シリーズの品質の定義は、「製品やサービスの本来備わっている特性が、要求事項を満たす程度」であり、この考え方が医療の質にも適用できるといえます。医療施設が、「最先端の施設を持ち先進治療ができること」が医療の質向上と捉えると、これは医療提供側が実施したいことを提供するプロダクトアウトの考え方といえます。これでは、患者さんの要求に向かって提供されるサービスとは言えません。マーケットインの考え方に立って、患者さんの要求の本質を見極め、それを提供することが必要です。

本書では、医療をサービス設計とマネジメントの視点から考え、経営領域の議論を取り入れてその質向上を考えます。例えば、サービスをプロセス設計と捉え、品質マネジメントシステム（QMS）の議論を援用してその改善を考え、サービスを実践する人間に注目して、彼らのモチベーションやリーダーシップといった問題も議論しながら、チーム医療の実現を目指しています。また、最新のICT活用とBSC（Balanced Scorecard）やシックスシグマ活動といった改善の視点、更に、地域医療ネットワークや遠隔医療といった医療機関の分業や連携にも議論を広げ、医療の質向上を考えます。



『盗取されたキャッシュカードを利用した不正払戻しと預金者保護法の適用（消極的）』

吉岡 伸一〔著〕 銀行法務 21 第 884 号 (2022)

法学部法学科 教授 吉岡 伸一

本書は、銀行法務 21 の編集部から、最近の金融法務で話題となるものがないかと相談があり執筆、投稿したものである。本書で取り上げた「キャッシュカード詐欺盗」とは、いわゆる特殊詐欺の一種で、警察庁統計資料では次のように定義されている。すなわち、警察署や銀行協会、大手百貨店等の職員を装って被害者に電話をかけ、「キャッシュカードが不正に利用されている。」等の名目により、キャッシュカード等を準備させた上で、隙を見るなどし、同キャッシュカード等を盗取るものをいう。今般、キャッシュカード詐欺盗の事案につき、被害者が「偽造カード等及び盗難カード等を用いて行われる不正な機械式預貯金払戻し等からの預貯金者の保護等に関する法律（平成 17 年 8 月 10 日公布、平成 18 年 2 月 10 日施行。以下「預金者保護法」または「法」という。）の「重大な過失」ではなく、「過失」に該当する事例に当たるとして訴えを提起し、第一審判決（東京地判令 3.2.19 金融・商事判例 1618 号 37 頁、金融法務事情 2178 号 92 頁〔確定〕）が「重大な過失」と判示したので、本書ではこれにつき検討した。

思うに、預金者保護法が成立した由来は、従前は偽造または盗難されたキャッシュカードにより、預金が ATM で勝手に引き出されるというのは比較的少なかったところ、平成 15 年ころから急激に増えてきた。それ以前は預金規定の免除特約や民法 478 条の適用あるいは类推適用により金融機関がほとんどのケースで救われ、引き出された預金の負担は預金者が負っていた。しかし、日進月歩する科学技術の進展があり、盗む側の科学技術が進む一方、金融機関は、これに対応する技術革新を怠った責任があるのではないか。それにもかかわらず、前述のように、預金の負担はほとんどのケースにおいて預金者が負担している。これは、マズイのではないか。そこで、キャッシュカードを使つての ATM からの不正な引出しの負担を原則として金融機関側に負わせようというのが、預金者保護法の基本的な考え方である。しかし、これとバランスをとるために、預金者の方も「無過失」が求められる。ましてや、「重大な過失」があればなおさらである。本判決は、そのように考え、判決を下したものと推察する。

ところで、特殊詐欺に対する今後の対策としては、キャッシュカードに頼らず、生体認証カードを使ったり、QR コードを活用したり、2 段階認証を活用したりする方法が考えられる。



『岡山商科大学 質保証のための全学マネジメントシステム』

井尻 昭夫 大崎 紘一 田中 康秀〔編著〕 ふうろう出版 (2022)

副学長 田中 康秀

本学は令和 3 (2021) 年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による「大学機関別認証評価」を受審した。我が国の高等教育機関である大学は、「教育研究等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者（認証評価機関）による評価（認証評価）を受けるものとする。」（学校教育法第 109 条第 2 項）と規定されており、今回の受審は 3 回目である。本書は、第 3 回の認証評価を受審するにあたり、本学が平成 26 (2014) 年度に第 2 回の認証評価を受審して以降の 7 年間における「全学マネジメントシステム」、「質保証システム」、「教学マネジメント」、施設整備、教職員組織、学生支援、教育体制、研究体制について取り組んできたことをまとめたものである。

文部科学省は平成 20 (2008) 年の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」により、教育の「質保証の向上」、「全学的な教育改革の方向性」を明確にし、さらに、平成 24 (2012) 年の同審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」において、それらの実施すべき方向性を具体的に示した。本学においても、これら文部科学省による「大学教育の質保証」を実施するための「全学マネジメントシステム」および「教学マネジメントシステム」を構築し、その運用を着実にやってきた。具体的には、学長のリーダーシップのもと、各種委員会の機能を明確にして PDCA サイクルが迅速に回る体制作りを行い、また教育においては本学独自の「社会力修得のための 3 つのポリシーと 3 段階教育システム」により「教育の内部質保証」を確保しているが、本書はまさに、第 2 回認証評価受審以降の 7 年間における本学の歩みの集大成である。

本学が第 3 回認証評価を受審するに当たって意識したことは、「単なる申請作業にとどまることなく、多くの参加スタッフが大学の現状と課題について一段と掘り下げて学習する絶好の場である」（本書 p.1）ことであった。その意味で、本書は今後の外部評価を全学的に取り組むための「共有の知的財産」として出版したものである。



著書紹介

『岡山商科大学 教育シリーズ1 データ分析 社会科学系のための Excel によるデータ分析』

島田 伸夫 邵 忠 村上 洋之 西 敏明 大崎 紘一 [著] ふくろう出版 (2022)

経営学部経営学科 教授 西 敏明

情報リテラシー、データサイエンスは、理工系のみならず、社会科学系の教育においても必須の知識として習得することが必要な時代となってきました。更に小学校からタブレットを使用した情報教育が行われるようになり、大学においてもこれらの状況を踏まえたデータを基本にした数量的な取り扱いのできる能力を一般教育の一環として習得させるプログラムが必要になっています。

岡山商科大学では、情報リテラシー教育を全学部1年生から重要な科目として教育を行っていましたが、2022年度より「データ分析」を全学必修科目とし、Microsoft OfficeのExcelを基本にして、各種の公開されているデータベースにアクセスし、統計的な分析手法、時系列分析手法を学生が率先して修得できるように、各処に必要な知識は参考資料のURLを表示し直ぐに参照できるようにしています。更に、自分の活動から生じたデータの収集・分析、アンケートの作成、実施、分析するWebアンケート手法、また数値データだけでなく文書データの定量的な分析をするテキストマイニング手法についても示すことにより、どのような場面でもデータ対応能力を修得できる内容構成にしています。

本学の1年生に必修科目として全員に履修させるためには複数の教員が講義を担当することになるため、できるだけ同じレベルの教育内容で実施できるように本書をまとめています。

なお、この本文は、本書の「巻頭言」より引用し、一部改変している。



著書紹介

『INSTITUTIONAL RESEARCH 岡山商科大学 教育研究の質保証体制を支援するIRの取組』

IR 実施委員会 大崎 紘一、佐井 至道、西 敏明、三浦 尚子、太田 尚宏、遠藤 みゆき、牧 哲也 [著]

ふくろう出版 (2022)

経済学部経済学科 教授 佐井 至道

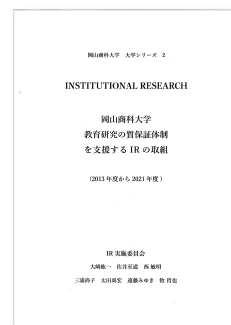
IR (Institutional Research) は、大学において運営上の意思決定や計画立案に必要な情報を収集・分析・提供することを指します。本学では2013年度にIR実施委員会が組織されて、副学長なども務められ2021年度末にご退職された大崎紘一先生が、委員長として中心的に活動されました。本書はIR実施委員会が行ったIR活動についてまとめたもので、資料として掲載されているアンケート調査の実施や集計の過程においては、IR実施委員会の委員、特に事務職員の方々のサポートが大きかったものの、本書の執筆については大崎先生がほぼ一人で担われました。紹介は現在IR実施委員長を務める佐井がさせていただきます。

本書はIR活動の概要をまとめた前半部分と、毎年度、継続的に行われているアンケート調査の概要をまとめた後半部分からなります。

前半部分では、IRの実施体制や実施内容だけでなく、IRが必要とされる背景、特に大学教育のPDCAサイクルについて、本学の体制も含めて説明されています。大学は7年毎に大学機関別認証評価と呼ばれる外部評価を受審しなければなりません。IR実施委員会がどのように評価に関わったかについても書かれています。

後半部分では、主要なアンケート調査である授業評価アンケート、卒業時アンケート、既卒者アンケート、企業アンケート、新入生アンケートなどの調査項目、集計結果、分析結果がまとめられています。例えば授業評価アンケートの調査結果は、4学科と非常勤それぞれのカテゴリ別に、学生からの評価が最も高かった教員を表彰することにも使われています。このような調査の重要性はずいぶん前から認識されていましたが、最近では、経年変化や、入学から卒業までの学生の変化、さらには入学前（高校での状況や入試結果）から卒業後（就職先での状況）までの変化を把握することが求められています。

なお前半部分の最後には、全学的なデータの一元化などの課題も挙げられており、今後の活動の指針となっています。



2022 年度 孔子学院活動報告

孔子学院 学院長
経営学部商学科 教授
黎 曉妮

岡山商科大学孔子学院は、2007年6月12日に「中国孔子学院本部」から設置が認可され、同年11月25日に中国側協定大学である大連外国語大学と業務提携調印式並びに開設式を執り行い、今年では設立15周年を迎えました。2020年6月19日に、孔子学院の所属は「中国孔子学院本部」から「中国国際中文教育基金会」という中国の関係大学、企業、民間団体が共同で設立した組織に移行しました。そして、2022年12月6日付けで「岡山商科大学と大連外国語大学『岡山商科大学孔子学院』に関する業務提携協定書」が更新され、2022年12月26日付けで「中国国際中文教育基金会、中国大連外国語大学と日本岡山商科大

学が孔子学院を共同で設置することに関する協定書」が署名されました。

2022年9月29日に日中国交正常化50周年の節目を迎えましたが、これを記念して本学院では、中国文化講座や中国経済講座を実施しました。さらに、本学院設立15周年記念行事として中国伝統文化講座を開催しました。また、本年度後期から大連外国語大学商学院孫文選准教授が孔子学院講師として派遣されました。スタッフ一団力を合わせて、2022年度の事業（2022年度岡山商科大学孔子学院活動一覧を参照）を展開しました。



孔子学院理事会 (6.17)



中国経済講座 (9.23)



商大祭出店 (12.10)



中国文化講座 (7.30)



中国伝統文化講座 (11.26)



春節交流会 (2023.1.21)

2022 年度 岡山商科大学孔子学院活動一覧		
5月	21日	岡山県立津山商業高等学校生徒との端午節交流会
6月	17日	孔子学院理事会 (オンライン開催)
7月	8日	中国語作文コンテスト結果発表
	30日	日中国交正常化50周年記念行事 ◇中国文化講座 テーマ：日中友好交流の歴史について 講師：横見 幸憲 (岡山県日本中国友好協会 事務局長)
8月	28日	中国語教育研究会 テーマ：ことばの向こうに —中国語作文コンテスト応募作品に見られる表現を中心に 講師：韓 雲冬 (岡山商科大学 経済学部准教授・孔子学院副学院長)
9月	23日	日中国交正常化50周年記念行事 & 孔子学院の日 ◇中国経済講座 テーマ：日本酒類の中国輸出及び現地生産販売における経済文化交流について 講師：邵 忠 (岡山商科大学 経営学部教授)
10月	8日	岡山商科大学孔子学院中国語スピーチコンテスト & 第2回全日本中国語スピーチコンテスト 岡山県大会 ◇スピーチ部門 (一般部門、大学生部門、高校生部門) ◇朗読部門 (一般の部、大学生・大学院生の部、中学生・高校生の部)
	22日	日本孔子学院協議会 (オンライン開催)
11月	26日	岡山商科大学孔子学院設立15周年記念行事 ◇中国伝統文化講座 テーマ：中国民族楽器について ~二胡を中心に~ 講師：劉 習韻
12月	10~11日	第57回商大祭出店 (展示パネル、中国文化体験)
	22日	日韓孔子学院文化サロン & 中国語コーナー テーマ：中国・日本・韓国のお正月を語り合おう
1月~12月		
◇毎週金曜日 RSKラジオ中国語講座「商大孔子学院コーナー」 テーマ：日常生活で使える中国語を覚えよう		
◇毎月第1、第3水曜日 レディオモモ孔子学院ラジオ番組 テーマ：中国世界遺産について		
5月~8月 遠隔通信システムによる高校中国文化授業 (岡山県立津山商業高等学校)		
4月~8月 前期中国語講座		
9月~ 後期中国語講座		
2023年2月		
2023年		
1月	11日	中国文化サロン テーマ：聞く・見る・知る中国 —中国の世界文化遺産について 講師：孫 文選 (大連外国語大学商学院准教授・孔子学院講師)
	21日	岡山商科大学留学生と孔子学院受講生の春節交流会

2022年度の商大塾を振り返り

社会総合研究所 次長
経営学部経営学科 准教授
吉良 友人

資格取得支援を行っている「商大塾」を通じて、各種資格の合格に向けた学内試験対策講座や学外講座（商大塾の推奨講座）を受講することによって、税理士や宅地建物取引士をはじめとした国家資格の合格者も少数ながら安定的に輩出されるようになってきました。

◆ビジネス実務に関連した難関資格合格者がさらに増加

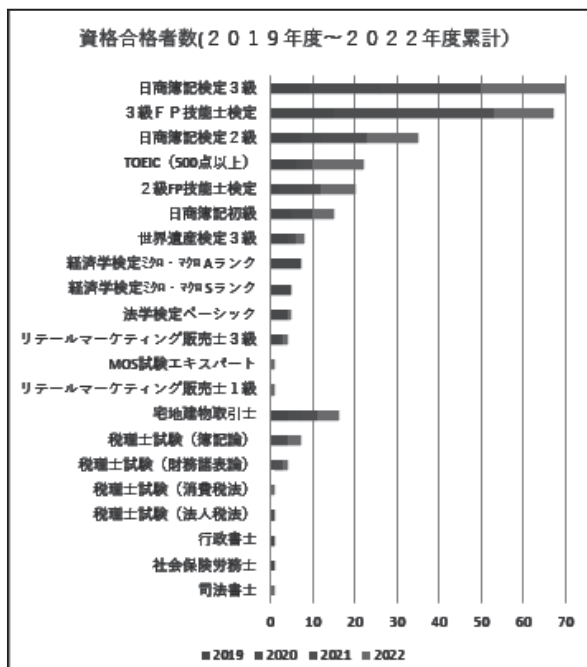
今年度も難関資格合格者が増加傾向にあります。まず特筆すべきは、司法書士試験に1名が合格したことです。私が調べた限りでは在学中での合格者は20年以上でておらず、このニュースには教職員一同驚きました。また、税理士試験では安定して合格者がでており、消費税法1名（昨年度、2科目合格者）、簿記論3名、財務諸表論1名（簿記論と同じ学生）が合格し、宅地建物取引士試験でも5名の合格者ができました。同じ資格を目指す学生同士が切磋琢磨している様子を見てみると、この結果にも納得がいきます。

商大塾では、来年度も引き続き学生との面談を行い、個々人のレベルに合わせて早い段階から目標を達成するためのプランを提案することで、今後も学生の資格取得を支援していきます。

◆ダブルスクールで国家資格合格を目指す

国家資格については、提携先の学外講座（資格の専門学校での通学講座）を受講するダブルスクールによる学習が定着してきており、税理士講座などの会計系の資格講座をはじめ、宅地建物取引士など不動産実務に直結する資格についても、学外講座を積極的に受講して合格に結びつけています。また、今回は司法書士試験の合格者がでたことから、法律系の資格取得についても今後期待です。

商大塾では、提携先の受験指導校の受験料割引制度や資格試験合格者に対する支援金制度などにより学習支援を行っており、学生も上手に活用してくれています。



ちょっと振り返り ～過去からの合格実績～

2級FP技能士	77名 (2008年度～2022年度の累計)
3級FP技能士	247名 (")
AFP認定者	43名 (2010年度～2022年度の累計)
日商簿記2級	56名 (2011年度～2022年度の累計)
日商簿記3級	105名 (")
販売士2級	17名 (2012年度～2022年度の累計)
販売士3級	29名 (")

※ AFP認定者は日本FP協会への登録完了者数

本学は、実践的能力の取得や社会人としての教養を身につけ、早期から社会人となるための意識を高めるよう学生を指導しています。

そうした中で、国家資格や検定試験へのチャレンジを学生に促し、積極的に受験できるよう「岡山商科大学専門学校」ならびに「学校法人産業能率大学」と連携して、資格試験講座・通信教育講座等を実施しています。

また、国家資格試験等に合格した場合、支援金を支給する「岡山商科大学資格取得支援制度」を設けています。本年度も多数の皆さんが、公務員採用試験・検定試験に合格されました。

公務員試験合格者 (2022年度)		
国家公務員	国家公務員採用一般職試験 (運輸局)	1名
	国税専門官	1名
	刑務官	3名
地方公務員	赤磐市役所	1名
	高知県公立教員採用試験 (一次合格)	1名
	警察官 (岡山県4名 大阪府1名 愛媛県1名 山口県1名)	7名

資格試験合格者 (2022年度)		
司法書士		1名
税理士試験 (消費税法)		1名
// (財務諸表論)		1名
// (簿記論)		3名
宅地建物取引士		5名
MOSエキスパート (365&2019)		1名
リテールマーケティング (販売士) 検定	1級	1名
基本情報技術者試験		1名
FP技能検定	2級	8名
	3級	11名
日商簿記検定	2級	11名
	3級	14名
TOEIC (500点以上)		12名
秘書技能検定	2級	2名
ITパスポート		2名
法学検定ベーシック		1名
リテールマーケティング (販売士) 検定	3級	1名
日本語能力試験	N1	9名
	N2	12名
世界遺産検定	3級	2名

(注) 岡山商科大学資格取得支援制度の詳細については社会総合研究所までお問い合わせください。

資格試験講座一覧

日商簿記検定 (初級) 講座
日商簿記検定 (3級) 講座
宅地建物取引士講座 (通学)
MOS 対策講座 (Excel) (Word)
日本語能力試験対策講座 (e-ラーニング)
WEB 資格講座 (提供: 株式会社 E-prost)

各教員による勉強会

リテールマーケティング (販売士) 検定勉強会
FP 技能検定勉強会



合格者の声

祝

司法書士合格

法学部法学科 4年
松本 光太郎

自由業であることや廃業率の低さから魅力を感じて司法書士を目指しました。プレッシャーもありましたが合格した時は、ほっとしました。

大学の講義がある日は、図書館二階の席で勉強していました。資格試験が終わった後も度々そこを利用しますが、自分と同じように図書館で、空きコマを利用して勉強している学生を見かけます。ぜひ報われてほしいなと陰で応援しています。それ以外の日は、主に専門学校で勉強していました。専門学校の講義はかなりボリュームで、消化不良になることもありましたが、講師を信じてついていきました。資格試験合格の要因は、専門学校を利用したことです。

いわゆる「難関資格」を目指す際には、専門学校等の学外講座を受講することが合理的かと思います。既に勉強のノウハウがあれば独学でも不可能ではないですが、その道のプロである専門学校の講師の指示に従ったほうが確実だと思います。そして商大塾もそれを推奨しており、具体的には提携先の受験指導の専門学校の受講料割引制度により通常より安く専門学校に通



える場合があります。また、学内試験対策講座、支援金制度などの学習支援も充実しています。在学生の方で資格等に興味がある方は、一度、商大塾に受講相談をしてみてください。

最後に、たくさんの方のおかげで結果を出すことができました。特に、3年時にお会いし、勉強の枠を超えてアドバイスを下さった大学の先生や、1年生のころから切磋琢磨し、公務員試験で素晴らしい成績を収められた友達には本当にお世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。これからは司法書士の新人研修、簡裁訴訟代理等認定考査なども控えており、不安なことも多いですが、同様に周りの人の手を借りながらこれからも努力していきます。

祝

税理士試験 2 科目合格 (簿記論、財務諸表論)

経営学部経営学科 4年
赤枝 朋恭

私は有資格者だけがができるような仕事をしたいと幼少期から思っており、高校の時に学んだ簿記が自分と相性が良かったことから税理士を目指すようになりました。簿記はやればやるほどに理解が深まっていき、楽しいと感じてきます。原文をそのまま暗記しようとするのではなく、小学生でも分かるように噛み砕いて理解することを重視し、勉強を重ねたことで合格することができたのだと思います。問題集を解いていて正解していた時には喜びつつ何故正解したのかを復習し、不正解の場合には煩わしくも思いながら疑問が解消するまで向き合う。問題に対して一喜一憂していたことで理解が深まっていったのではないかと思います。

合格者の方は皆さん言われていますが、やはり問題をひたすらに解いていくことが合格までの最短経路だと思います。私は勉強が苦手なタイプであり、できるだけ勉強から離れたかったです。そこで、テキストを開いて嫌でも目に映る場所に置いておく。これを行ったことで自分を焦らせ、勉強するように仕向けていました。一日一問でもいいから継続して毎日勉強することが大切



だと感じています。

税理士試験は全て問題を解く必要がない試験であり、相対評価で合否が決まります。それ故、問題の取捨選択が非常に重要であるため、わからないところは潔く切り捨てる度胸も必要です。逆に言うと、他の受験者の正答率が高そうなところを正確に埋めていけば合格できる試験でもあるため、頻出論点や重要論点は十分すぎるほど勉強しておくのがおすすめです。

今回、私が合格した簿記論、財務諸表論は税理士資格取得のためのスタートに過ぎず、これからも努力を惜みず、勉強を続けていきたいと思っています。

この記事をごここまで見てくださった方も、何かに挑戦しようと思ったら今からでも始めてみてください。これからの人生で一番若い日は今です。ぜひとも諦めず、自分自身を成長させてみてはいかがでしょうか。

社会総合研究所後援会役員会を対面形式で開催

社会総合研究所 次長 吉良 友人

2023年2月28日、社会総合研究所後援会役員会を岡山プラザホテルにて3年ぶりに対面形式で開催することができました。後援会理事のみなさまをお招きし、社会総合研究所や各学部、産学官連携センター、全学共通プログラムの活動と展望についての報告を行いました。そして、これに対して理事のみなさまからは貴重なご意見・ご要望を賜りました。

特に印象的だったのは、データサイエンス・リテラシー（DSL）教育プログラムへのご意見やご期待の声が多くあったことです。やはり、この点についてはこれからの社会で必要不可欠であるという共通認識があるように感じました。ただし、理系の力だけでは不十分であり、文理融合の総合知を備えることが必要であるというご発言もありました。

また、学生ともっとマッチングしたい、女性の力がまだまだ生きていないなどのご意見もあり、学内の各組織がこれまで以上に連携し、地域社会のみなさまとの関係や学生への教育の強化を図る必要があると再確認いたしました。

第一線でご活躍中のみなさまから貴重な生の声をお聴きすることができましたので、これを参考にして社会総合研究所もこれまで以上に力をいれて活動していく所存でございます。

岡山商科大学社会総合研究所後援会役員名簿（2023年3月）（敬称略）（理事は五十音順）

代表理事	岡崎	彬	岡山ガス株式会社	代表取締役会長
理事	秋山	進彦	倉敷化工株式会社	相談役
理事	木谷	忠義	株式会社さえら	代表取締役会長
理事	黒住	宗道	黒住教	教主
理事	小嶋	光信	両備ホールディングス株式会社	代表取締役会長兼 CEO
理事	近藤	弦之介	太陽綜合法律事務所	代表弁護士
理事	斎藤	和好	株式会社天満屋	代表取締役社長
理事	永山	久人	下津井電鉄株式会社	代表取締役社長
理事	服部	弘平	服部興業株式会社	代表取締役会長
理事	原	憲一	RSK 山陽放送株式会社	取締役相談役
理事	松岡	徹	旭電業株式会社	代表取締役社長
理事	宮長	雅人	株式会社中国銀行	取締役会長



所長挨拶

2022 年度活動報告

社会総合研究所 所長 海宝 賢一郎



2022年度もコロナ禍の影響を受け、フィールドスタディ等の地域と連携した活動におきましては厳しい状況が続きましたが、人数制限等の感染症対策を講じることで実施できたものが増えました。このことは、本学の学生および地域の関係者にとって多少の進歩はあったものと感じております。

慶應MCC主催の夕学講座は、前々年度から個別配信（オンライン）という形式に変更され、本年も同様に開催されました。主催者側のご配慮によって、本学限定での割引制度を設けていただき、割安での講座提供ができたことに感謝申し上げます。最先端の講座を手軽に聴講できるよう、引き続き慶應MCCとの連携を図り開催して参ります。

学生の資格取得については、FP技能検定試験や日商簿記検定試験の受検者数は増加し、中でも多数の2級FP技能検定試験の合格者が出たことは、FP関連科目の履修者が授業で学んだ知識をもとに、しっかりと受検対策をした結果が反映されたものと考えます。また、国家資格については、税理士の科目合格者が延べ5名、宅地建物取引士合格者は5名と、毎年のように合格者が出るようになり、本年度は司法書士の合格者も出ました。資格取得に向けダブルスクールで頑張った結果が合格に結びついたことは嬉しい限りです。

次年度も、地域との連携、学生への資格取得支援等、当研究所の役割を果たせるよう、努力を重ねて参りますので、引き続きよろしくお願い致します。

最後になりましたが、当研究所後援会の役員会につきましては、3年ぶりに開催することができました。日頃よりご協力いただいております代表理事の岡崎彬様をはじめ、理事の皆様にはこの場をおかりして御礼申し上げます。

岡山商科大学社会総合研究所後援会について

趣 旨

社会総合研究所は、地域社会の発展に寄与することを目的に設立された岡山商科大学の附属機関です。

事 業

社会総合研究所は「研究」、「資料収集」、「学生学習支援」の他に、対外的な4つの事業を遂行しています。

- 公開講演会・「慶應 MCC 夕学講演会」夕学オンライン・商大講座・通信教育講座
- 大学公開事業の開催
- 岡山商科大学学園誌『商大レビュー』の発行
- 地域社会の当研究所に対するニーズの把握

後援会組織

社会総合研究所設立趣旨の徹底を図るために後援会が設けられています。現在の後援会役員は次の通りです。

- 理事 岡崎 彬（代表）、秋山 進彦、木谷 忠義、黒住 宗道、小嶋 光信、近藤 弦之介、斎藤 和好、永山 久人、服部 弘平、原 憲一、松岡 徹、宮長 雅人（敬称略、五十音順）

会 費

無料です。

会員の特典

会員は、下記の特典が受けられます。

1. 『商大レビュー』等の希望者無料配布
2. 「岡山商科大学公開講演会」、「商大講座」や「夕学オンライン」等、大学公開活動の開催についてのご案内

お問い合わせ

岡山商科大学社会総合研究所
〒700-8601 岡山市北区津島京町 2-10-1 電話 & FAX : 086-256-6656
URL : <https://www.osu.ac.jp/society/organization/>

附属経営研究所・社会総合研究所 1972(昭和47)年創設以降の活動経緯

1. 後援会理事・幹事 (氏名のみ記載をしています)

1989年 から	代表理事	伊原木 一衛						
	理事	秋山 政彦	稲葉 侃爾	河内山 重高	林原 健	藤田 正藏		
	代表幹事	佐藤 重雄						
	幹事	石田 祥史	岡崎 彬	木谷 忠義	黒瀬 知周	武田 修一	永山 久也	服部 弘平
1993年 から	代表理事	伊原木 一衛						
	理事	秋山 政彦	稲葉 侃爾	河内山 重高	林原 健	藤田 正藏		
	代表幹事	佐藤 重雄						
	幹事	石田 祥史	岡崎 彬	木谷 忠義	黒瀬 知周	近藤 弦之介	武田 修一	永山 久也
2001年 から	代表理事	岡崎 彬						
	理事	伊原木 一衛	稲葉 侃爾	石井 稔	秋山 政彦	藤田 正藏	小嶋 光信	
	代表幹事	永山 久也						
	幹事	石田 祥史	武田 修一	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久	
2003年 から	代表理事	岡崎 彬						
	理事	伊原木 一衛	稲葉 侃爾	大倉 徹彦	秋山 政彦	藤田 正藏	小嶋 光信	
	代表幹事	永山 久也						
	幹事	石田 祥史	武田 修一	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久	
2004年 から	代表理事	岡崎 彬						
	理事	伊原木 一衛	稲葉 侃爾	大倉 徹彦	秋山 政彦	藤田 正藏	小嶋 光信	
	代表幹事	武田 修一						
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久	松本 光雄	永山 久人	
2005年 から	代表理事	岡崎 彬						
	理事	伊原木 一衛	稲葉 侃爾	大倉 徹彦	藤田 正藏	小嶋 光信	秋山 進彦	
	代表幹事	武田 修一						
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久	松本 光雄	永山 久人	
2008年 から	代表理事	岡崎 彬						
	理事	伊原木 一衛	稲葉 侃爾	藤原 隆昭	藤田 正藏	小嶋 光信	秋山 進彦	
	代表幹事	武田 修一						
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久	松本 光雄	永山 久人	
2010年 から	代表理事	岡崎 彬						
	理事	伊原木 一衛	永島 旭	藤原 隆昭	藤田 正藏	小嶋 光信	秋山 進彦	
	代表幹事	武田 修一						
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久	松本 光雄	永山 久人	
2012年 から	代表理事	岡崎 彬						
	理事	伊原木 一衛	永島 旭	原 憲一	藤田 正藏	小嶋 光信	秋山 進彦	
	代表幹事	武田 修一						
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久	松本 光雄	永山 久人	
2013年 から	代表理事	岡崎 彬						
	理事	伊原木 一衛	永島 旭	原 憲一	小嶋 光信	秋山 進彦		
	代表幹事	武田 修一						
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久	松本 光雄	永山 久人	
2014年 から	代表理事	岡崎 彬						
	理事	伊原木 一衛	宮長 雅人	原 憲一	小嶋 光信	秋山 進彦		
	代表幹事	武田 修一						
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	松本 光雄	永山 久人		
2017年 から	代表理事	岡崎 彬						
	理事	伊原木 一朗	宮長 雅人	桑田 茂	小嶋 光信	秋山 進彦		
	代表幹事	武田 修一						
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	松本 光雄	永山 久人		
2018年 から	代表理事	岡崎 彬						
	理事	江國 成基	宮長 雅人	桑田 茂	小嶋 光信	秋山 進彦		
	代表幹事	武田 修一						
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	永山 久人			

創設以降の活動経緯

2020年 から	代表理事	岡崎 彬					
	理事	江國 成基	宮長 雅人	桑田 茂	小嶋 光信	秋山 進彦	
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	永山 久人		
2021年 から	代表理事	岡崎 彬					
	理事	秋山 進彦	江國 成基	木谷 忠義	黒住 宗道	小嶋 光信	近藤 弦之介
		永山 久人	服部 弘平	原 憲一	松岡 徹	宮長 雅人	
2022年 から	代表理事	岡崎 彬					
	理事	秋山 進彦	木谷 忠義	黒住 宗道	小嶋 光信	近藤 弦之介	斎藤 和好
		永山 久人	服部 弘平	原 憲一	松岡 徹	宮長 雅人	

(※ 2021 年度から幹事を理事に統合 五十音順標記)

2. 主な活動

附属経営研究所	1972 (昭和 47) 年～1998 (平成 10) 年 (井尻 裕 前学長)
研究所報	1976 (昭和 51) 年～2006 (平成 18) 年 以降 休刊
後援会役員会	1989 (平成 元) 年～現在に至る
商大レポート	1990 (平成 2) 年～1992 (平成 4) 年
商大レビュー	1993 (平成 5) 年 創刊 現在に至る
岡山の起業家精神	1993 (平成 5) 年 発刊 山陽新聞社
社会総合研究所	1999 (平成 11) 年～現在に至る (井尻 昭夫 学長)
オフキャンパスセミナー (現商大講座)	1999 (平成 11) 年～現在に至る
夕学講座	2003 (平成 15) 年後期～現在に至る
商大塾	2012 (平成 24) 年～現在に至る
客員教授	2017 (平成 29) 年 4 月 近藤 一仁 氏、2018 (平成 30) 年 5 月 青山 敦子 氏 2022 (令和 4) 年 4 月 長田 貴仁 氏
特別研究員	2020 (令和 2) 年 4 月 馬場 勉 氏、2021 (令和 3) 年 4 月 小野 陽美 氏
文部科学省 私立大学研究ブランディング事業	2017 (平成 29) 年度～2019 (令和元) 年度
『寄り添い型研究』による地域価値の向上	16 研究テーマ
本学と二松學舎大学との共同研究	出版
2016 (平成 28) 年 ショッピングモールと地域	発刊 ナカニシヤ出版
2018 (平成 30) 年 フードビジネスと地域	発刊 ナカニシヤ出版
2020 (令和 2) 年 地域と大学	発刊 ナカニシヤ出版
岡山商科大学 地域研究シリーズ	
2021 (令和 3) 年 笠岡諸島における持続可能社会を基本にした振興策	発刊 ふくろう出版
2021 (令和 3) 年 令和版 北房お大師巡りマップ	発刊 ふくろう出版

3. 歴代所長・次長

年次	所長	次長
1972 (昭和 47) 年から	久川 武三	鳥越 良光
1977 (昭和 52) 年から	西岡 正雄	岡本 輝代志
1982 (昭和 57) 年から	佐伯 信之	堤 一浩 → 橘 晋介 → 知念 裕
1988 (昭和 63) 年から	国沢 信	知念 裕
1989 (平成 元) 年から	鳥越 良光	喜田 栄次郎 → 市村 巧
1992 (平成 4) 年から	岡本 輝代志	田中 勝次 → 長谷川 博史 → 伊藤 治彦
1998 (平成 10) 年から	吉尾 匡三	井上 省紀
2001 (平成 13) 年から	中井 透	矢吹 雄平 → 西 敏明 → 島田 伸夫
2007 (平成 19) 年から	大崎 紘一	川合 一央 → 成澤 寛 → 海宝 賢一郎
2020 (令和 2) 年から	海宝 賢一郎	吉良 友人

4. 事務職員

年次	職員名
1976（昭和51）年から	赤木 富子
1982（昭和57）年から	田辺 徹子
1988（昭和63）年から	瓜生 清子
1989（平成元）年から	相澤 泰憲
1991（平成 3）年から	相澤 泰憲 伍賀 千恵
1993（平成 5）年から	相澤 泰憲 仲原 修 伍賀 千恵
1994（平成 6）年から	長宗 繁 仲原 修 河合 俊隆 伍賀 千恵
1995（平成 7）年から	長宗 繁 河合 俊隆 大倉 京子
1997（平成 9）年から	長宗 繁 大倉 京子 中村 裕
1998（平成10）年から	大倉 京子 中村 裕
1999（平成11）年から	相澤 泰憲 大倉 京子 中村 裕
2000（平成12）年から	相澤 泰憲 大倉 京子 三宅 英児
2001（平成13）年から	安田 角治 大倉 京子 三宅 英児
2004（平成16）年から	伍賀 千恵 中村 裕
2009（平成21）年から	中村 裕 橋本 真記
2014（平成26）年から	中村 裕 中川 尚子
2019（令和 元）年から	中村 裕 中川 尚子 三浦 美由紀
2021（令和 3）年から	中村 裕 西谷 諭 大上 紗央莉
2022（令和 4）年から	中村 裕 西谷 諭 上田 陽子



編 集 後 記

本年度も商大レビュー第32号を無事に刊行することができました。ご協力いただいた方々に改めて感謝を申し上げます。

本年度は、新型コロナウイルスの感染者数自体は増加しましたが、その反面、多くの人が心情的には以前ほど感染を脅威に感じなくなった1年であったように思います。これが良いことなのかどうかは個人の意見が分かれるところではありますが、私の周りの雰囲気を見ていると、感染対策はしつつも少しずつ以前の生活が戻ってきています。ビジネス面においては、出社する機会が増えた企業も多いのではないのでしょうか。オンラインのほうが良い場面もあるけれど、対面の大切さも実感したという話も耳にします。これからは対面とオンラインを上手く使い分けて、より効率的に高いパフォーマンスを出すようなバランスの模索が大事になってくるのではないかと思います。

本学においても様々な面で以前の姿が戻ってきました。特に3年ぶりに通常開催された大学祭は大成功だったといえるでしょう。大学祭実行委員会の学生たちが膨大な時間を準備に費やし、朝早くから夜遅くまで頑張っている姿から、大学祭を盛り上げたいという熱い想いがひしひしと伝わってきました。当日は各ゼミをはじめとして多くの団体が模擬店を出し、そのほかにも岡山県警音楽隊や吹奏楽部による演奏、パトカー・白バイ乗車体験、軽音楽部LIVE、カラオケバトル、プレゼント抽選会など、様々な催しで盛り上がりを見せていました。学生達も大学祭を通して多くの人と交流でき、とても生き生きとした表情で楽しんでいました。

また、資格の面でも良い成果がでており、ここ数年の税理士試験や宅地建物取引士試験の合格者数増加に加え、本年度は司法書士試験に合格する学生もできました。勉学とそれ以外の両面で良い方向に向かっているように思います。

2023年5月8日から新型コロナウイルスが5類に移行し、これがどのような影響を及ぼすのかは分かりませんが、社会総合研究所は感染には十分注意しながらも活動の幅を広げていくことができればと思っております。引き続き、よろしく願い申し上げます。(Y)

商大レビュー

Shodai Review

Vol.32
2023.3

発行／岡山商科大学

〒700-8601 岡山市北区津島京町2丁目10-1

TEL.086-252-0642 (代)

FAX.086-255-6947

ISSN 1340 2315

編集／岡山商科大学社会総合研究所

TEL.086-256-6656

レイアウト・制作／友野印刷株式会社

岡山商科大学「商大 Blog」

<http://sangakukan2.osu.ac.jp/>

公開講座や夕学講演会、フィールドスタディなど、「大学の今」を随時、掲載中!!



©掲載された記事へのご意見・ご感想等がございましたら E-mail:syaken@po.osu.ac.jp まで



Okayama Shoka University

